

財政白書

平成 2 2 年度版

平成 22 年 10 月

成 田 市

財 政 白 書

発 行 成田市

編 集 財政部財政課

〒286－8585

成田市花崎町 760 番地 TEL22-1111

発 行 日 2 0 1 0 ・ 1 0

登録番号 成財—1 0—0 3 4

はじめに

日本経済は、一昨年来の世界同時不況の中で国内総生産についてはプラスとなりつつありますが、依然としてデフレ状況下であり、有効求人倍率が低迷するなど、経済情勢は改善の兆しが見えない状態が続いています。

一方、地方財政は、依存財源が削減される傾向にあるうえに、景気の後退による地方税収入が大幅に減少する中で、社会保障関係経費や公債費をはじめとする義務的経費が増加する傾向にあり、日本経済と同様に極めて厳しい状況にあります。

本市の財政状況は、地方財政が厳しい状況下にあっても、現在のところ健全化判断比率等の財政指標が示すように健全性が保たれておりますが、都市基盤の整備、空港関連事業の推進、生活環境施設整備、少子高齢化対策など、市の発展に欠かすことのできない諸事業が続いているため、今後も多額の財政負担が予想されることから、将来にわたってまで楽観できる状況ではありません。

こうした状況の中、平成 22 年度予算では「住んで良し、働いて良し、訪れて良し」の空の港町成田の実現、生涯を完結できる街の創造に向けて、最終年度を迎える「総合 5 か年計画' 06」の計画事業を遂行するとともに、平成 23 年度からの次期実施計画を視野に入れ、将来にわたって持続可能な財政構造を構築するため、一層の経費節減に努め、効率的かつ効果的な予算編成を行いました。

この「財政白書」では、平成 22 年度予算や平成 21 年度決算（見込み）を中心に、各種財政指標による分析や類似団体等との比較を行うなど、市財政の状況をできるだけわかりやすく解説し、財政情報を身近なものとしていただけるようにとりまとめました。

市民の皆様には、本市の財政について一層のご理解と、ご協力をいただけますようお願いいたします。

成田市長 小 泉 一 成

第 1 章 成田市の概況

第 1 節 成田市の概況

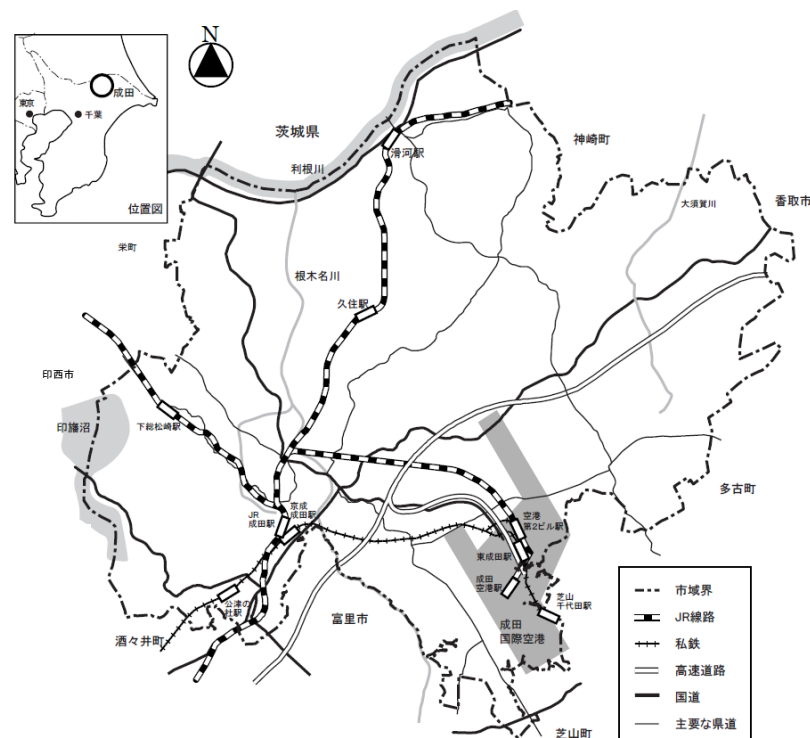
1) 土地

・ 位置及び面積

本市は、千葉県北部中央の北総台地に位置し、北は神崎町、利根川を隔てて茨城県、西は栄町、印旛沼を隔てて印西市、南は酒々井町、富里市、芝山町、東は多古町、香取市に接しています。

市域面積は、213.84k m²で県土の約 4.1%を占め、東西 20.1 km、南北 19.9 kmに及んでいます。

第 1 図 成田市の位置



・ 土地利用

第 1 表 土地利用

(各年 1 月 1 日現在、単位:千m²)

地 目	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年
宅地	23,093	23,875	24,101	24,277	25,033 (11.7 %)
田	44,209	44,100	44,072	44,049	43,961 (20.6 %)
畑	35,596	35,176	35,018	34,929	34,698 (16.2 %)
山林	41,500	41,250	41,298	41,317	41,262 (19.3 %)
原野	5,615	5,567	5,520	5,502	5,436 (2.5 %)
池沼	588	596	596	595	591 (0.3 %)
牧場	386	394	449	449	459 (0.2 %)
雑種地	49,606	49,695	49,980	50,009	44,391 (20.8 %)
その他	13,247	13,187	12,806	12,713	18,009 (8.4 %)
総数	213,840	213,840	213,840	213,840	213,840 (100.0 %)

※ () 内は構成比。平成 17 年は合併前の旧下総町・旧大栄町を含む。

2) 沿革

市内猿山から発掘されたナウマン象の頭骨化石は、約 15 万年前の旧石器時代のものと推定され、学術的に貴重な発見となり、また、三里塚遺跡から発見された先土器時代の楕円形石器は約 3 万年以前に使われた石器で、成田の黎明期を飾る貴重な遺物として注目されています。

後続する縄文・弥生時代にも厳しい自然を克服した原始・古代の成田人の足跡を貝塚や遺跡の中に見出すことができ、根本名川周辺台地、北印旛沼東岸台地及び大須賀川周辺台地に群在する多くの古墳は、成田が古代印波国や下海上国の中心地であったことを物語っています。

律令体制時代の成田は、埴生郡、印旛郡、香取郡に属し、山方、荒海、真敷などに駅（うまや）が設けられるなど、古代交通の要地でもありました。

平安中期、常総の地を揺るがした平将門の乱を鎮めるため、寛朝大僧正によって成田山新勝寺が開山され、成田は法灯絶ゆることのない霊地となりました。鎌倉時代には、この辺りを治めていた大須賀氏に招かれた僧侶真源によって慈恩寺（現在の大慈恩寺）が再興されました。また、室町時代に再建された滑河観音にある仁王門は、国の重要文化財となっています。

中世の成田は、下総千葉氏及び系累の支配下に入り、徳川政権下では佐倉藩、高岡藩、田安家、幕府領、旗本領などが入り組んだ中にありました。

明治 4 年の廃藩置県後、数度にわたる所管の郡の変遷がありましたが、昭和になってから印旛郡、香取郡の所管に入り、昭和 29 年 3 月 31 日、町村合併促進法によって成田町、公津村、八生村、中郷村、久住村、豊住村、遠山村の 1 町 6 か村が合併して成田市が誕生、さらに平成 18 年 3 月 27 日には下総町、大栄町と合併しました。

日本の空の表玄関、成田国際空港は、昭和 41 年 7 月 4 日の設置決定から幾多の紆余曲折を経て、昭和 53 年 5 月 20 日に開港し、更に、平成 14 年には暫定平行滑走路が供用開始し、現在では日本を含む 39 カ国 3 地域 74 社の航空機が乗り入れ、平成 21 年度は発着回数 187,051 回（1 日平均 512 回）、航空旅客数は年間 3,285 万人となっています。市制施行当時 45,075 人だった人口も今や 126,098 人（平成 22 年 3 月 31 日現在）となり、かつての田園観光都市から、信仰のまちとしての顔と、交通、経済、文化の様々な分野で国際交流の拠点として、国際交流都市の顔をもつまちへと大きく変貌しています。

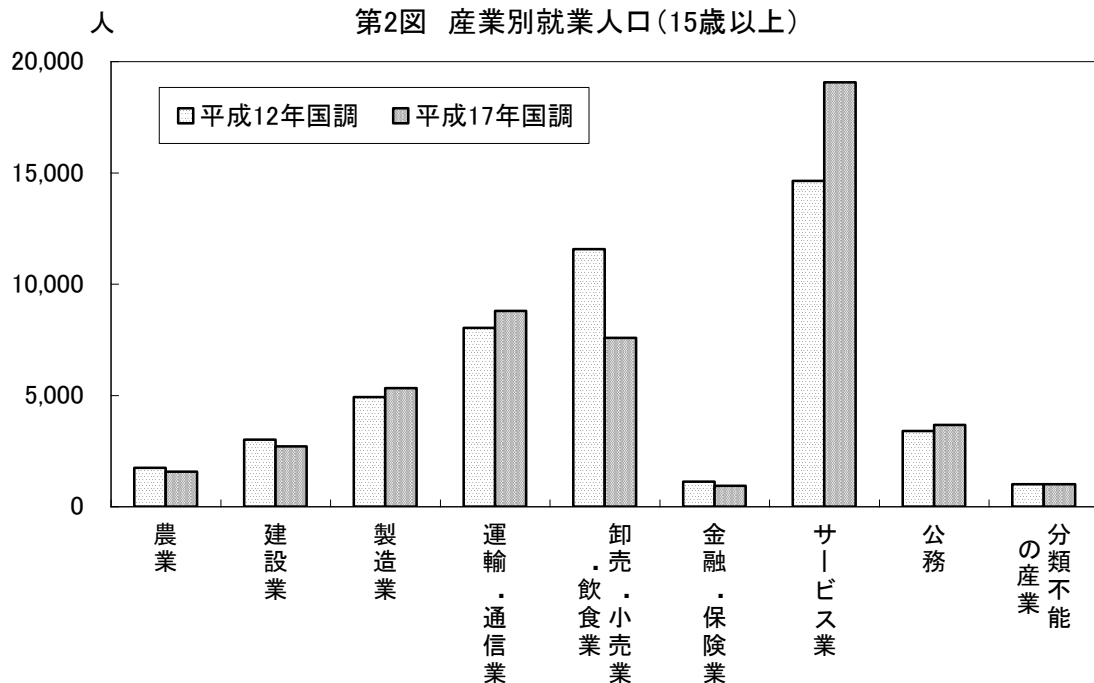
3) 人口

・産業別人口

第2表 産業別人口（15歳以上）

		平成12年国勢調査		平成17年国勢調査	
		総数(人)	構成比(%)	総数(人)	構成比(%)
第1次	農業	1,734	3.46	1,571	3.04
	林業	2	0.00	3	0.01
	漁業	10	0.02	11	0.02
	計	1,746	3.48	1,585	3.07
第2次	鉱業	21	0.04	8	0.02
	建設業	3,013	6.00	2,709	5.25
	製造業	4,921	9.81	5,320	10.31
	計	7,955	15.85	8,037	15.58
第3次	電気・ガス・熱供給・水道業	272	0.54	225	0.44
	運輸・通信業	8,029	15.99	8,797	17.06
	卸売・小売業・飲食業	11,567	23.04	7,578	14.69
	金融・保険業	1,128	2.25	942	1.83
	不動産業	463	0.92	671	1.30
	サービス業	14,639	29.17	19,064	36.96
	公務	3,394	6.76	3,668	7.11
	計	39,492	78.67	40,945	79.39
分類不能の産業		1,005	2.00	1,009	1.96
総数		50,198	100.00	51,576	100.00

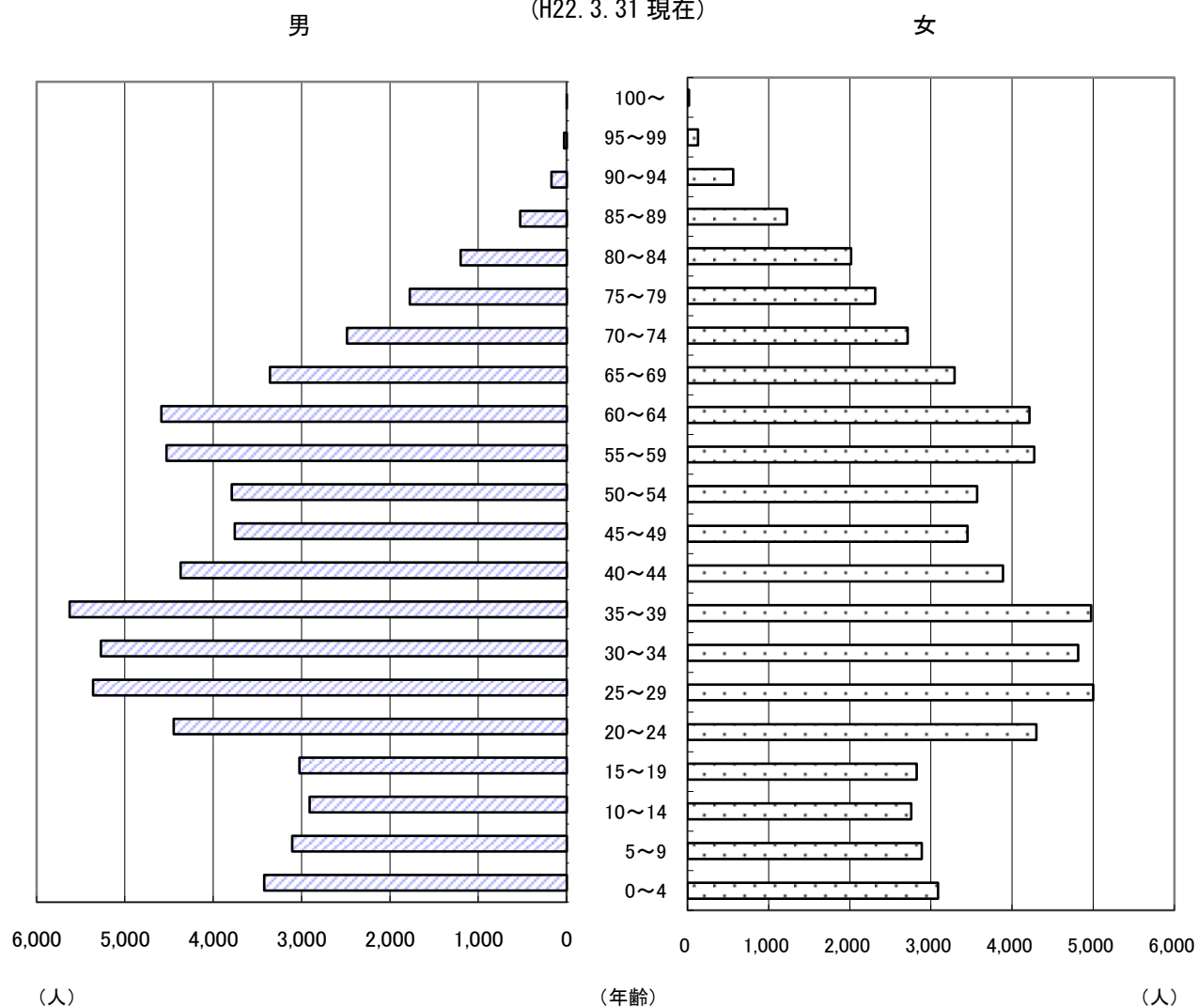
第2図 産業別就業人口（15歳以上）



・男女別人口

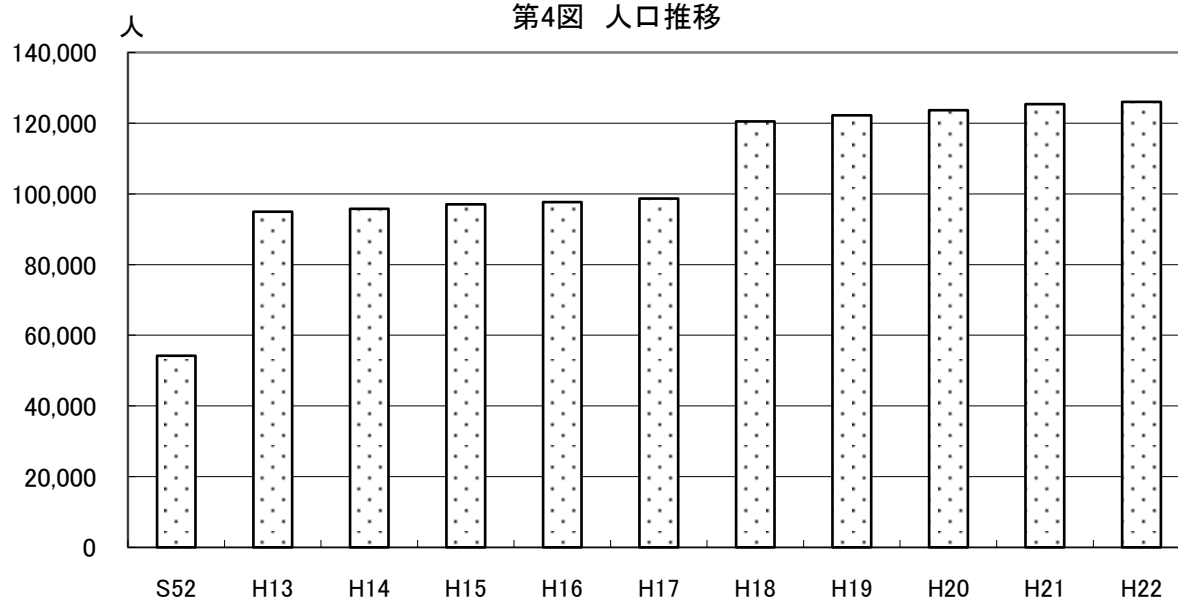
第3図 男女別人口

(H22. 3. 31 現在)



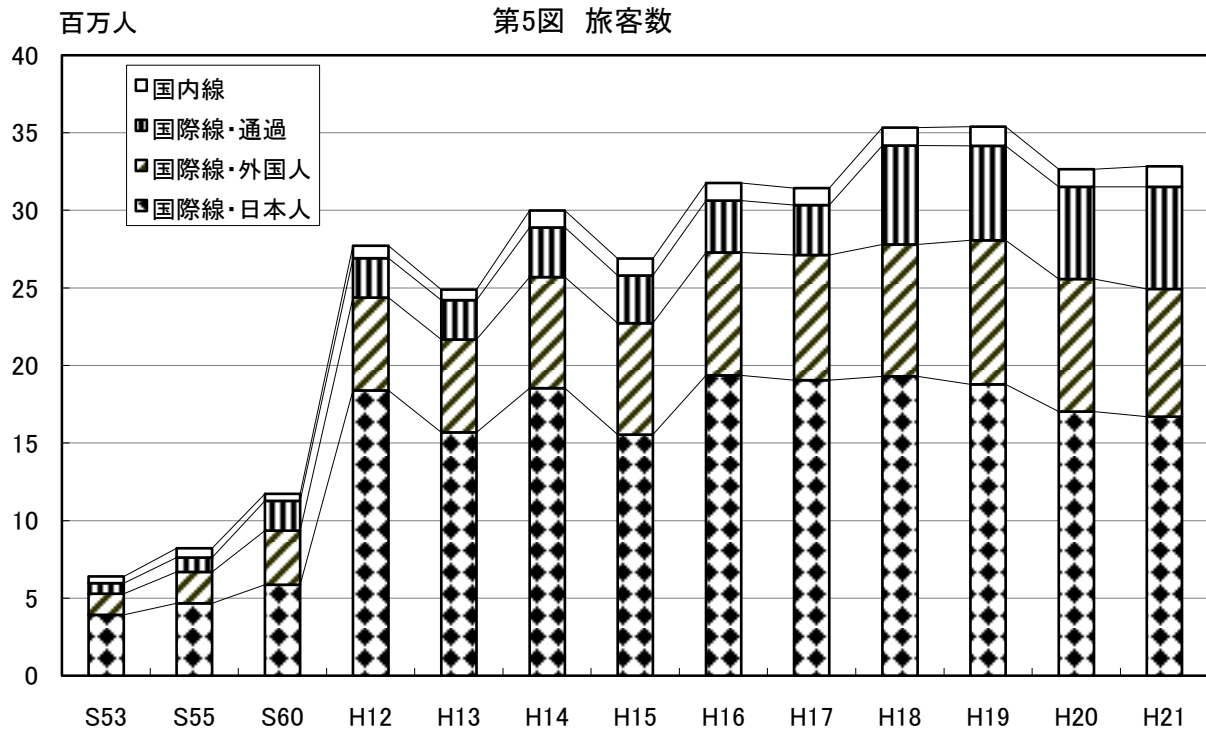
・人口推移

第4図 人口推移

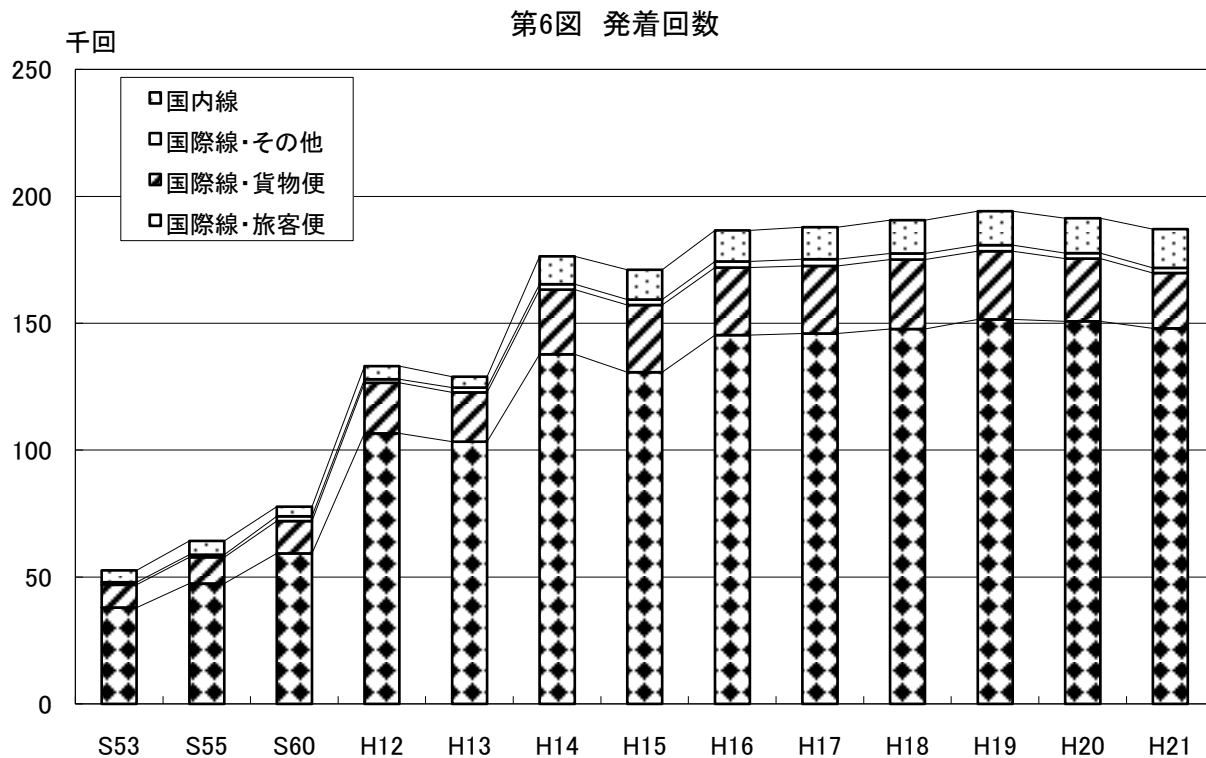


4) 成田国際空港の利用状況

・旅客数

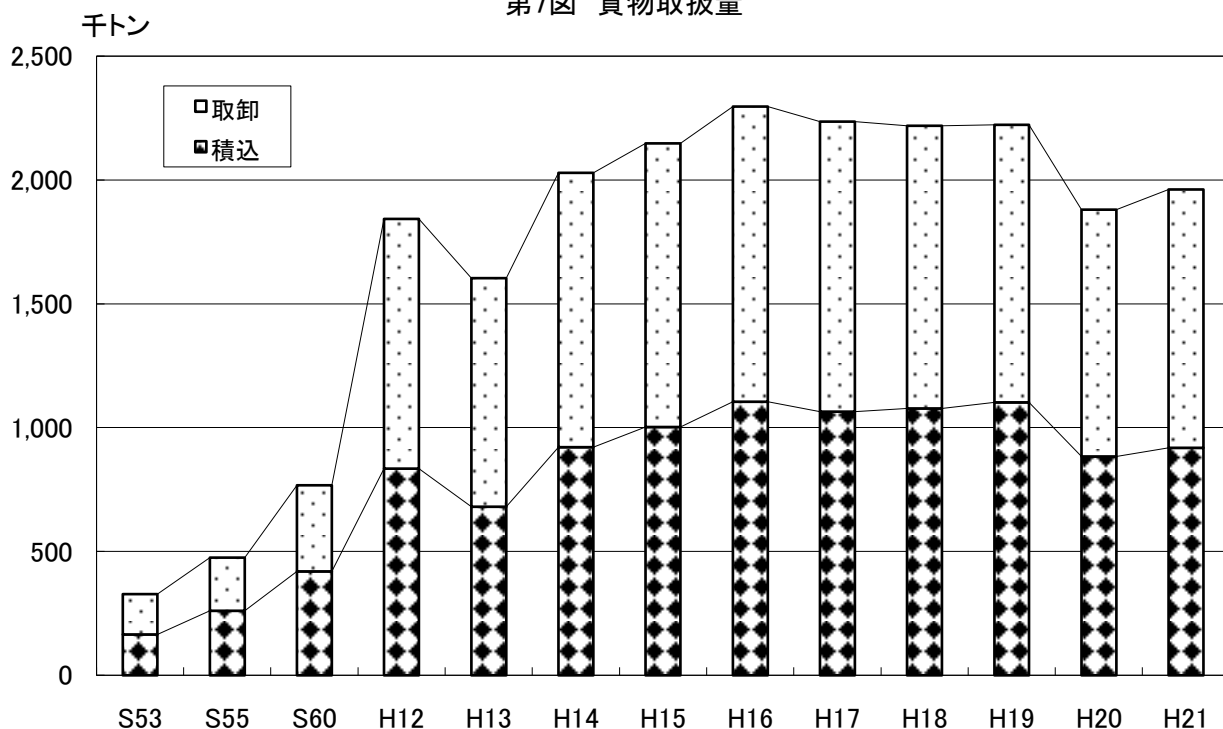


・発着回数



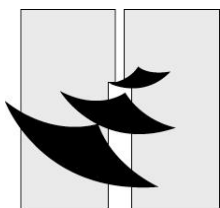
・ 貨物取扱量

第7図 貨物取扱量



市章

成田の頭文字「N」を人の姿に重ね合わせたイメージをデザインし、四肢の伸びは躍動感と疾走感、中央の赤は成田市民の熱い情熱、また、「NARITA」は日本と世界との交流拠点としての国際空港都市を表し、成田市の明るい未来への飛躍と更なる繁栄への願いが込められています。(平成 18 年 4 月 29 日制定)



シンボルマーク

市制 40 周年を記念してシンボルマークを制定しました。

歴史的な門前町の門の字と成田の頭文字 n を背景にして、本市の基本理念“自然、健康、愛情”あふれる未来の姿と成田空港へさまざまな国から飛来するイメージを三つの翼で表し、門前町の“静”と空港都市の“動”を象徴化したものです。

(平成 6 年 4 月 1 日制定)



市の木 梅

千葉国体の記念事業の一環として成田市の木に“梅”が選定されました。また、昭和 48 年より結婚を記念して市民課窓口で苗木をプレゼントしています。(昭和 46 年 4 月指定)



市の花 あじさい

市制 40 周年を記念して、誰もが親しみやすく栽培しやすい成田市のシンボルとなる花に“あじさい”が選定されました。(平成 6 年 4 月 1 日指定)

第2章 平成22年度当初予算

第1節 当初予算概要

1) 予算編成方針

我が国の経済は、昨年来の世界的な不況の波に飲み込まれ、広範囲にわたる企業の収益悪化は、雇用環境の悪化を招き、さらに、内需の縮小へと波及する悪循環から容易に抜け出せない深刻な状況となっている。

ここにきて、最大の貿易相手国である中国の復調傾向や国による景気刺激策等により、市場や一部製造業等では、底打ち感が見られるものの、現実の失業率は5%台という戦後最悪の水準にあり、千葉県の有効求人倍率も平成21年7月には0.4となり、全国平均の0.42を下回る依然として厳しい状況が続いている。

このような社会状況のなかで行われた国政選挙において、政権政党が交代し、新たな政府の下、この閉塞感からの脱却が望まれるところである。新政権の具体的な政策については、これから明らかになるところであるが、公共事業等にかかる使途を特定した補助金等を全廃し、それに代わる一括交付金に関しては、地方交付税制度との統合も含めた新たな財政調整・財源保障制度を創設し、基礎的自治体間の財政格差の是正のため、自治体の財政力を考慮した配分を行うことなどが示されている。この新制度の施行後はもちろん、それまでの間における地方財源の配分に際しても、全国上位に位置する本市の財政力指数を見れば、これまでの国庫支出金の水準が保障されるものではないことが予想される。

本市の財政状況は、健全化判断比率等の財政指標においても健全性を保っているところではあるが、このように依存財源が削減される傾向にある上に、現下の経済情勢の影響を受けて、当面、自主財源である法人市民税においては、大幅な減収が見込まれる。一方、歳出面では、義務的経費は引き続き増加傾向にあって、少子・高齢化対策、地域医療対策、地域経済対策、成田空港関連事業等の本市が取り組むべき課題が山積し、加えて新清掃工場整備事業、駅前再開発事業等の都市基盤の整備や学校適正配置事業等多額の財政負担を伴うビッグプロジェクトを遂行していかなければならない状況にあることから、本市の財政を取り巻く状況は、将来にわたってまで楽観できるものではない。

したがって、平成22年度の予算編成においては、「生涯を完結できる街づくり」の実現に向けて、最終年度を迎える「総合5か年計画'06」の計画事業を遂行するとともに、平成23年度からの次期実施計画を視野に入れ、将来にわたって持続可能な財政構造を構築し、重点施策の着実な実施を担保するために、財政の健全性を維持する現状に驕ることなく、より一層の経費節減に努め、市民ニーズを的確に反映した効率的・効果的な予算を編成していくものとする。

1 総括事項

(1) 年間予算の編成

予算編成に当たっては、国、県及び経済の動向に注意し、総計予算主義の原則に基づき予定される収入支出を的確に把握し、関係部課と密接な連絡を図りながら年間予算の編成を行うこと。

また、年度途中の補正は、制度の改正に伴うもの、災害関係費等緊急なもの又は当初予算編成の段階で特に協議したもののほかは行わない方針である。

(2) 現行行財政制度による編成

新政権の発足直後であり、国の予算編成の新たな基本方針が、これから決定されようとする時期にあたるため、原則として現行行財政制度に基づき編成する。ただし、国の政策決定がなされたものや、国、県の予算案等が判明したものについては、予算編成途中で修正する。特に、歳入における補助負担金の新設や削減、廃止等、また、歳出における扶助費等の新設等については、

国、県の動向を注視し、情報収集を的確に行うこと。

なお、条例等制度の改正が前提となるものについては、予算編成と並行して庁議等に諮ること。

(3) 「総合5か年計画'06」との整合

予算と「総合5か年計画'06」との整合を図り、計画の達成に留意すること。計画外の事業については、次期実施計画との調整を前提として、事前に企画政策課と協議すること。

(4) 行政改革大綱等の予算編成への活用

成田市行政改革集中改革プランの実施項目を予算編成に生かすとともに、職員一人一人が事業に対するコスト意識を再認識し、経費の削減に努めること。

(5) 事務事業評価等の予算への反映

事務事業評価及び市民満足度アンケートにおける評価及び意見並びに議会、監査委員の意見については、十分に参酌し、早期に対応すべきものについては、予算に反映させること。

(6) 経常的経費に係る予算編成権とインセンティブ措置

経常的経費に属する事業費については、各部局に配当するので、部局長のリーダーシップの下、PDCAサイクルを念頭に置き、各事務事業について、必要性、緊急性、費用対効果等あらゆる角度から再検証し、自ら工夫した予算編成を行うものとする。

また、各部局に配当した経常的経費に係る一般財源を削減し、その財源を新規事業又は事業拡大に充てる場合は、その事業に係る予算額を優先的に措置するものとする。

(7) 特別会計の財政運営

特別会計においては、設置目的に従い経営の合理化と経費の節減に努め、財源の確保を積極的に図り、一般会計からの繰入れについては、その繰出基準の範囲内とすることを基本とする財政運営の確保を図ること。

2 個別的事項

(1) 歳入に関する事項

① 市税

制度改正、経済動向を十分に勘案し、確実かつ最大限の年間収入見込み額を計上すること。

特に、税負担の公平を期するため課税客体の完全捕捉と徴収率の一層の向上に努めること。

② 地方交付税、地方譲与税、交付金

国の予算編成状況と地方財政計画策定の方角を見極めて、的確な収入見込みを計上すること。

③ 国庫支出金、県支出金

事務事業の緊急度とその効果を十分検討し、補助金ということから安易に受け入れることなく主体的な判断に基づき取捨選択のうえ計上すること。

また、新年度から大きな改変が予測される国・県補助負担金であるので、その廃止、縮減等の状況把握に努め、関係機関と十分連絡をとり、的確な見積りを行うものとする。

④ 分担金、負担金、使用料、手数料、諸収入

総体的に住民サービスの向上を図るためには、受益者に応分の負担を求めることは、重要な要素であることを十分に認識し、住民負担の公平性の確保の観点と受益者負担の原則に立って、関係事務事業費の動向に即応して見直しを行い、公正な費用負担の確保に努め、見直し後の年間収入見込み額を計上すること。

また、未収金については、積極的な徴収対策を講じ、その解消に努めること。

⑤ 市債

市債の活用にあたっては、適債性、将来の財政負担を十分検討のうえ、基礎的財政収支を意識して見直しを行うものとする。

⑥ その他

零細又は捕捉困難な収入についても、なおざりにすることなく収入の増加に努めること。また、市が所有している財産の有効活用、不要な物品の売却あるいは広告収入等の新たな収入源の発掘に努め、財源の確保を図ること。

(2) 歳出に関する事項

事務事業の徹底的な見直しを行い、“最少の経費で最大の行政効果”をあげることが目標とすることはもとより、公と民の適切な役割分担が確保されているか、事業の果たす役割が終了していないかなど改めて検証を行い、執行経費の公平性、透明性に十分留意のうえ計上すること。

① 人件費

職員の適正な配置及び事務の簡素化、合理化を推進すること。

② 物件費等

旅費や物件費等の消費的経費については、徹底的に事務の洗い直しを行い、その削減に努めること。

旅費：全国的なものは、原則廃止。審議会等の視察は、必要最小限度を旨とし、隔年、日帰りを原則とする。

食糧費：必要性を再検討のうえ、削減に努めること。

図書・追録・新聞等：パソコンの普及に伴いインターネットを最大限に活用することにより情報収集に努め、図書、追録、新聞等あらゆる面において再検討し、削減すること。

維持管理委託：基本にもどり、仕様を見直すことにより削減に努めること。

③ 維持補修費

保守点検委託等の報告に留意し、施設の現況を的確に把握し、優先度の高いものから年間の枠の中で計画的に執行できるように努めること。

④ 補助金、負担金

新增設は、原則として行わないこととする。既存のものについては、改めて公益性を考査し、既に目的を達したものの、効果が少ないもの等については、積極的に整理を行い、他のものについても時限等を設けるなど、自主性・自立性を尊重する観点から、全般にわたり抜本的な見直しを行うこと。

また、各種団体に対する運営費補助金については、収益を上げることを目的とするものではないことを改めて認識し、繰越金等、その団体の収支状況を的確に把握し、慣例的な要求をすることなく、適正な額の算定に努めること。

なお、負担金は、原則として各負担金審議会の承認を得たもののみを計上すること。

⑤ 補助事業

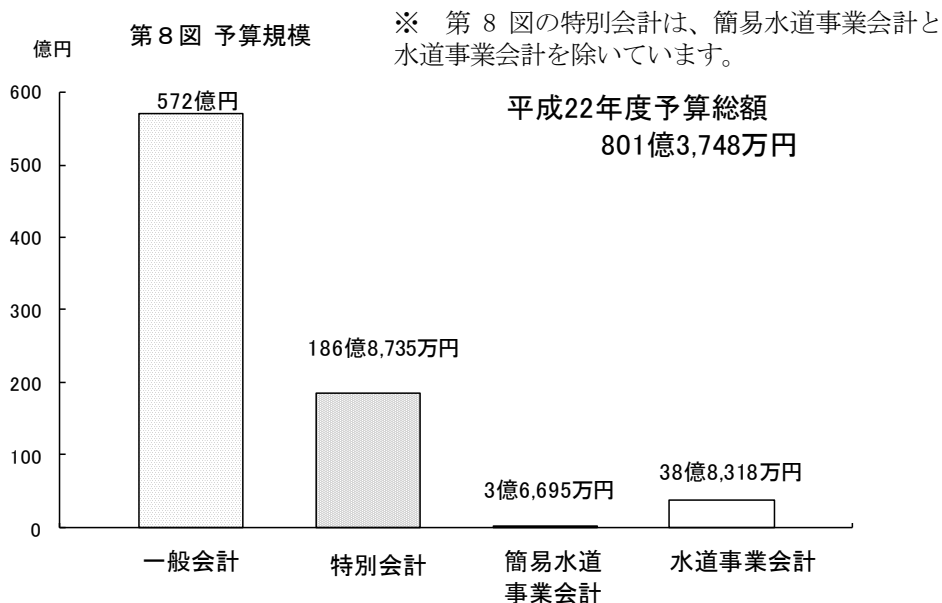
国、県、市間の経費負担区分の明確化を図り、超過負担の解消については、積極的に関係機関に働きかけて財政秩序の確立に努めること。また、国、県からの委託事業については、委託金の範囲内で賄うことを原則とする。

⑥ 投資的経費

「総合5か年計画'06」における計画事業を計上し、事業費の精査を図ること。

2) 会計別予算規模

本市では、平成18年度を初年度とする総合計画及び新市建設計画の実現に向けて、主要事業を中心に各種事業の緊急性及び優先度を考慮し、一層の経費節減を図るとともに、財政の健全性の確保と効率的な財政運営に留意しながら、平成22年度当初予算を編成しました。また、本市の予算は、一般会計のほか2つの企業会計（簡易水道事業、水道事業）を含む9つの特別会計に区分され、これらを合わせてみることにより行政全体の概要がわかります。なお、平成22年度の一般会計と特別会計を合わせた当初予算の総額は、801億3,748万円で、その内訳は、一般会計が572億円、特別会計が9会計（10勘定）で229億3,748万円となります。この章では、平成18年度は4月補正後の現計予算を、平成19年度は6月補正後の現計予算を「当初予算」として記載しています。



第3表 平成22年度予算総括表

(単位：千円)

			平成22年度	平成21年度	増減額	増減率(%)
一 般 会 計			57,200,000	56,900,000	300,000	0.5
特 別 会 計	国民健康保険	事業勘定	10,896,427	10,766,978	129,449	1.2
		施設勘定	149,911	142,486	7,425	5.2
	下水道事業		2,090,095	2,195,083	▲ 104,988	▲ 4.8
	公設地方卸売市場		217,351	243,047	▲ 25,696	▲ 10.6
	老人保健		2,235	31,289	▲ 29,054	▲ 92.9
	介護保険		4,320,999	4,144,680	176,319	4.3
	農業集落排水事業		161,314	171,279	▲ 9,965	▲ 5.8
	後期高齢者医療		849,020	658,083	190,937	29.0
	簡易水道事業		366,952	322,222	44,730	13.9
	水道事業		3,883,180	3,961,906	▲ 78,726	▲ 2.0
合 計		22,937,484	22,637,053	300,431	1.3	
総 計			80,137,484	79,537,053	600,431	0.8

※後期高齢者医療特別会計については、老人保健制度の見直しにより後期高齢者医療制度が施行されたことに伴い、平成20年4月から設置したものです。（老人保健特別会計については平成22年度まで設置）

3) 主要事業

今年度に行う主な事業の内容を総合計画の6つの施策の基本方向に基づき紹介します。

1 『世界との交流拠点として市民が誇れる都市をつくる』

成田スカイアクセス開業に伴い、新駅となる成田湯川駅の駅前広場、駐輪場やアクセス道路の整備を行います。また、市内の交通網の整備、成田駅前再開発事業など都市関連機能の充実を図るため、きめ細かな事業を実施します。

市民の重要な交通手段となるコミュニティバスについても運行の充実に努め、今年度より義務教育定期券に加え、新たに高等学校の生徒のために通学定期券の発行を開始します。

● J R・京成成田駅中央口地区整備事業	12億2,564万円
● 表参道整備事業	3億1,298万円
● 景観計画策定事業【新規】	2,100万円
● 住区基幹公園整備事業	5,900万円
● 空港立地を活かした周辺地域調査事業	1,000万円
● 幹線道路整備事業	7億5,191万円
● 大蕪新宮線整備事業	9,407万円
● 赤坂台方線整備事業	2億7,278万円
● 大袋線整備事業	2,321万円
● ニュータウン中央線整備事業	5億7,500万円
● コミュニティバス運行事業	1億2,604万円

2 『市民がいきいき働く、活力ある産業を育てる』

「観光のまち成田」のイメージを広く市内外にPRするとともに、観光立市を推進し、観光客に「訪れて良し」と満足してもらえる、おもてなしの観光行政を積極的に展開します。

商工業の振興については、中小企業資金融資制度の運用を迅速に行い、利子の一部を補助することにより中小企業を支援します。

農業については、国の農政改革を踏まえ、農業経営の基盤強化や生産基盤の整備に努めるとともに、地産地消の促進、ブランド商品の育成を支援します。

● 観光PR事業	1,462万円
● 実需に応える農産産地強化対策事業【新規】	326万円
● 緊急雇用創出事業	5,132万円
● (仮称)下総親水広場整備事業	2億 100万円
● 農道整備事業	1億1,900万円

● 排水路整備事業	1 億 9,100 万円
● 新産地づくり支援対策事業	648 万円
● 中小企業資金融資事業	10 億 8,562 万円
● 中心市街地活性化事業	523 万円

3 『市民一人ひとりの健康で生きがいを持った生活をささえる』

子育て支援については、乳幼児の健やかな育成を図るため、生後 2 か月～5 歳未満の乳幼児を対象とするヒブワクチンの予防接種費用の一部を助成するほか、保育園・児童ホームを整備し、子どもを安心して産み育てられる環境づくりに努めます。

高齢者福祉については、介護サービスや在宅生活支援サービスの充実に努めるほか、配食サービスなどを受けていない 70 歳以上の独り暮らし高齢者を対象に、孤独感の解消と安否確認を目的として、新たな見守り支援事業を進めてまいります。

障がい者福祉については、新たに小児慢性特定疾患の子どもを対象とした日常生活用具の給付事業を創設し、福祉の向上を図ります。

● 独居高齢者見守り支援事業【新規】	382 万円
● 独居高齢者等実態把握事業【新規】	2,642 万円
● 福祉手当・見舞金支給事業	3 億 4,961 万円
● 子ども手当・児童手当支給事業【一部新規】	24 億 965 万円
● 児童ホーム管理運営事業	1 億 8,088 万円
● 私立保育園施設整備費補助事業	7,598 万円
● 子宮頸がん予防接種助成事業【新規】	900 万円
● ヒブワクチン接種助成事業【新規】	864 万円
● 乳がん検診事業	165 万円
● 医療相談ほっとライン事業【新規】	859 万円
● 急病診療所管理運営事業	1 億 1,863 万円
● 後期高齢者人間ドック助成事業【新規】	163 万円
● 乳幼児医療費助成事業	2 億 958 万円
● 小学生医療費助成事業	1 億 740 万円
● 保育園運営事業	7 億 6,972 万円
● 保育園整備事業	1 億 5,225 万円
● 生活保護扶助費	20 億 2,895 万円
● 地域医療対策事業	1 億 7,779 万円

4 『市民が地域文化を愛し、次代を担う心豊かな人材を育む』

学校教育については、子どもたち一人ひとりの個性に応じたきめ細かな指導、心身両面からの支援の充実、外国人英語講師による実践的な英語教育の推進を図ります。また、学校適正配置の推進、学校施設の整備に努めます。

生涯学習の推進については、多様な学習機会の充実を図るとともに、生涯スポーツ振興のための各種スポーツ施設の整備・充実に努めます。

● 国民体育大会開催事業	3 億 9,234 万円
● 小学校普通教室エアコン整備事業【新規】	6 億 8,300 万円
● 公津の杜小学校増築事業【新規】	2,039 万円
● 生涯学習推進計画策定事業【新規】	300 万円
● 特別支援教育支援員配置事業	3,426 万円
● 小学校校舎耐震補強事業	1 億 2,161 万円
● 小学校屋内運動場耐震補強事業	2 億 4,135 万円
● 小学校バリアフリー整備事業	3,734 万円
● 中学校屋内運動場耐震補強事業	1 億 864 万円
● 西中学校分離新設校建設事業	6,000 万円
● 学校給食センター施設整備事業	1 億 7,010 万円
● 小規模学校支援教員配置事業	2,339 万円
● 問題を抱える子ども等の自立支援事業	385 万円
● 公民館大規模改修事業	2,940 万円
● スポーツ広場等整備事業	3 億 9,833 万円
● 生涯スポーツマスタープラン策定事業	300 万円
● 運動公園整備事業	2,223 万円
● 野球場整備事業	3 億 6,800 万円

5 『市民が安全、安心、快適に暮らせる生活環境をつくる』

防災対策については、市民参加による総合防災訓練を実施するとともに、災害時の重要な情報伝達手段である防災行政無線固定系を、高機能なデジタル方式とするための更新を引き続き行います。

防犯対策については、駅前番所に加え、駅前番所機能を持つ青色回転灯パトロール車による駐留と巡回を行い、犯罪の防止活動に努めます。また、環境対策については、資源循環型社会の構築及び新清掃工場の早期完成に向けて取り組みます。

消防・救急体制については、高規格救急自動車の更新をするとともに、消防救急無線のデジタル化への移行等、資機材の充実を図ります。

● 新清掃工場整備事業	30 億 3,393 万円
● 駐輪場整備事業	3,751 万円
● 地上デジタル共聴施設整備補助事業【新規】	5,755 万円
● 公衆便所管理事業【新規】	3,417 万円
● 防災行政無線固定系更新事業	2 億 1,220 万円
● 建築物耐震化促進事業	505 万円
● 準用河川整備事業	1 億 5,901 万円
● 消防庁舎整備事業	4,948 万円
● 消防車両・装備強化整備事業	5,482 万円
● 消防水利整備事業	9,914 万円
● 駅前番所事業	2,807 万円
● 航空機騒音地域補助事業	9,325 万円
● 民家防音家屋等維持管理費補助事業	3 億 772 万円
● 航空機騒音測定システム事業	2,129 万円
● 環境基本計画推進事業	990 万円
● 生活道路整備事業	10 億 4,857 万円
● 市営住宅建替事業	2 億 6,803 万円
● 新清掃工場関連付帯施設整備事業	5,566 万円

6 『市民と行政が協働する効率的な自治体運営を行う』

市民のニーズに的確に対応できる利便性の高い市役所を実現するため、休日の市役所窓口サービスを本格実施に移行し、市民サービスの充実を図ります。

新たな行政改革大綱に基づき、行財政改革を推進するとともに、行政評価を活用し、最小のコストで最大の効果を挙げる行政運営に努めます。

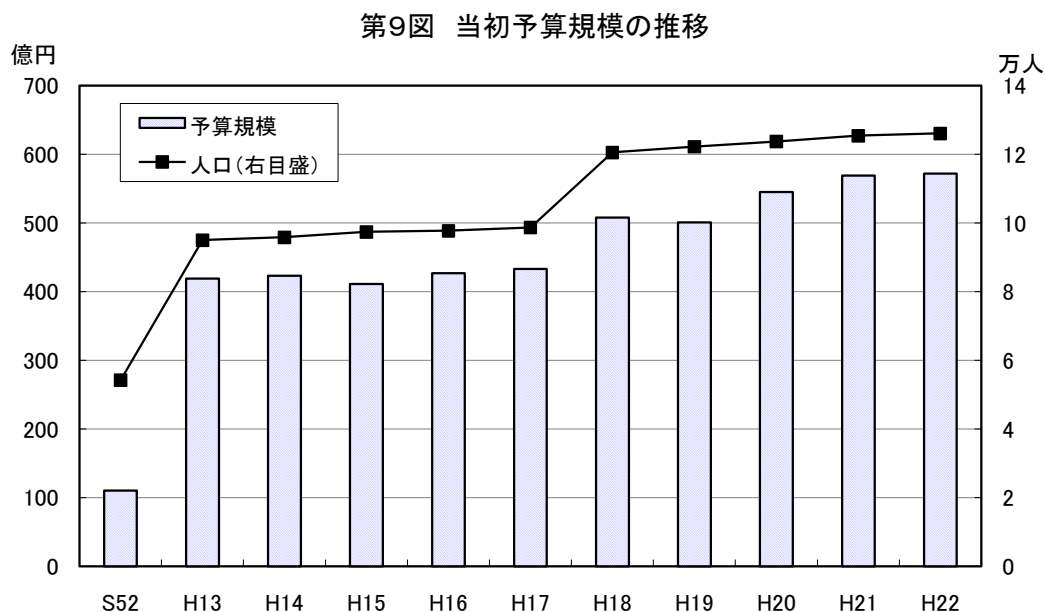
コミュニティ活動の活性化については、公津の杜地区にコミュニティ機能を核とした複合施設を整備し、コミュニティの醸成、促進に努めます。

● 実施計画策定事業	428 万円
● 男女共同参画計画策定事業【新規】	569 万円
● 国勢調査【新規】	5,204 万円
● 公津の杜複合施設整備事業	10 億 5,398 万円
● まちづくり推進調査事業	500 万円
● 庁舎改修事業	1 億 6,961 万円

第2節 一般会計当初予算

1) 予算規模の推移

平成22年度一般会計予算の規模は572億円で、前年度に比べて3億円（0.5%）の増額となっています。第9図は、成田国際空港開港（昭和53年5月）前と最近10年間の予算規模の推移を示しています。



【用語解説】会計の名称

会 計 名		内 容
一般会計		市の基本的な行政を行うための会計です。
特別 会計	国民健康保険	事業勘定では、被保険者の疾病、負傷、出産、死亡などに際し、必要な保険給付を行い、施設勘定では、大栄診療所の運営を行います。
	下水道事業	都市排水施設の整備を行い、市民生活の環境整備を図ることを目的としています。
	公設地方卸売市場	青果物、水産物などの生鮮食料品を安定した価格で提供し、市民生活の向上を図ります。
	老人保健	老人医療受給者に医療費（平成20年3月までの診療分）を給付することを目的としています。
	介護保険	被保険者の要介護度などに応じて、必要な保険給付を行います。
	農業集落排水事業	農業集落におけるし尿、生活雑排水などを処理する施設の整備を行い、市民生活の環境整備を図ることを目的としています。
	後期高齢者医療	75歳以上の後期高齢者医療に関する保険料の徴収等を行うことを目的としています。
	簡易水道事業	給水人口が5,000人以下の地区について、安全な水の安定的な供給を目的としています。
	水道事業	給水人口が5,000人を超える地区について、安全な水の安定的な供給を目的としています。

※ 特別会計とは、特定事業を行う場合に一般会計と区分して経理する必要があるときに設ける会計です。

2) 歳入の概要

○款別歳入前年度比較

平成 22 年度一般会計予算の歳入総額 572 億円を、科目別（款別）に分類すると第 4 表及び第 10 図（P17）のとおりとなります。

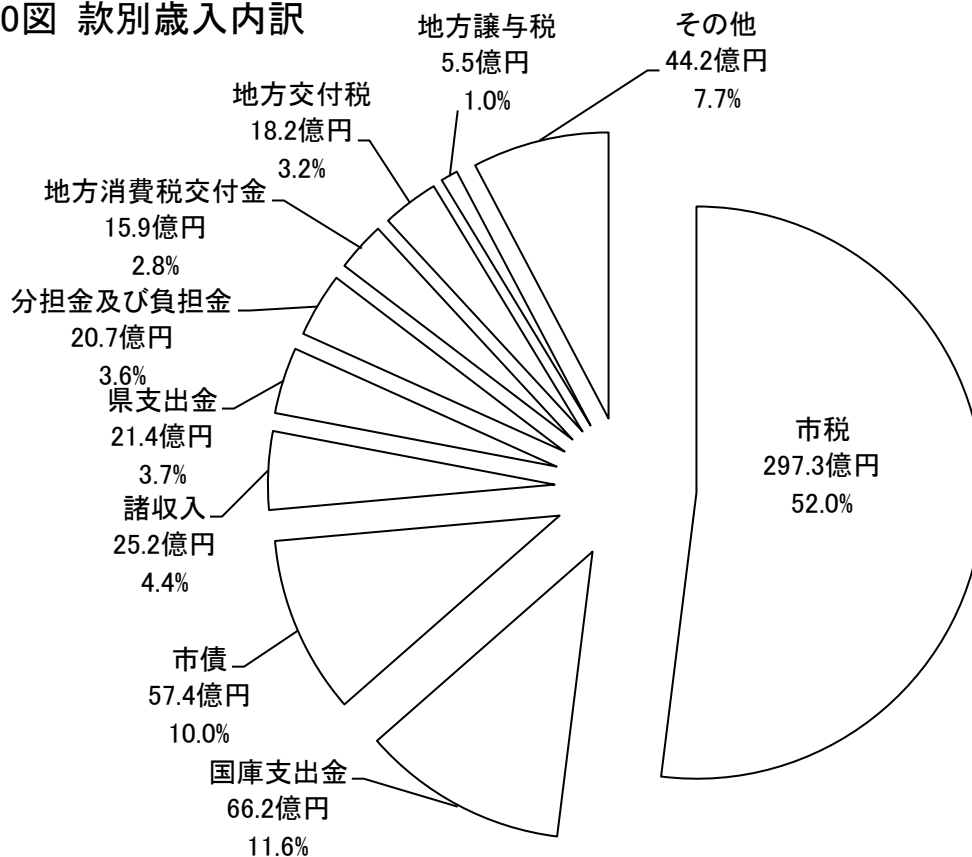
第 4 表 一般会計予算歳入款別表

	平成22年度		平成21年度		増減額 (千円)	増減率 (%)
	当初予算額 (千円)	構成比 (%)	当初予算額 (千円)	構成比 (%)		
市税	29,724,528	52.0	30,637,567	53.8	▲ 913,039	-3.0
地方譲与税	552,000	1.0	580,000	1.0	▲ 28,000	-4.8
利子割交付金	66,000	0.1	73,500	0.1	▲ 7,500	-10.2
配当割交付金	33,000	0.1	39,000	0.1	▲ 6,000	-15.4
株式等譲渡所得割交付金	11,000	0.0	56,000	0.1	▲ 45,000	-80.4
地方消費税交付金	1,590,000	2.8	1,700,000	3.0	▲ 110,000	-6.5
ゴルフ場利用税交付金	240,000	0.4	250,000	0.4	▲ 10,000	-4.0
自動車取得税交付金	250,000	0.4	350,000	0.6	▲ 100,000	-28.6
地方特例交付金	122,797	0.2	313,388	0.6	▲ 190,591	-60.8
地方交付税	1,815,000	3.2	1,515,000	2.7	300,000	19.8
交通安全対策特別交付金	26,000	0.0	30,000	0.1	▲ 4,000	-13.3
分担金及び負担金	2,069,786	3.6	2,262,060	4.0	▲ 192,274	-8.5
使用料及び手数料	1,013,995	1.8	847,001	1.5	166,994	19.7
国庫支出金	6,619,221	11.6	5,972,042	10.4	647,179	10.8
県支出金	2,144,321	3.7	1,687,273	3.0	457,048	27.1
財産収入	209,939	0.4	147,672	0.3	62,267	42.2
寄附金	3,022	0.0	3,075	0.0	▲ 53	-1.7
繰入金	1,943,061	3.4	1,862,673	3.3	80,388	4.3
繰越金	500,000	0.9	500,000	0.9	0	0.0
諸収入	2,521,630	4.4	2,498,549	4.4	23,081	0.9
市債	5,744,700	10.0	5,575,200	9.7	169,500	3.0
歳入合計	57,200,000	100.0	56,900,000	100.0	300,000	0.5

主な歳入の増減理由

市 税	固定資産税において土地・家屋・償却資産の増収が見込めるものの、企業の業績悪化による法人市民税の減収などにより、対前年度比 9 億 1 千万円、3.0%の減となっています。
地方特例交付金	自動車関係諸税減税分の減収補てん特例交付金の増があるものの、特別交付金の廃止などにより、対前年比 1 億 9 千万円、60.8%の減となっています。
分担金及び負担金	新清掃工場整備事業費負担金の減などにより、対前年比 1 億 9 千万円、8.5%の減となっています。
国庫支出金	成田新高速鉄道建設費補助金などの減があるものの、子ども手当交付金、児童手当交付金、市街地再開発事業費補助金の増などにより、対前年比 6 億 5 千万円、10.8%の増となっています。
県支出金	児童手当負担金やふさのくに合併支援交付金などの減があるものの、子ども手当負担金や国民体育大会会場地市町運営費補助金などの増により、対前年度比 4 億 6 千万円、27.1%の増となっています。
繰入金	空港周辺対策事業基金繰入金などの減があるものの、財政調整基金繰入金の増により、対前年度比 8 千万円、4.3%の増となっています。
市 債	成田新高速鉄道整備事業債や野球場整備事業債などの減があるものの、公津の杜複合施設整備事業債、市街地再開発事業債、小学校普通教室エアコン整備事業債などの増により、対前年度比 1 億 7 千万円、3.0%の増となっています。

第10図 款別歳入内訳

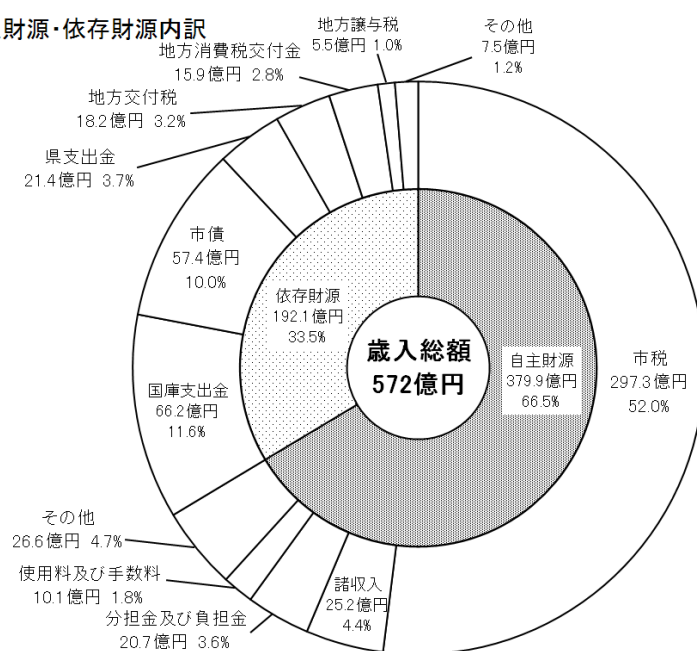


○自主財源・依存財源

歳入は、大きく「自主財源」と「依存財源」に分けることができます。

自主財源は、市が自主的に収入することができる財源のことで、市税、分担金及び負担金、使用料及び手数料、財産収入、寄附金、繰入金、諸収入等が該当し、平成22年度は379億9千万円です。前年度に比べ7億7千万円の減で、主な要因は法人市民税の減収によるものです。自主財源は歳入全体の66.5%を占めています。

第11図 自主財源・依存財源内訳

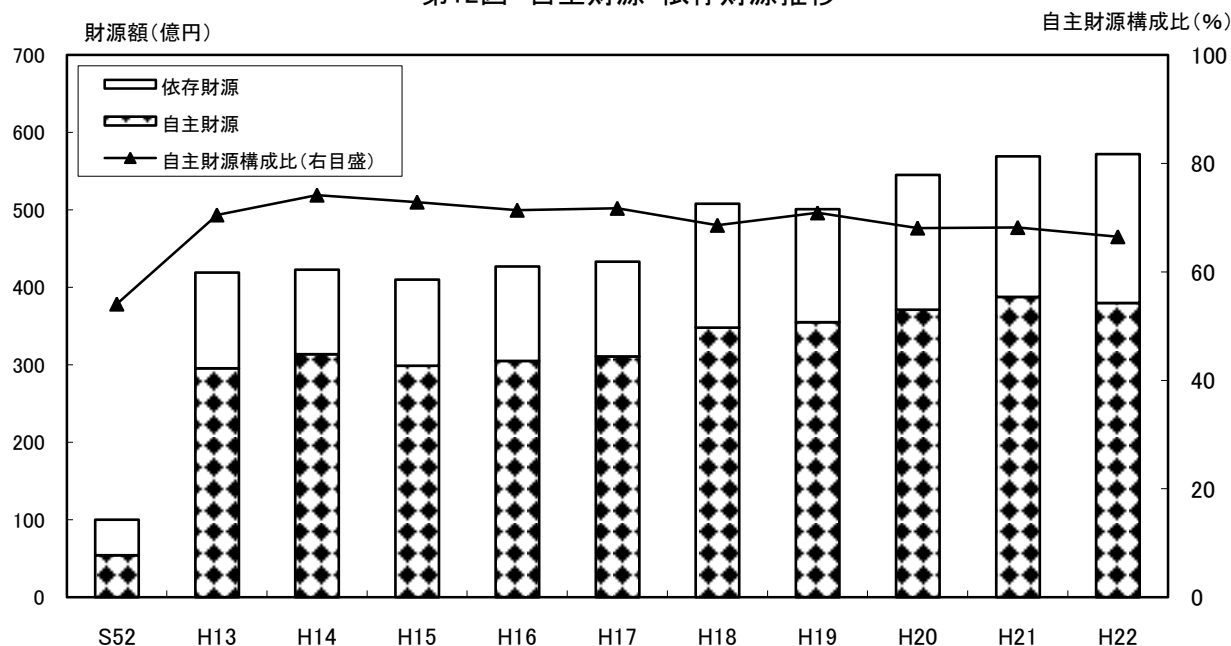


依存財源は、国や県から交付される財源のことで、国庫・県支出金、市債、地方譲与税、地方交付税等が該当し、平成22年度は192億1千万円です。前年度に比べ10億7千万円の増で、主な要因は国庫支出金の増によるものです。依存財源は歳入全体の33.5%を占めています。

自主財源が多いほど、行政活動の自主性と安定性を確保できるとされています。

第11図は自主財源・依存財源の内訳、第12図はそれらの推移を示しています。

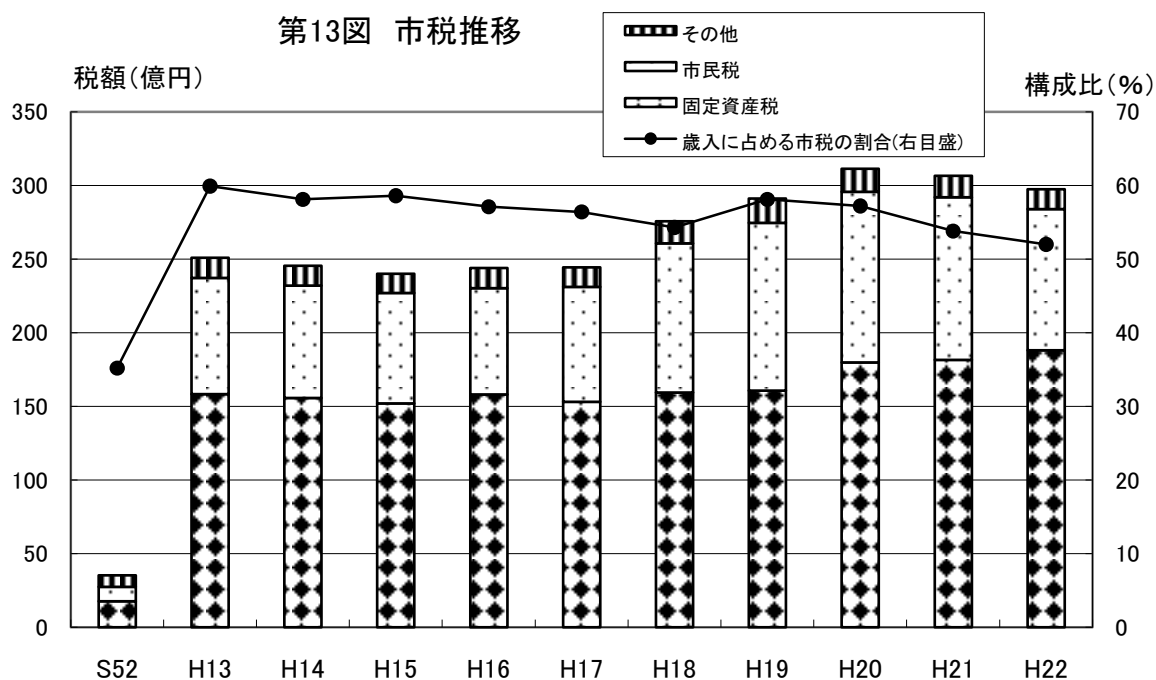
第12図 自主財源・依存財源推移



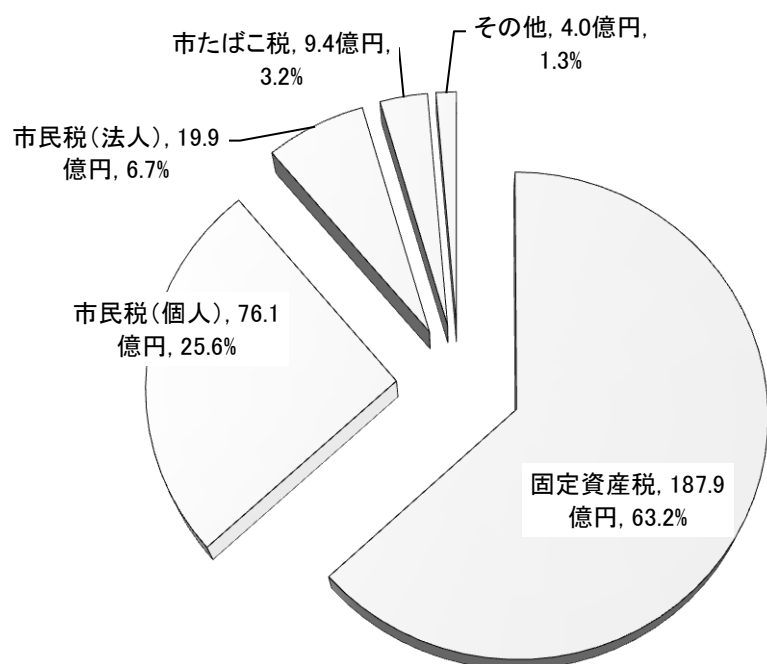
○市税

歳入の根幹をなす市税は、世界的な景気後退の影響により企業収益の減収が予想されることから、法人市民税の減収を見込んでいます。市税全体としては対前年度で9億1千万円（3.0%）の減を見込んでいます。

第13図、第5表（P20）は市税の推移を、第14図は市税の内訳を示しています。



第14図 市税内訳



第5表 市税推移

(単位：千円)

区 分	昭和 52 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
市民税	972,151	7,609,793	7,875,438	7,631,660	7,502,816	7,222,064
個人	711,418	5,395,047	5,282,082	5,248,369	5,492,775	5,005,434
法人	260,733	2,214,746	2,593,356	2,383,291	2,010,041	2,216,630
固定資産税	1,763,043	15,245,100	15,832,916	15,568,620	15,195,245	15,796,655
固定資産税	1,710,227	15,165,701	15,758,693	15,502,737	15,127,170	15,729,602
国有資産等所在市交付金	52,816	79,399	74,223	65,883	68,075	67,053
軽自動車税	19,164	87,865	87,816	94,000	99,530	103,775
市たばこ税	162,909	913,990	951,920	953,816	953,816	1,053,282
鉱産税	306	480	480	480	480	480
特別土地保有税	380,117	245,060	114,072	84,338	53,345	23,641
入湯税						
都市計画税	120,919	205,760	210,045	203,447	196,118	190,908
その他	111,643					
市税合計	3,530,252	24,308,048	25,072,687	24,536,361	24,001,350	24,390,805
区 分	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
市民税	7,801,315	10,132,876	11,396,886	11,570,946	11,030,351	9,591,598
個人	5,049,994	6,101,844	7,507,226	7,715,750	7,715,657	7,606,354
法人	2,751,321	4,031,032	3,889,660	3,855,196	3,314,694	1,985,244
固定資産税	15,296,954	15,923,738	16,061,701	17,986,574	18,159,553	18,794,382
固定資産税	15,224,954	15,851,640	15,991,054	17,921,134	18,094,093	18,732,051
国有資産等所在市交付金	72,000	72,098	70,647	65,440	65,460	62,331
軽自動車税	105,593	146,919	156,679	164,481	174,202	180,433
市たばこ税	997,194	1,146,836	1,269,941	1,200,245	1,059,930	941,248
鉱産税	480	480	480	480	460	460
特別土地保有税	23,075	25,507	19,344	9,338	13,903	14,001
入湯税	1	1	1	1	1	1
都市計画税	196,035	186,575	190,898	195,825	199,167	202,405
その他						
市税合計	24,420,647	27,562,932	29,095,930	31,127,890	30,637,567	29,724,528

【用語解説】 主な市税

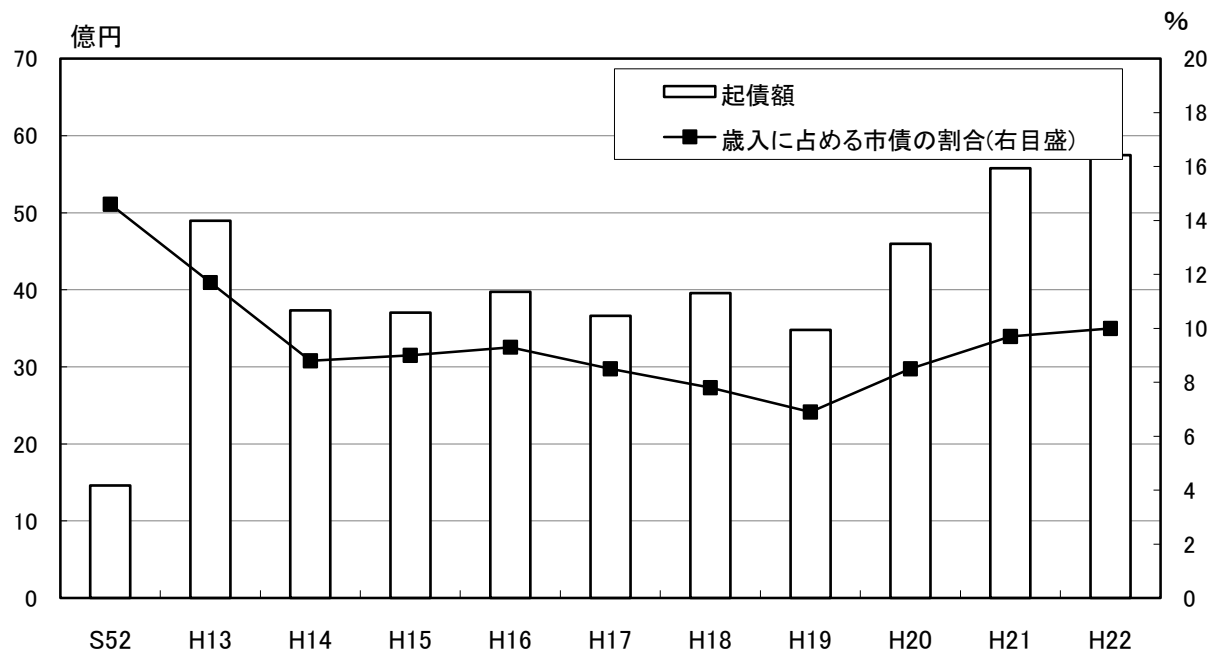
名 称	説 明
市 民 税	住民の日常生活に直接結びついた身近な仕事の費用をそれぞれの負担能力に応じて分担し合うという性格の税金です。個人と法人があり、均等の額を負担する均等割とその人の所得金額に応じて負担する所得割（法人の場合は法人税割）から構成されています。
固 定 資 産 税	毎年 1 月 1 日に土地、家屋、償却資産（これらを総称して「固定資産」といいます。）を所有している人に課される税金で、その固定資産の価格をもとに税額が算定されます。

○市債

市債は、小中学校建設事業や公園整備事業などの大規模な社会資本整備事業の財源となっています。前年度との比較では、成田新高速鉄道整備事業債や野球場整備事業債などで減額となったものの、公津の杜複合施設整備事業債、市街地再開発事業債、小学校普通教室エアコン整備事業債などで増額となったことにより、全体では 1 億 7 千万円（3.0％）の増となりました。

第 15 図は市債の年度別の推移を示しています。

第15図 市債の年度別推移



【用語解説】

(1) 市債

市債は、いわゆる市の借金ですが、資金調達のひとつの手段であるとともに、次のような積極的な機能を持っています。

① 財政負担の平準化の機能

学校の建設など大規模な公共施設整備は、短期間に多額の経費を必要とします。これを市税などの一般財源のみで賄うことは、他の行政施策の推進に大きな支障を及ぼすこととなります。そこで、市債で資金を調達し、元利償還金という形で後年度に支出することで、財政負担を平準化することができます。

② 世代間負担の公平化の機能

学校、道路、公園などのように、将来長期間にわたって効果が生じる施設整備にあたり、現在の住民が一切の費用を負担するのは不合理といえます。そこで、市債の元利償還金に市税を充てることで、将来の方々にも費用の一部を負担していただくこととなり、世代間の負担の公平化が図られます。

(2) その他の歳入

① 配当割交付金・株式等譲渡所得割交付金

平成 15 年度税制改正により創設されたもので、県で徴収された県民税配当割又は県民税株式等譲渡所得割から、事務取扱費として 1%を控除した額の 5 分の 3 が市町村へ配分されます。

② 利子割交付金

昭和 63 年度から銀行預金などの利子等に係る住民税については、金融機関等を通じて県民税利子割として課税されています。この税収から、県が取扱費として 1%を控除した額の 5 分の 3 が市町村に配分されます。

③ 国庫（県）支出金

国庫支出金には、生活保護費負担金などのように、国が地方公共団体の行う特定の事務事業の円滑な運営を期するために義務的に支出すべき「国庫負担金」、消防設備整備費補助金などのように、国が奨励的あるいは財政援助的意図に基づいて交付する「国庫補助金」、また、国政選挙委託金などのように、本来国が行うべき事務を、国民の利便、経費の効率化等の観点から地方公共団体に委託した場合、その経費が交付される「国庫委託金」があります。県支出金は国庫支出金と同様に、「県負担金」、「県補助金」、「県委託金」があります。

④ 地方譲与税

地方公共団体の財源とされているもののうち、課税の便宜上その他の事情から徴収事務を国が代行し、地方公共団体へ譲与する税を地方譲与税といいます。自動車重量譲与税、地方揮発油譲与税、航空機燃料譲与税などがあります。

自動車重量譲与税は、自動車検査証の交付を受ける自動車等にその重量に応じて課税される自動車重量税のうち、その 3 分の 1 が道路延長などをもとに市町村へ配分されています。

地方揮発油譲与税は、揮発油に対して課税される揮発油税及び地方揮発油税のうち地方揮発油税の全額が道路延長などをもとに都道府県及び市町村へ配分されるものです。

なお、平成 21 年度からの道路特定財源の一般財源化に伴い、地方道路譲与税の名称が地方揮発油譲与税に改められ、自動車重量譲与税、地方揮発油譲与税の用途制限は廃止されました。（改正前に課税された地方道路税分は、引き続き地方道路譲与税として譲与され、用途は道路費用に限定されます。）

航空機燃料譲与税は、航空機に積み込まれた航空機燃料に課税されている税金のうち、その 13 分の 2 に相当する額が、航空機騒音の防止対策や空港及び周辺整備の充実を図るため、関係する都道府県及び市町村に配分されています。

⑤ 県税からの交付金

地方税法に基づき、県が徴収した税のうちの一定部分を県内の市町村に交付する制度で、利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、地方消費税交付金、ゴルフ場利用税交付金、自動車取得税交付金があります。

ア ゴルフ場利用税交付金

ゴルフ場利用税は、利用者に課される税金で、平成元年度からそれまでの娯楽施設利用税の課税対象施設をゴルフ場に限定したものです。税収のうち 70%がゴルフ場の所在する市町村に交付されます。

イ 自動車取得税交付金

自動車取得税は、昭和 43 年度に地方道、特に市町村道の整備を促進する財源として創設されたもので、自動車の取得に対して課される税金です。この税収から、県が取扱費として 5%を控除した残りの 95%のうち 70%が市町村に交付されます。

ウ 地方消費税交付金

地方消費税は、平成 9 年度に創設され、税率 1%の県税です。ただし、当分の間、国において税率 4%の消費税と併せて課されます。この税収のうち 50%が国勢調査の人口と事業所統計の従業者数により按分され市町村に交付されます。

⑥ 地方特例交付金

ア 児童手当及び子ども手当特例交付金

平成 18 年度からの児童手当の拡充及び平成 22 年度における子ども手当の創設に伴う地方負担の増加に対応するため、交付されます。

イ 減収補てん特例交付金（住宅借入金等特別税額控除分）

平成 20 年度からの個人住民税における住宅借入金等特別税額控除の実施に伴う地方公共団体の減収を補てんするため、各地方公共団体の住宅借入金等特別税額控除見込額を基礎として算定し、交付されます。

ウ 減収補てん特例交付金（自動車取得税交付金減収分）

平成 21 年度から平成 23 年度までの間、自動車取得税における低燃費車・低公害車を対象とする税率軽減措置の実施に伴う自動車取得税交付金の減収による地方公共団体の減収分の一部を補てんするため、交付されます。

⑦ 地方交付税

地方交付税とは、全国の地方公共団体間の財政的な不均衡を調整して、どの地域に住む住民にも標準的な行政サービスや基本的な社会資本が提供できるように財源を保障する制度です。

行政活動に必要な税財源は、地域によって不均衡があり、多くの団体は、必要な税収を確保できていないのが実状です。そこで、国税（所得税・法人税・酒税・消費税・たばこ税）の一定割合を各地方公共団体の財政力に応じて再配分しているのです。

地方交付税は、財政力に応じて配分される普通交付税（配分総額の 94%）と、災害や地域固有の特殊な財政需要などにより配分される特別交付税（配分総額の 6%）があります。

本市は財政力が高いため普通交付税は交付されていませんでしたが、合併による特例措置により平成 18 年度から交付されています。全国的には、行政改革の中で国の税財政制度の抜本的見直しの一環として平成 19 年度までは縮減が続いておりましたが、平成 20 年度以降は厳しい地方財政の現状を踏まえて、増額に転じています。

⑧ 交通安全対策特別交付金

交通安全対策特別交付金は、昭和 43 年に道路交通法の改正により創設された交通反則通告制度に基づき納付される反則金収入を原資として、地方公共団体が単独で行う道路交通安全施設整備の経費に充てるための財源として交付されるものであり、信号機、道路標識、横断歩道橋、カーブミラーなどの施設を整備することにより交通事故の発生を防止することを目的としています。

○歳入予算額の推移

第6表は、空港開港前と最近10年間の歳入予算額の推移を示しています。

第6表 歳入予算額推移

(単位：千円)

区 分			昭和 52 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
自主財源	市税		3,530,252	25,072,687	25,536,361	24,001,350	24,390,805
	その他	分担金及び負担金	423,846	943,641	992,754	988,138	1,024,444
		使用料及び手数料	225,900	967,629	951,797	952,748	935,055
		財産収入	115,198	101,507	861,354	265,322	107,825
		寄附金	7,743	3,320	3,320	3,320	3,320
		繰入金		154,316	330,626	636,619	791,179
		繰越金	1,000	400,000	400,000	500,000	500,000
		諸収入	1,117,478	1,905,035	3,300,251	2,536,590	2,731,297
		計	1,891,165	4,475,448	6,840,102	5,882,737	6,093,120
	合計		5,421,417	29,548,135	31,376,463	29,884,087	30,483,925
依存財源	国県支出金	国庫支出金	2,457,290	2,841,653	2,707,498	2,907,430	3,816,659
		県支出金	230,666	1,156,312	1,039,439	1,008,283	1,008,516
		計	2,687,956	3,997,965	3,746,937	3,915,713	4,825,175
	市債		1,459,900	4,895,900	3,730,600	3,700,200	3,973,900
	その他	地方譲与税	77,692	385,000	387,000	393,000	419,000
		利子割交付金		200,000	108,000	90,000	90,000
		配当割交付金					30,000
		株式等譲渡所得割交付金					8,000
		地方消費税交付金		1,430,000	1,370,000	1,370,000	1,370,000
		ゴルフ場利用税交付金	43,826	172,000	201,000	201,000	201,000
		特別消費税交付金					
		自動車取得税交付金	77,707	271,000	280,000	273,000	273,000
		地方特例交付金		500,000	600,000	673,000	566,000
		地方交付税	250,000	480,000	480,000	480,000	440,000
		交通安全対策特別交付金	6,500	20,000	20,000	20,000	20,000
		計	455,725	3,458,000	3,446,000	3,500,000	3,417,000
	合計		4,603,581	12,351,865	10,923,537	11,115,913	12,216,075
総計		10,024,998	41,900,000	42,300,000	41,000,000	42,700,000	

(単位：千円)

区 分		平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
自主財源	市税	24,420,647	27,562,932	29,095,930	31,127,890	30,637,567	29,724,528
	その他	分担金及び負担金	1,052,203	1,431,708	1,460,795	1,835,722	2,262,060
		使用料及び手数料	960,487	886,176	883,846	886,073	1,013,995
		財産収入	123,993	46,673	72,065	86,225	209,939
		寄附金	3,320	3,160	3,075	3,075	3,022
		繰入金	1,502,777	1,663,706	614,710	55,576	1,943,061
		繰越金	500,000	500,000	558,875	500,000	500,000
		諸収入	2,501,014	2,708,176	2,806,425	2,616,697	2,521,630
		計	6,643,794	7,239,599	6,399,791	5,983,368	8,121,030
	合計	31,064,441	34,802,531	35,495,721	37,111,258	38,758,597	37,985,961
依存財源	国県支出金	国庫支出金	3,734,817	4,469,372	4,273,759	6,133,093	5,972,042
		県支出金	922,142	1,187,769	1,501,910	1,700,456	2,144,321
		計	4,656,959	5,657,141	5,775,669	7,833,549	8,763,542
	市債		3,662,600	3,954,000	3,478,100	4,594,800	5,575,200
	その他	地方譲与税	755,000	1,442,328	586,000	582,000	580,000
		利子割交付金	90,000	102,300	73,500	73,500	73,500
		配当割交付金	30,000	32,700	45,000	65,000	39,000
		株式等譲渡所得割交付金	8,000	8,400	70,000	70,000	56,000
		地方消費税交付金	1,500,000	1,700,000	1,700,000	1,700,000	1,700,000
		ゴルフ場利用税交付金	201,000	250,000	240,000	240,000	250,000
		特別消費税交付金					
		自動車取得税交付金	273,000	366,000	380,000	350,000	350,000
		地方特例交付金	599,000	560,000	331,010	204,893	313,388
		地方交付税	440,000	1,900,000	1,900,000	1,650,000	1,515,000
		交通安全対策特別交付金	20,000	24,600	25,000	25,000	30,000
		計	3,916,000	6,386,328	5,350,510	4,960,393	4,906,888
	合計		12,235,559	15,997,469	14,604,279	17,388,742	18,141,403
	総計		43,300,000	50,800,000	50,100,000	54,500,000	56,900,000
							57,200,000

3) 歳出の概要

○款別歳出前年度比較

第7表は、平成22年度一般会計予算額を科目別（款別）に区分し前年度と比較したものです。

第7表 一般会計予算歳出款別表

	平成22年度		平成21年度		増減額 (千円)	増減率 (%)
	当初予算額 (千円)	構成比 (%)	当初予算額 (千円)	構成比 (%)		
議会費	407,502	0.7	417,573	0.7	▲10,071	▲2.4
総務費	8,786,290	15.4	9,736,267	17.1	▲949,977	▲9.8
民生費	14,549,278	25.4	12,437,531	21.9	2,111,747	17.0
衛生費	8,031,657	14.0	9,101,095	16.0	▲1,069,438	▲11.8
労働費	92,679	0.2	38,292	0.1	54,387	142.0
農林水産業費	1,282,600	2.2	1,436,425	2.5	▲153,825	▲10.7
商工費	1,531,659	2.7	1,583,752	2.8	▲52,093	▲3.3
土木費	7,820,498	13.7	6,966,939	12.2	853,559	12.3
消防費	2,643,302	4.6	2,568,018	4.5	75,284	2.9
教育費	7,789,436	13.6	8,286,790	14.6	▲497,354	▲6.0
災害復旧費	2,000	0.0	2,000	0.0	0	0.0
公債費	4,133,762	7.2	4,224,517	7.4	▲90,755	▲2.1
諸支出金	29,337	0.1	801	0.0	28,536	3562.5
予備費	100,000	0.2	100,000	0.2	0	0.0
歳出合計	57,200,000	100.0	56,900,000	100.0	300,000	0.5

〔各費目の主な増減〕

総務費

成田新高速鉄道補助金の減などにより9億5千万円、9.8%の減となった。

民生費

子ども手当・児童手当支給事業の増などにより21億1千万円、17.0%の増となった。

衛生費

新清掃工場整備事業の減などにより、10億7千万円、11.8%の減となった。

土木費

J R・京成成田駅中央口地区整備事業の増などにより8億5千万円、12.3%の増となった。

教育費

中学校大規模改造事業、野球場整備事業の減などにより5億円、6.0%の減となった。

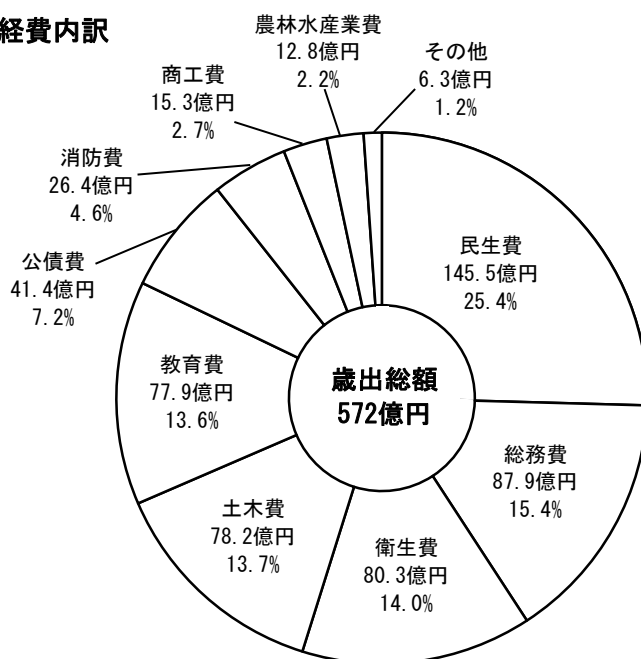
○目的別・性質別経費内訳

・目的別経費

歳出予算は、コミュニティの推進や空港周辺対策（総務費）、生活保護や障がい者支援（民生費）、道路や公園の整備（土木費）、学校の建設（教育費）など行政目的ごとに分類されています。この分類により、本市の予算がどの分野にどれだけ配分されているかがわかります。

本市では、民生費、総務費、衛生費、土木費、教育費が比較的大きな比重を占めています。第16図は目的別経費の内訳です。

第16図 目的別経費内訳



【用語解説】 目的別分類の内訳

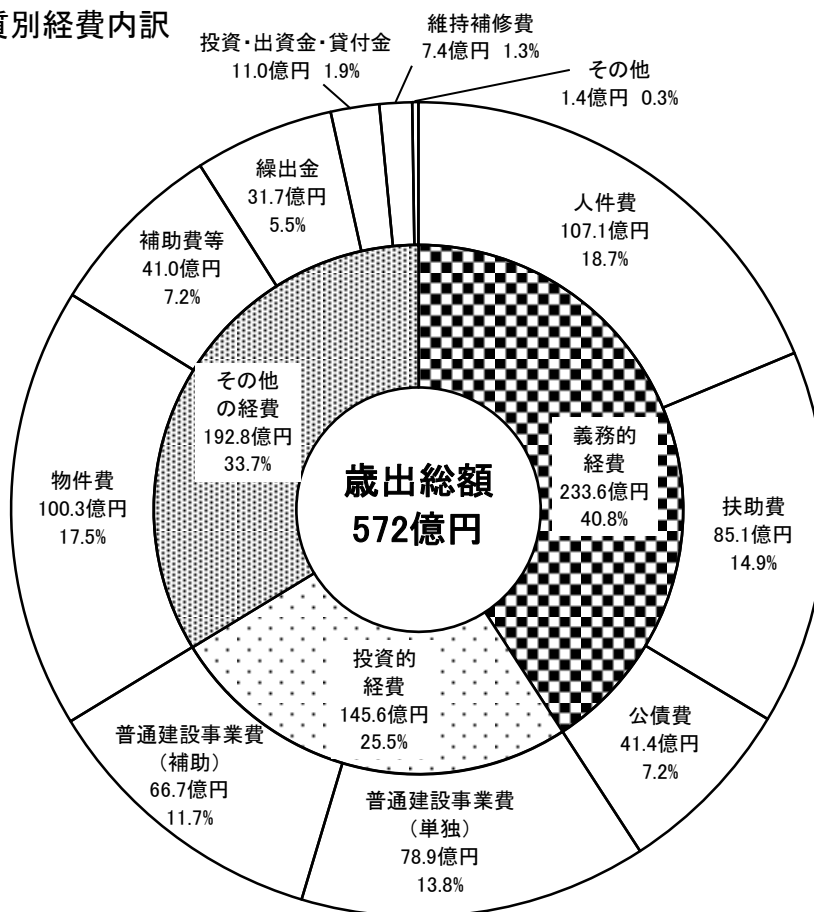
目的別分類	説明
民生費	生活保護、障がい者支援、各種福祉手当、児童ホーム・保育所の管理・運営などのための経費。
総務費	市役所の管理・運営、徴税・戸籍関係事務、選挙、統計調査、国際交流・広報・市民相談、コミュニティの推進、交通防犯などのための経費。
衛生費	各種の健康診断、予防接種、環境対策、ごみ処理施設の管理などのための経費。
土木費	道路・橋・公園・河川の整備、都市計画・土地区画整理等のための経費。
教育費	小中学校・公民館・図書館・スポーツ施設・運動広場の建設・管理・運営、生涯学習の推進、文化財の保護などのための経費。
公債費	市債の元金と利息を返済するための経費。
消防費	防火・消火活動、救急・防災活動、消防車両の整備などのための経費。
その他	商工業の振興、観光活性化などのための商工費。農林水産業の振興、家畜の防疫、農道整備などのための農林水産業費。議会の活動のための議会費。雇用対策などのための労働費。

・性質別経費

歳出予算は、行政の目的別だけでなく、職員給与や議員報酬などの人件費、生活保護や児童手当などの扶助費など、性質別に分類することもできます。また、この性質別の分類では、支出が義務づけられている義務的経費（人件費、扶助費、公債費）、道路や公園整備などの投資的経費（普通建設事業費など）、その他の経費（物件費、維持補修費など）に区分することができます。この分類により財政構造がわかります。

第17図は性質別経費の内訳です。

第17図 性質別経費内訳



区分	説明
義務的経費	支出が義務づけられているため任意に節減できない経費で、人件費、扶助費、公債費が該当します。
投資的経費	道路、橋りょう、公園の整備、学校建設等の支出の効果が資本形成に向けられる経費で、普通建設事業費、災害復旧事業費、失業対策事業費が該当します。
その他の経費	義務的経費及び投資的経費以外の経費で、物件費、維持補修費、補助費等、繰入金、積立金、投資及び出資金、貸付金等が該当します。

第 8 表は性質別経費の前年度比較です。

義務的経費 扶助費が増加しているのは、子ども手当・児童手当や生活保護扶助費の増額などによるものです。

投資的経費 成田新高速鉄道補助金、新清掃工場整備事業、野球場整備事業などの減により減少しています。

その他の経費 補助費等の増加は、ゆめ半島千葉国体成田市実行委員会負担金、救急医療体制整備事業負担金の増などによるものです。

第 8 表 性質別経費前年度比較表

区分		平成 22 年度		平成 21 年度		増減額 (千円)	増減率 (%)
		当初予算額 (千円)	構成比 (%)	当初予算額 (千円)	構成比 (%)		
義務的経費	人件費	10,709,729	18.7	10,648,428	18.7	61,301	0.6
	扶助費	8,509,089	14.9	6,645,881	11.7	1,863,208	28.0
	公債費	4,133,762	7.2	4,224,517	7.4	▲90,755	▲2.1
	小計	23,352,580	40.8	21,518,826	37.8	1,833,754	8.5
投資的経費		14,563,784	25.5	16,914,864	29.7	▲2,351,080	▲13.9
その他の経費	物件費	10,031,944	17.5	9,626,824	16.9	405,120	4.2
	維持補修費	737,260	1.3	719,957	1.3	17,303	2.4
	補助費等	4,102,221	7.2	3,625,982	6.4	476,239	13.1
	繰出金	3,174,613	5.5	3,218,940	5.6	▲44,327	▲1.4
	投資・出資・貸付金	1,096,836	1.9	1,127,807	2.0	▲30,971	▲2.7
	その他	140,762	0.3	146,800	0.3	▲6,038	▲4.1
	小計	19,283,636	33.7	18,466,310	32.5	817,326	4.4
合計		57,200,000	100.0	56,900,000	100.0	300,000	0.5

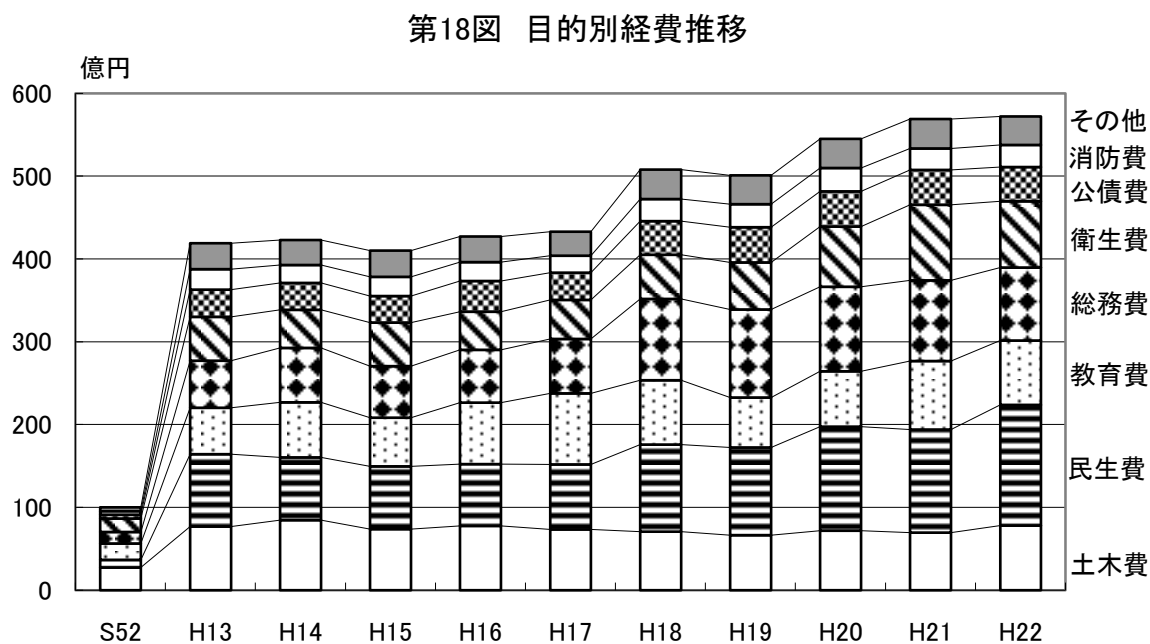
【用語解説】 性質別分類の内訳

性質別分類	説 明
人件費	職員の給与や共済費、議員の報酬や手当、各種委員会委員などの非常勤特別職の職員の報酬などのための経費。
扶助費	生活保護、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉などのための経費。
公債費	市債の元金や利息を返済するための経費。
普通建設事業費	道路、橋、学校、公園などの整備やこれらの施設用地の取得など、資本形成のための経費。
物件費	旅費、消耗品や備品の購入費、施設の清掃等の管理・運営委託料、土地や電算機器の使用などのための経費。

繰出金	一般会計から国民健康保険や下水道事業などの特別会計へ繰出す経費。
補助費等	他団体への運営費補助金や負担金、自動車保険などの保険料、講習会などの講師謝礼などのための経費。
その他	積立金など。

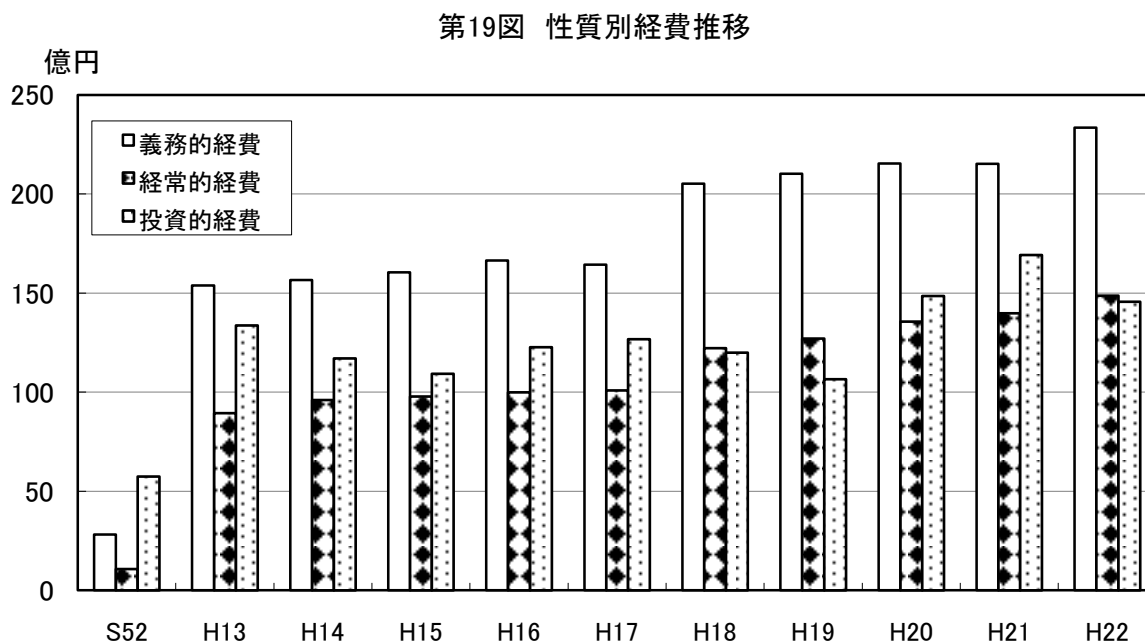
○目的別経費推移

第18図は目的別経費の推移を示しています。



○性質別経費推移

第19図は性質別経費の推移を示しています。



○歳出予算額の推移

第9表 歳出予算額推移 空港開港前と最近10年間の当初予算額（歳出）の推移です。

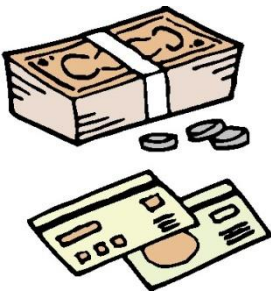
区 分		昭和 52 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	
歳出（目的別）	議会費	107,276	398,544	391,168	397,628	401,679	
	総務費	1,371,492	5,687,428	6,572,010	6,232,409	6,363,669	
	民生費	907,620	8,769,523	7,592,783	7,593,818	7,467,495	
	衛生費	1,656,395	5,294,228	4,591,582	5,269,400	4,608,093	
	労働費	0	50,877	45,468	39,650	39,032	
	農林水産業費	282,439	1,327,575	1,220,249	1,174,872	1,128,136	
	商工費	73,620	1,273,628	1,270,713	1,449,518	1,414,971	
	土木費	2,750,674	7,672,605	8,455,650	7,363,697	7,774,851	
	消防費	411,485	2,449,590	2,184,438	2,323,492	2,260,725	
	教育費	1,987,699	5,568,607	6,653,495	5,867,034	7,420,702	
	災害復旧費	1,370	2,000	2,000	2,000	2,000	
	公債費	453,928	3,304,785	3,220,351	3,186,478	3,718,643	
	諸支出金	1,000	610	93	4	4	
	予備費	20,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
目的別合計		10,024,998	41,900,000	42,300,000	41,000,000	42,700,000	
歳出（性質別）	義務的経費	人件費	1,840,926	9,258,253	9,423,522	9,262,594	9,149,377
		扶助費	519,042	2,829,961	3,013,463	3,597,628	3,775,272
		公債費	453,895	3,304,669	3,220,280	3,186,441	3,718,631
		小計	2,813,863	15,392,883	15,657,265	16,046,663	16,643,280
	投資的経費	普通建設事業費（補助）	3,888,060	2,674,726	1,929,993	1,108,546	1,276,856
		普通建設事業費（単独）	1,859,338	10,682,101	9,773,245	9,814,882	10,986,360
		災害復旧事業費	1,370	2,000	2,000	2,000	2,000
		小計	5,748,768	13,358,827	11,705,238	10,925,428	12,265,216
	その他の経費	物件費	789,589	6,662,521	6,999,681	7,344,022	7,515,188
		維持補修費	94,161	519,638	507,820	544,688	545,650
		補助費等	184,476	1,763,642	2,090,352	1,883,845	1,924,788
		積立金	1,868	309,111	1,966,175	502,027	2,028
		投資及び出資金	1,420	180,797	111,698	157,833	164,112
		貸付金	14,600	800,000	800,000	1,000,000	1,000,000
		繰出金	356,253	2,812,581	2,361,771	2,495,494	2,539,738
		予備費	20,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	小計		1,462,367	13,148,290	14,937,497	14,027,909	13,791,504
	性質別合計		10,024,998	41,900,000	42,300,000	41,000,000	42,700,000

(単位：千円)

平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	区 分			
407,673	572,385	491,164	411,460	417,573	407,502	議会費	歳出（目的別）		
6,552,138	9,794,607	10,617,035	10,220,434	9,736,267	8,786,290	総務費			
7,841,557	10,485,242	10,616,037	12,575,016	12,437,531	14,549,278	民生費			
4,724,507	5,358,409	5,712,077	7,278,265	9,101,095	8,031,657	衛生費			
38,811	33,682	31,671	39,362	38,292	92,679	労働費			
980,776	1,425,307	1,432,555	1,472,868	1,436,425	1,282,600	農林水産業費			
1,390,770	1,429,141	1,444,460	1,498,132	1,583,752	1,531,659	商工費			
7,355,787	7,081,705	6,637,909	7,191,678	6,966,939	7,820,498	土木費			
2,040,169	2,689,503	2,760,754	2,799,979	2,568,018	2,643,302	消防費			
8,572,722	7,800,389	6,010,882	6,656,794	8,286,790	7,789,436	教育費			
2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	災害復旧費			
3,293,058	4,027,599	4,242,953	4,253,177	4,224,517	4,133,762	公債費			
32	31	503	835	801	29,337	諸支出金			
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	予備費			
43,300,000	50,800,000	50,100,000	54,500,000	56,900,000	57,200,000	目的別合計			
9,073,630	11,237,257	11,259,375	10,908,631	10,648,428	10,709,729	人件費	義務的経費	歳出（性質別）	
4,064,361	5,249,872	5,528,012	6,383,867	6,645,881	8,509,089	扶助費			
3,293,058	4,027,599	4,242,953	4,253,177	4,224,517	4,133,762	公債費			
16,431,049	20,514,728	21,030,340	21,545,675	21,518,826	23,352,580	小計	投資的経費		
2,166,464	3,968,023	3,707,792	7,570,987	7,465,910	6,673,164	普通建設事業費（補助）			
10,507,360	8,015,920	6,945,953	7,287,443	9,446,954	7,888,620	普通建設事業費（単独）			
2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	災害復旧事業費			
12,675,824	11,985,943	10,655,745	14,860,430	16,914,864	14,563,784	小計	その他の経費		
7,545,568	8,735,181	9,311,880	9,516,991	9,626,824	10,031,944	物件費			
594,301	747,929	740,392	715,555	719,957	737,260	維持補修費			
1,945,384	2,737,995	2,643,698	3,326,571	3,625,982	4,102,221	補助費等			
4,780	505,424	21,106	40,449	46,800	40,762	積立金			
418,331	858,732	1,116,977	171,564	127,807	96,836	投資及び出資金			
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	貸付金			
2,584,763	3,614,068	3,479,862	3,222,765	3,218,940	3,174,613	繰出金			
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	予備費			
14,193,127	18,299,329	18,413,915	18,093,895	18,466,310	19,283,636	小計	性質別合計		
43,300,000	50,800,000	50,100,000	54,500,000	56,900,000	57,200,000	性質別合計			

○ 1人当たりの予算額

平成 22 年度一般会計当初予算額は 572 億円です。平成 22 年 3 月 31 日現在の人口 126,098 人で予算額を割った「市民 1 人あたりに使われるお金」は 453,615 円となります。

 民生費 115,381 円	 総務費 69,678 円	 衛生費 63,694 円
 土木費 62,019 円	 教育費 61,773 円	 公債費 32,782 円
 消防費 20,962 円	 商工費 12,147 円	 農林水産業費 10,171 円
その他 5,008 円	市民 1 人あたりに使われるお金 453,615 円	

第3節 特別会計の当初予算

○予算規模の推移

第10表 予算規模の推移

(単位：千円)

	昭和52年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
国民健康保険（事業勘定）	975,646	4,788,473	5,316,955	5,133,469	5,533,307	6,249,732
うち一般会計繰入	10,000	991,388	793,147	585,667	598,153	639,236
下水道事業	572,127	3,540,805	3,222,424	2,689,257	2,648,081	2,620,350
うち一般会計繰入	133,828	1,140,757	1,418,518	862,469	888,681	867,328
公設地方卸売市場	157,550	414,541	405,561	392,426	369,506	357,603
うち一般会計繰入	51,637	205,829	211,160	202,364	192,421	186,101
老人保健		4,637,507	4,670,728	4,732,539	4,865,417	4,647,592
うち一般会計繰入		263,534	250,998	254,003	306,218	297,398
介護保険		2,213,639	2,580,397	2,135,360	2,403,338	2,683,224
うち一般会計繰入		310,313	371,637	305,671	346,252	403,750
学校給食センター	380,629					
うち一般会計繰入	157,102					
交通災害共済	12,833					
うち一般会計繰入	3,686					
水道事業	229,157	3,779,473	2,344,610	2,254,977	2,607,089	2,334,061
うち一般会計繰入						
合 計	2,327,942	19,374,438	18,540,675	17,338,028	18,426,738	18,892,562
うち一般会計繰入	356,253	2,911,821	3,045,460	2,210,174	2,331,725	2,393,813

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
国民健康保険（事業勘定）	6,579,981	8,962,897	10,090,265	10,350,405	10,766,978	10,896,427
うち一般会計繰入	718,952	1,127,672	1,127,994	1,163,054	1,255,139	1,293,284
国民健康保険（施設勘定）		128,771	133,026	152,626	142,486	149,911
うち一般会計繰入						
下水道事業	2,386,269	2,316,233	2,152,308	2,176,593	2,195,083	2,090,095
うち一般会計繰入	871,513	929,580	723,938	705,220	633,236	515,493
公設地方卸売市場	255,635	245,353	246,373	272,113	243,047	217,351
うち一般会計繰入	93,779	91,144	92,269	133,896	104,084	79,449
老人保健	4,522,005	6,130,093	6,653,011	722,156	31,289	2,235
うち一般会計繰入	323,026	475,301	539,361	53,814	1,543	135
介護保険	2,745,072	3,722,315	3,857,964	3,956,534	4,144,680	4,320,999
うち一般会計繰入	420,038	551,206	565,149	574,727	607,261	632,592
農業集落排水事業		668,605	440,288	362,604	171,279	161,314
うち一般会計繰入		131,443	140,687	136,214	137,832	128,553
後期高齢者医療				753,271	658,083	849,020
うち一般会計繰入				115,045	146,761	158,991
簡易水道事業		1,415,634	749,236	590,998	322,222	366,952
うち一般会計繰入				215,643	216,450	245,754
水道事業	2,529,297	3,282,605	3,446,149	3,982,149	3,961,906	3,883,180
うち一般会計繰入				135,868	155,115	113,037
合 計	19,018,259	26,872,506	27,768,620	22,566,178	22,637,053	22,937,484
うち一般会計繰入	2,427,308	3,306,346	3,189,398	3,118,436	3,257,421	3,167,288

※ 企業会計（簡易水道事業、水道事業）は、収益的支出と資本的支出の合計額です。

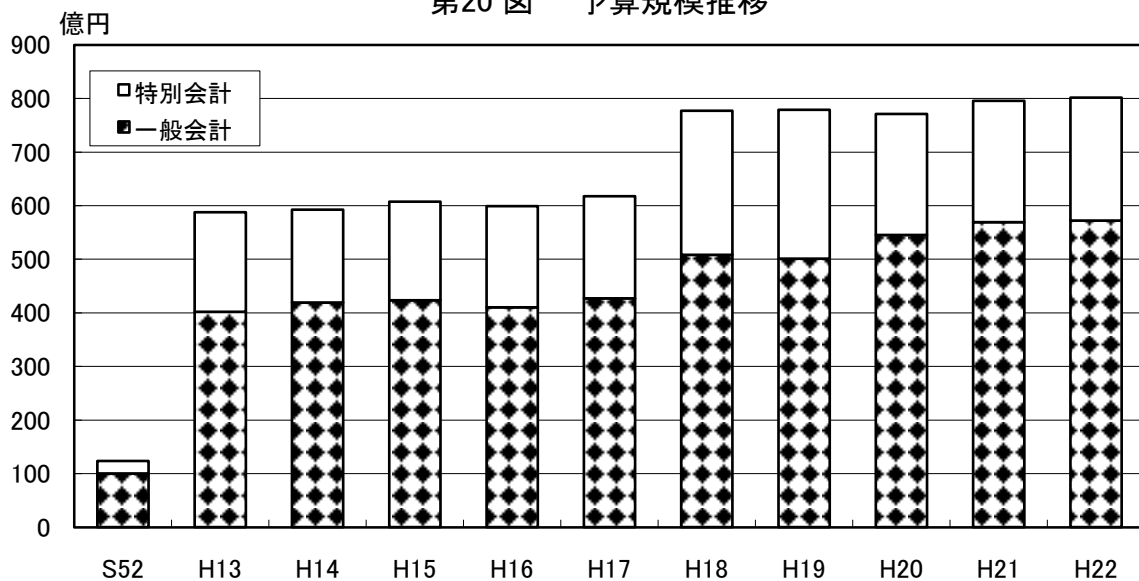
特別会計とは、特定事業を行う場合に一般会計と区分して経理する必要のあるときに設けることができる会計です。

特別会計の予算は、市の予算総額の約 30%を占めており、一般会計からの繰入総額も平成 22 年度で約 31 億 7 千万円計上されています。

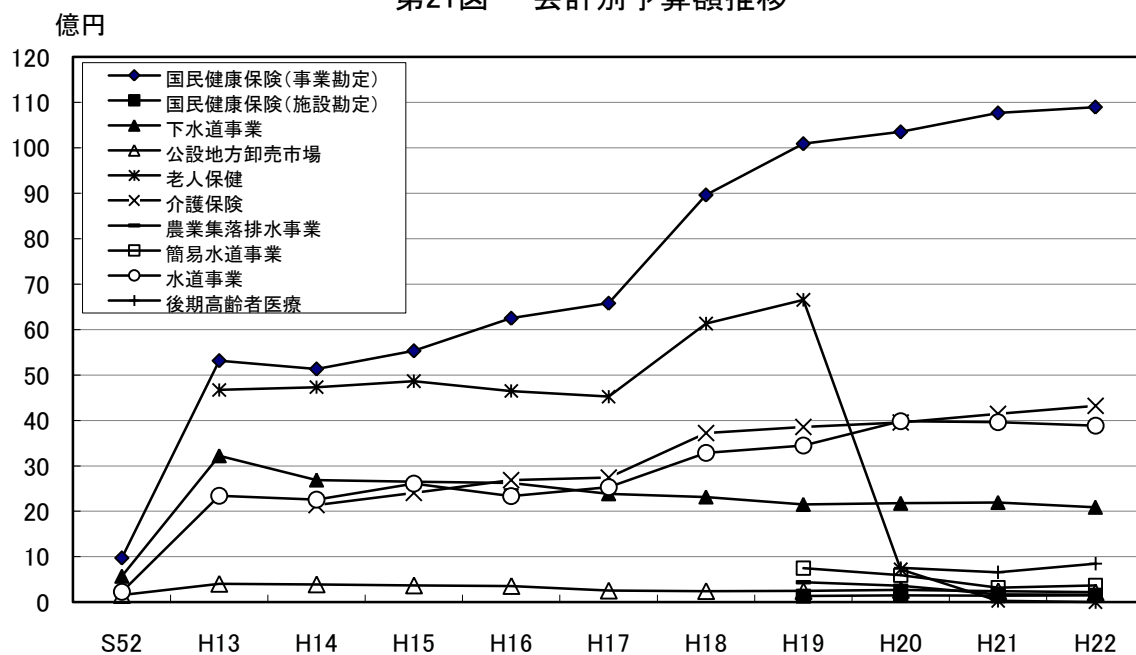
下水道事業及び公設地方卸売市場などは、その性格から施設整備の状況により予算額が増減していますが、国民健康保険及び介護保険などは被保険者の疾病、要介護度などに応じた保険給付の増大により増加傾向にあります。

第 20 図及び第 21 図は、予算規模及び会計別予算額の推移を示しています。

第20図 予算規模推移



第21図 会計別予算額推移



第4節 国と県の予算概要

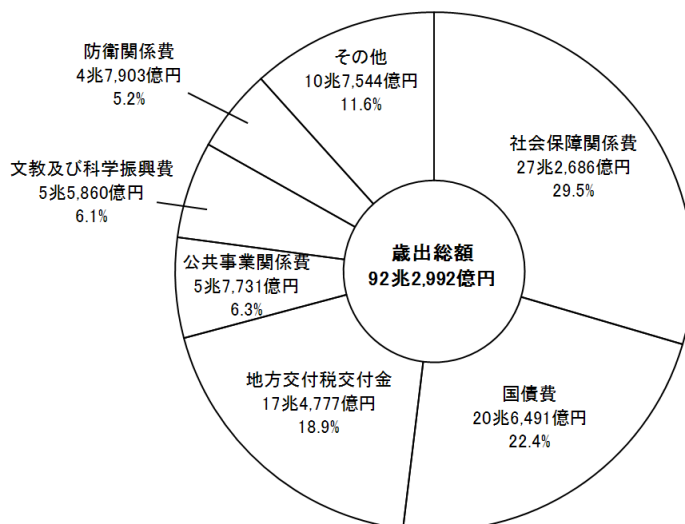
1) 国の予算概要

平成22年度予算は「人間のための経済」の方針に則り、何よりも人のいのちを大切に、国民の暮らしの豊かさに力点を置いた経済・社会への転換を目指し、子育て、雇用、環境、科学・技術に重点を置いております。

また、事業仕分けの評価結果の厳格な反映によって不要不急の歳出の削減を行うとともに、特別会計の聖域なき見直しにより税外収入を確保しました。そのうえで、国債発行額の水準については、平成21年度第1次補正予算後の発行額以内に抑えることとしました。

以上の方針に基づき編成された平成22年度の国の一般会計当初予算は92兆2,992億円となり前年度比3兆7,512億円、4.2%の増額となっています。歳出の内訳は第22図のとおりとなっています。

第22図 国の一般会計当初予算

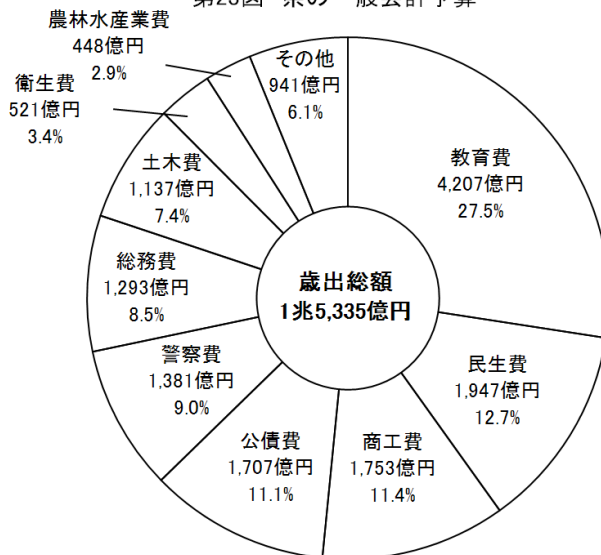


2) 県の予算概要

歳入については、実質的な地方交付税については大幅な増額が見込まれますが、景気の減速に伴い県税収入の落ち込みが懸念され、歳入全体として増額を見込むことは困難な状況であり、一方、歳出においては社会保障費をはじめとする義務的経費が引き続き増加する見込みであり、依然として厳しい財政状況になることが見込まれます。

平成22年度の県の一般会計予算の規模は、1兆5,335億円となり、前年度比80億円、0.5%の減額となっています。歳出の内訳は第23図のとおりとなっています。

第23図 県の一般会計予算



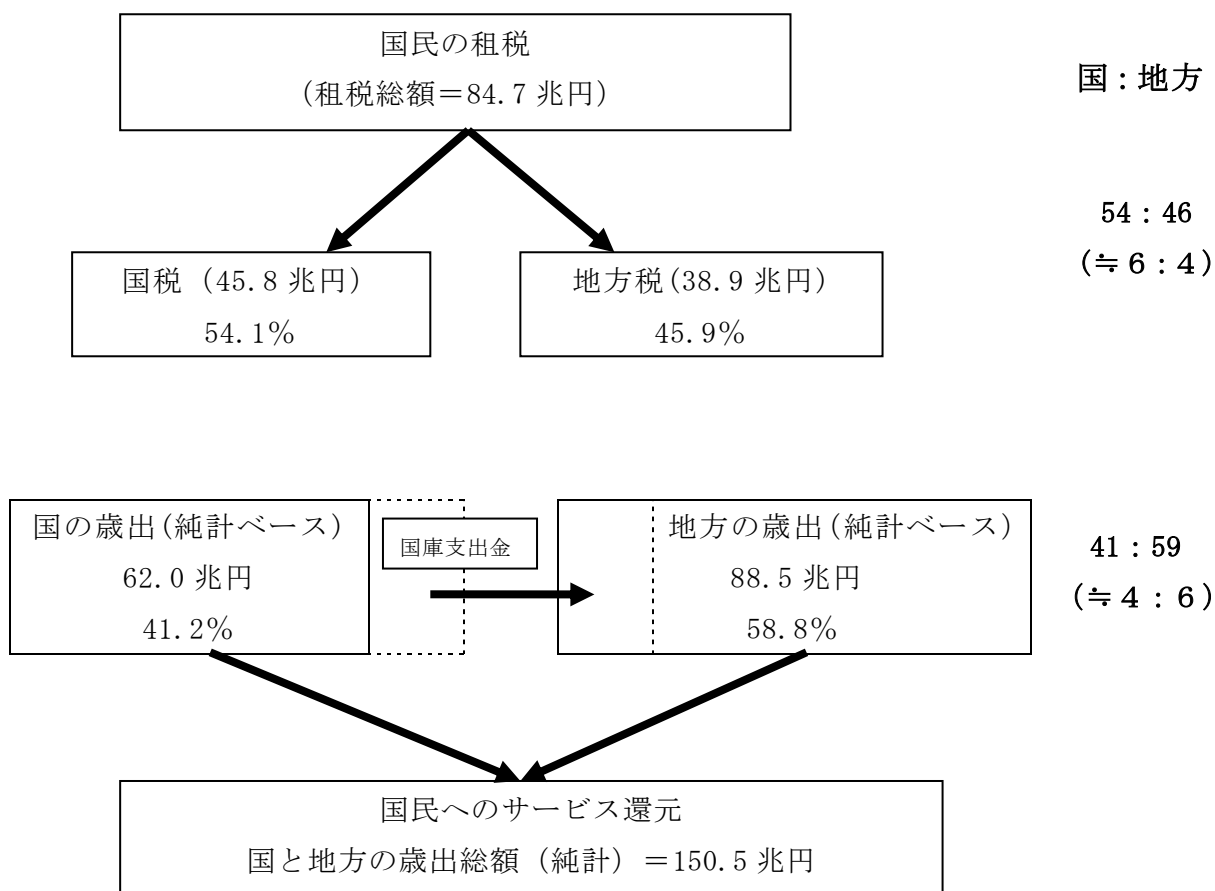
3) 国と地方間の財源配分

我が国の財政は、国民が負担する租税収入においては国と地方の比率は概ね6：4となっているのに対し、最終支出ベースでは国と地方の比率が概ね4：6となっており、最終支出と税源配分の間に大きな開きが存在しています。

これを平成 20 年度決算でみると、租税収入は全体で 84.7 兆円、うち国税が 45.8 兆円、地方税が 38.9 兆円です。

一方、歳出ベースでは、地方交付税や国庫支出金等が地方へ配分されることによって、国の 62.0 兆円に対し、地方は 88.5 兆円となります。第 24 図はこの財源移転のしくみを図解して説明したものです。

第 24 図 国から地方への財源移転のしくみ（平成 20 年度）



第3章 平成21年度決算（見込み）

第1節 決算概要

1) 会計別決算額

本市の平成21年度の一般会計及び特別会計7会計の歳入決算額は783億7,664万円で前年度比2.3%の増、歳出決算額は749億1,458万円で前年度比1.6%の増、歳入総額から歳出総額を差引いた形式収支は34億6,206万円、さらに形式収支から翌年度へ繰越すべき財源を差引いた実質収支は26億3,414万円となりました。

また、簡易水道事業及び水道事業の企業会計の収入額を加えた歳入総額は816億3,733万円で前年度比2.8%の増、支出額を加えた歳出総額は783億5,047万円で前年度比0.9%の増となりました。

第11表 会計別決算総括表

(単位：千円)

		歳入総額 (収入総額)	歳出総額 (支出総額)	形式収支	繰越すべき 財源	実質収支
一般会計		59,596,822	56,950,790	2,646,032	827,922	1,818,110
特別 会計	国民健康保険（事業勘定）	11,092,158	10,552,413	539,745		539,745
	国民健康保険（施設勘定）	172,174	150,902	21,272		21,272
	下水道事業	2,177,753	2,118,922	58,831		58,831
	公設地方卸売市場	242,819	221,987	20,832		20,832
	老人保健	28,457	24,197	4,260		4,260
	介護保険	4,210,017	4,051,738	158,279		158,279
	農業集落排水事業	169,342	161,241	8,101		8,101
	後期高齢者医療	687,094	682,388	4,706		4,706
	小計	18,779,814	17,963,788	816,026		816,026
合 計		78,376,636	74,914,578	3,462,058	827,922	2,634,136
簡易水道 事業	収益的収支	242,397	242,395			
	資本的収支		51,282			
水道事業	収益的収支	1,814,254	1,717,476			
	資本的収支	1,204,043	1,424,737			
総 計		81,637,330	78,350,468			

【用語解説】

① 公営企業会計

上下水道事業や市場事業などは、その事業の収入で支出を賄う独立採算を原則とする公営事業です。特に簡易水道事業と水道事業については、地方公営企業法の適用（簡易水道事業は一部適用）を受けているため他の特別会計とは異なり、民間企業と同じように複式簿記で会計処理を行っています。

区分	簡易水道事業及び水道事業会計の内容
収益的収支	水道料金を主な収入とした、営業活動の収支状況です。
資本的収支	市からの出資金や企業債を主な収入として、配水管の敷設や改良事業を実施した収支状況です。

② 繰越すべき財源

一会計年度から次の会計年度に持ち越した金額を繰越金といいます。繰越金は決算上の純粋な剰余金と、前年度から繰り越された歳出予算に充当しなければならない繰越金の2種類があり、後者を「繰越すべき財源」といいます。

③ 形式収支・実質収支

形式収支とは、単純にその年度の歳入決算額から歳出決算額を差引いたものです。概念的にはすでに債務が確定し、翌年度に支払うべき経費などを考慮しない収支差額になります。

これに対し、実質収支とは、発生主義の要素を加味して実質的な財政収支の結果を明らかにするもので、形式収支から翌年度に繰越すべき財源を控除した決算額のことをいいます。

④ 決算統計

決算統計とは、地方財政に関する最も基本的な統計調査である「地方財政状況調査」のことをいいます。地方公共団体の決算状況を統一のルールに基づいて毎年定期的に調査、集計した基礎的な統計のことで、一般会計と特別会計（公営事業会計を除く）をまとめた普通会計と公営事業会計に分かれており、地方財政施策の実施及び立案の検討資料等に活用されています。

第2節 普通会計決算

この節では、地方財政統計の基礎となる決算統計の区分により分析していますので、決算書とは数値が異なります。

1) 決算規模

本市の普通会計決算は、第12表のとおり歳入が前年度比2.9%増の595億6,161万円、歳出が6.7%増の569億1,557万円となりました。

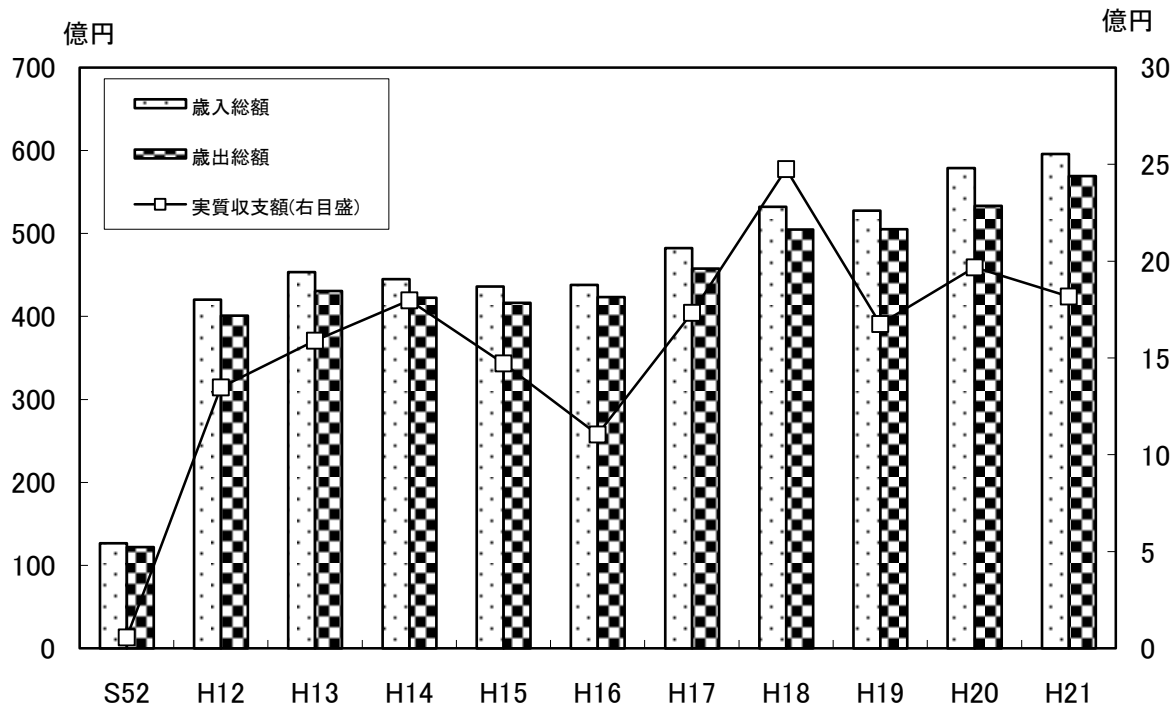
形式収支は26億4,603万円、実質収支は8億2,792万円となりました。

第25図は、成田空港開港前と最近10年間の決算額の推移を示しています。第26図及び第27図は、歳入及び歳出の目的別の内訳です。

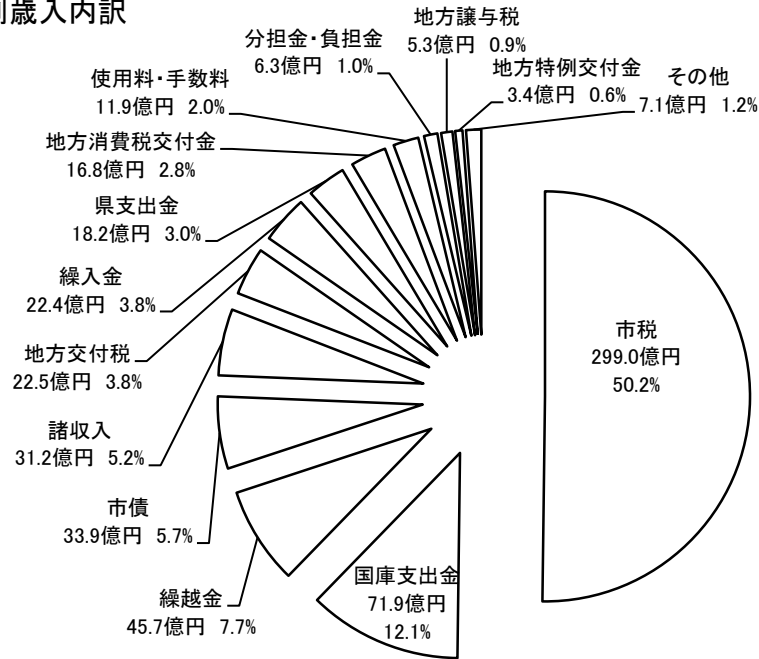
第12表 普通会計決算額 (単位：千円)

	平成21年度	平成20年度	増減額	増減率
歳入総額	59,561,606	57,892,506	1,669,100	2.9 %
歳出総額	56,915,574	53,327,526	3,588,048	6.7 %
形式収支	2,646,032	4,564,980	▲1,918,948	▲42.0 %
繰越財源	827,922	2,596,521	▲1,768,599	▲68.1 %
実質収支	1,818,110	1,968,459	▲150,349	▲7.6 %

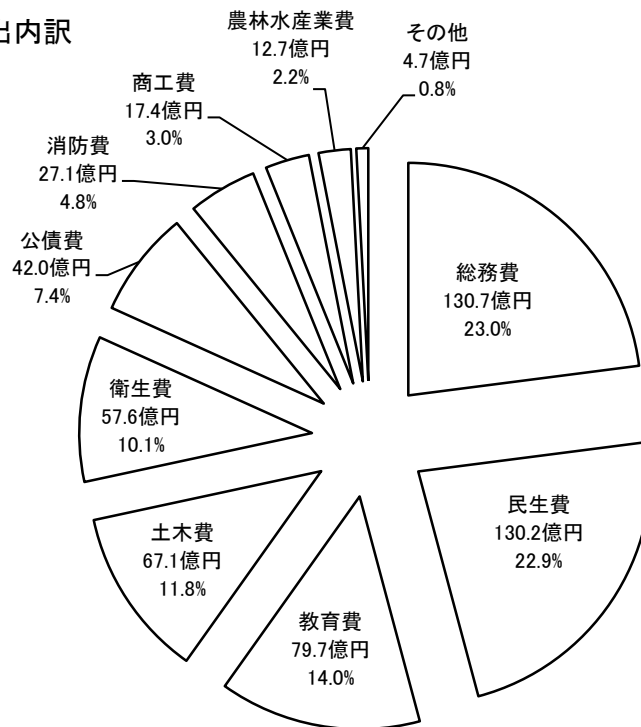
第25図 決算額推移



第26図 目的別歳入内訳



第27図 目的別歳出内訳



【用語解説】

普通会計

地方公共団体は、それぞれ独自に一般会計や特別会計の範囲を定めており、財政規模やその内容の比較をする場合には、同じ基準で整理することが必要となります。そこで、地方財政統計上、統一的に用いられる会計区分が普通会計であり、本市では、「一般会計」のみがその範囲となります。

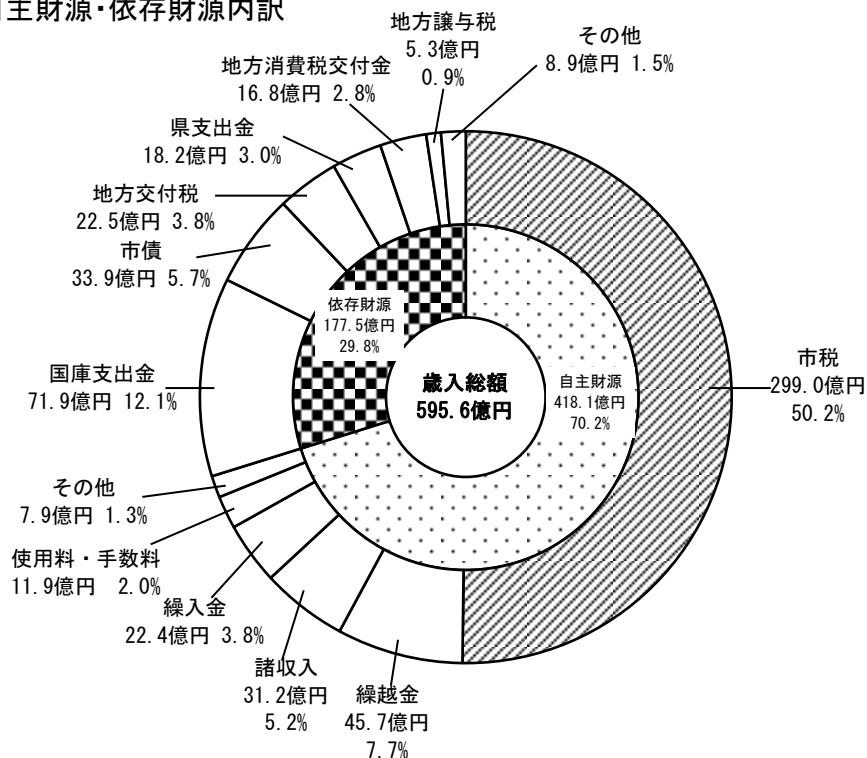
2) 歳入の概要

○自主財源・依存財源

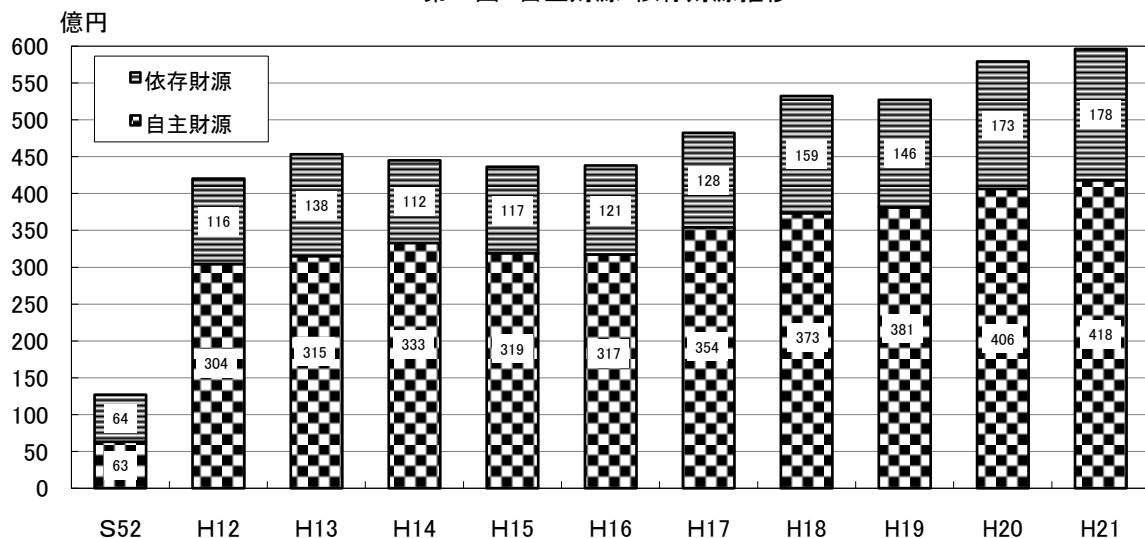
第28図は歳入の内訳を、第29図は自主財源・依存財源の推移を示しています。自主的、かつ、自立的な行政活動をするためには自主財源の割合が高い方が望ましいとされています。平成21年度決算における自主財源の割合は70.2%と高く、その中でも市税が約70%を占めています。

また、その推移を見ると自主財源は比較的安定的に推移しているのに比べ、依存財源の変動が大きいことがわかります。これは各年度の事業規模に応じて、国・県支出金や市債などが増減することによるものです。

第28図 自主財源・依存財源内訳



第29図 自主財源・依存財源推移



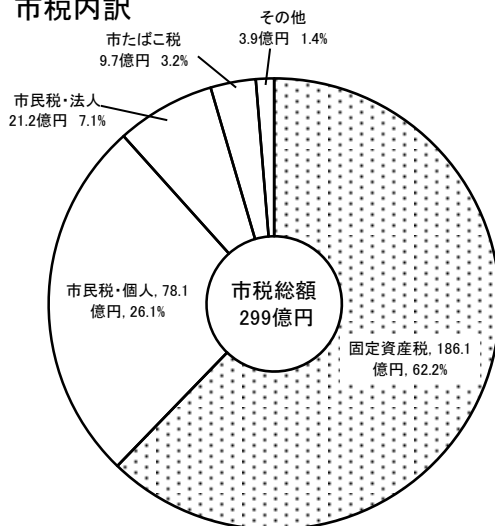
○市税

歳入の根幹をなす市税の平成 21 年度決算額は 299 億円で、歳入全体の 50.2%を占めています。その中でも固定資産税の比重が高く、市税に占める割合は 62.2%です。これは、成田国際空港及びこれに関連する法人等からの税収が多いことに起因しています。平成 20 年度決算に係る県内市全体の構成比と比較してもその高さがわかります。固定資産税は、普遍性及び安定性が他の税目より高いとされており、安定した財政運営ができることとなります。第 30 図は市税の内訳を、第 31 図は市税の構成割合の比較を示しています。

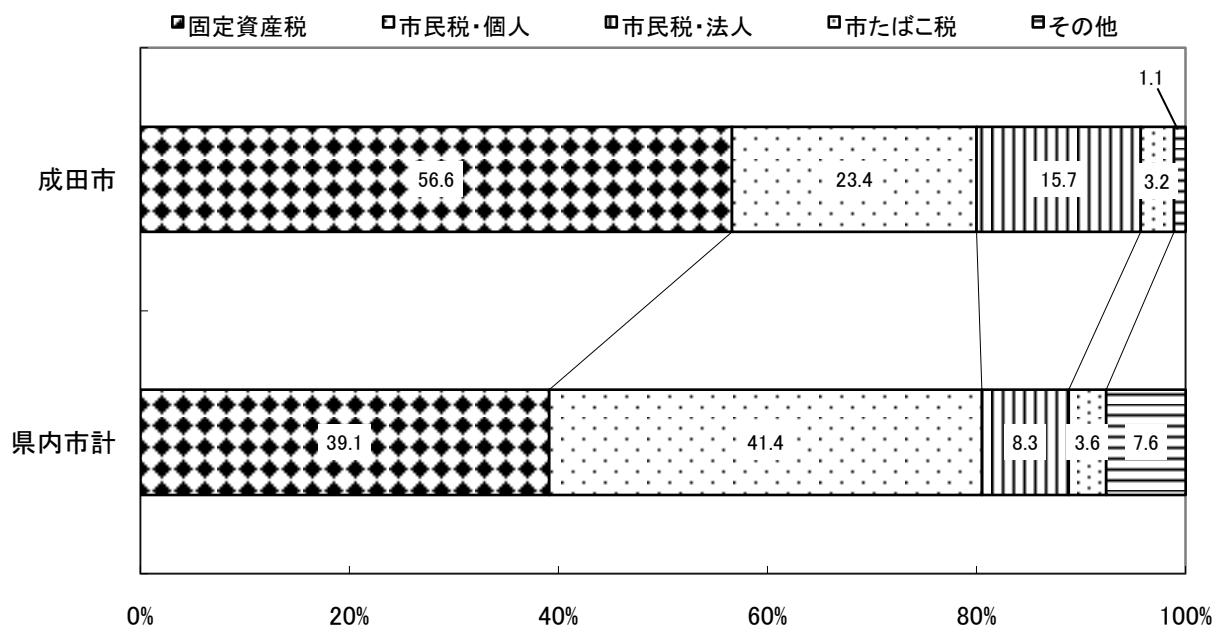
第 32 図（P-45）の市税の推移を見ると、平成 17 年度以降は大規模な空港関連企業の法人市民税課税や個人市民税における税源移譲、定率減税および老年者控除の廃止などの要因により増加が続いておりましたが、平成 21 年度は企業の業績悪化による法人市民税の大幅な減収により、減少となっています。

また固定資産税はここ数年、評価替え及び大規模償却資産に対する県課税の発生などの要因により微増で推移していましたが、平成 20 年度は大規模償却資産に対する県課税が発生しなかったことにより増加しました。

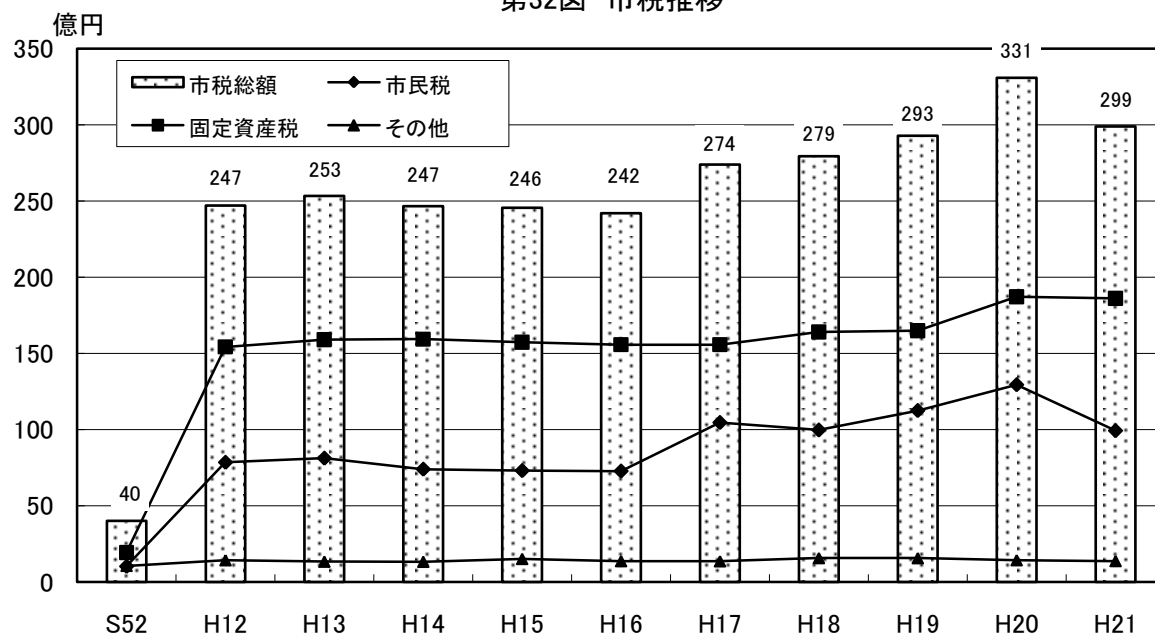
第30図 市税内訳



第31図 市税構成割合比較(平成20年度決算)



第32図 市税推移



第 13 表 市税推移

(単位：千円)

年度	昭和 52 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
市民税	1, 018, 905	7, 847, 147	8, 119, 455	7, 398, 335	7, 303, 307	7, 272, 797
個人	747, 372	5, 315, 832	5, 217, 932	5, 418, 753	5, 064, 226	4, 919, 551
法人	271, 533	2, 531, 315	2, 901, 523	1, 979, 582	2, 239, 081	2, 353, 246
固定資産税	1, 930, 446	15, 428, 615	15, 897, 318	15, 937, 236	15, 740, 544	15, 574, 615
軽自動車税	17, 612	84, 113	88, 723	93, 897	96, 263	101, 171
市たばこ税	193, 275	941, 176	947, 571	943, 123	993, 059	1, 043, 132
鉱産税	132	494	485	522	446	466
特別土地保有税	593, 617	200, 477	88, 184	80, 186	231, 314	26, 239
都市計画税	121, 167	196, 988	204, 051	203, 542	189, 684	192, 891
その他	127, 187					
合計	4, 002, 341	24, 699, 010	25, 345, 787	24, 656, 841	24, 554, 617	24, 211, 311

年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
市民税	10, 460, 481	9, 969, 090	11, 247, 332	12, 942, 600	9, 926, 224
個人	5, 180, 761	6, 212, 245	7, 539, 929	7, 739, 584	7, 810, 866
法人	5, 279, 720	3, 756, 845	3, 707, 403	5, 203, 016	2, 115, 358
固定資産税	15, 575, 842	16, 410, 547	16, 487, 915	18, 725, 625	18, 608, 575
軽自動車税	106, 409	149, 309	156, 068	165, 645	175, 146
市たばこ税	1, 032, 555	1, 190, 265	1, 183, 235	1, 045, 240	975, 292
鉱産税	463	476	465	463	470
特別土地保有税	19, 361	37, 312	27, 936	16, 110	20, 429
都市計画税	194, 696	186, 871	194, 218	198, 942	198, 317
その他					
合計	27, 389, 807	27, 943, 870	29, 297, 169	33, 094, 625	29, 904, 453

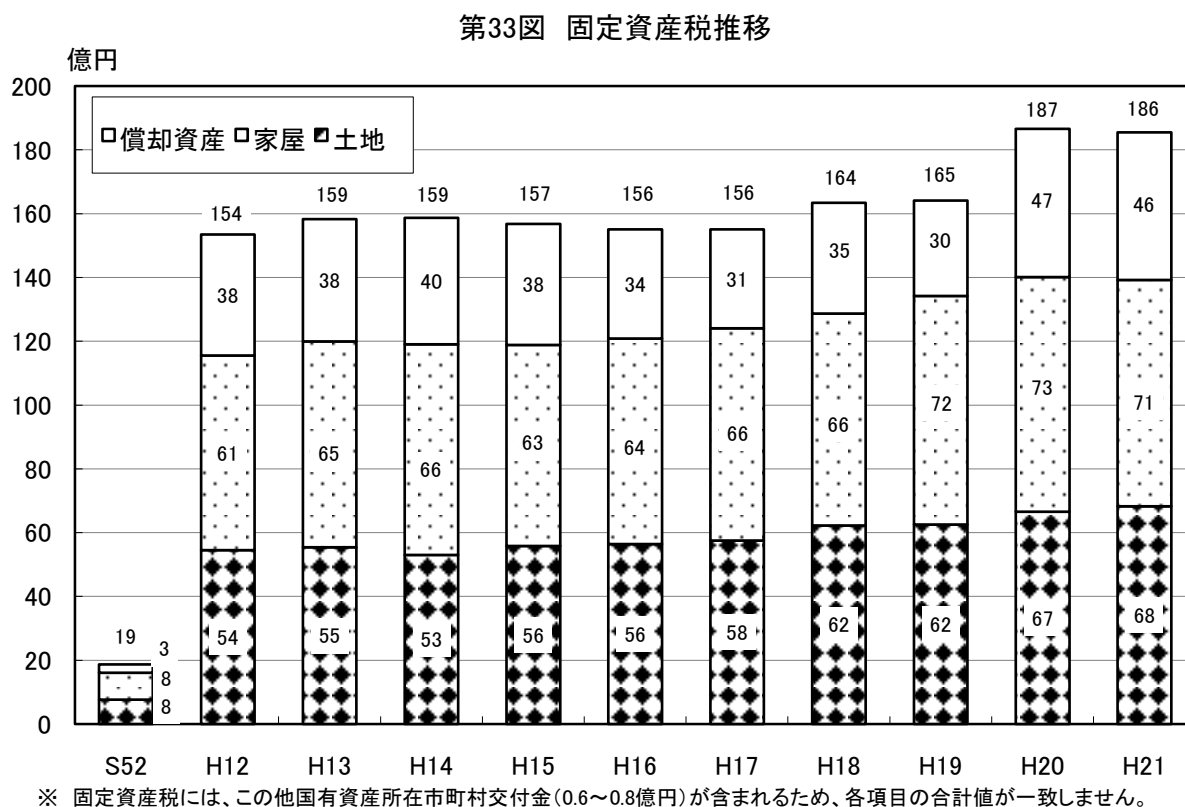
・ 固定資産税

固定資産税は、平成 11 年度以降は微増傾向にありましたが、平成 14 年度をピークに減少し、平成 18 年度は旧下総町及び旧大栄町との合併により増加しました。第 33 図は固定資産税の推移を示しています。

土地については、平成 10 年度以降は、地価の下落を反映した評価替えや税負担の引き下げ据置などが行われたため、土地区画整理事業の進捗など増加の要因があるものの、ほぼ横ばいで推移しています。平成 15 年度が増加している理由は、暫定平行滑走路の供用開始に伴う増収によるものです。

家屋については、平成 10 年度以降は、土地区画整理事業の進捗、ホテルや大規模店舗、集合住宅の新增築などにより増加し、平成 15 年度には建築資材費の下落等を反映した評価替えにより減少しましたが、平成 17 年度以降は増加傾向にあります。

償却資産については、企業の設備投資の動向により伸び率も増減しています。平成 15 年度以降、大規模償却資産に対する県課税が発生したことにより減少しましたが、平成 20 年度は、県課税が発生しなかったことにより増加しました。



【用語解説】

① 固定資産税の評価替え

土地・家屋の評価額については、3 年ごとに新たな価格へ評価替えが行われます。この評価替えの年を基準年度といい、この年度に決定した価格は原則として 3 年間据え置かれます。平成 21 年度は基準年度となっています。

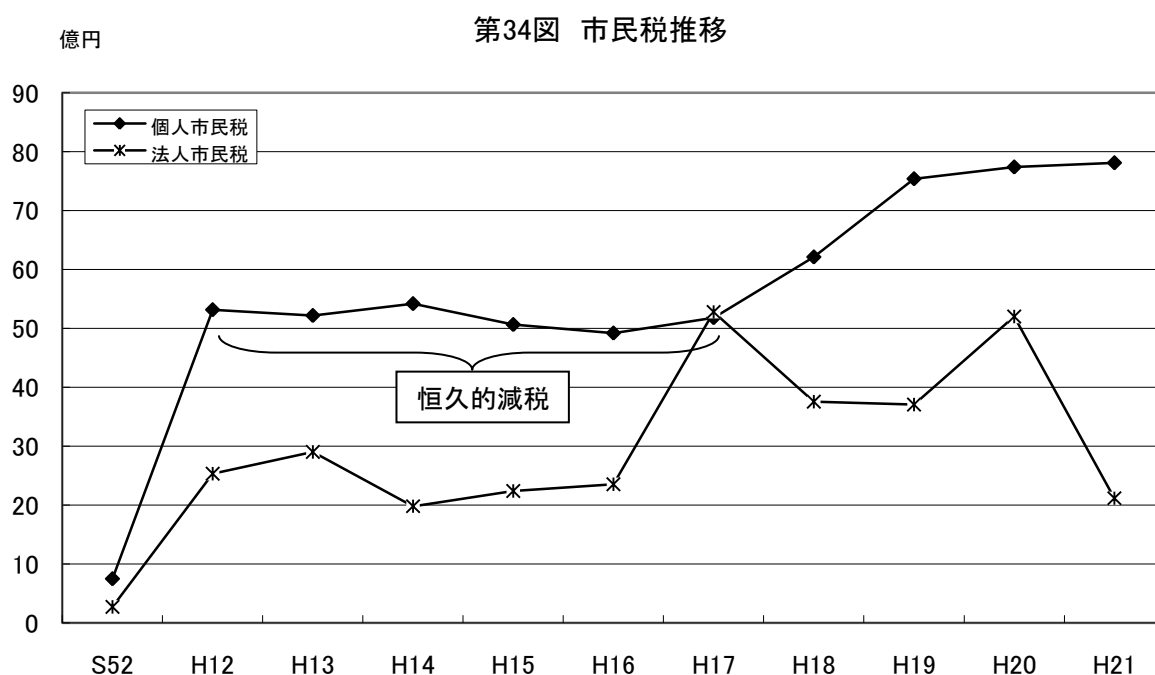
② 土地の価格の修正

土地の価格は原則として基準年度の価格を 3 年間据え置きますが、平成 15 年度の税制改正により、平成 16 年度及び 17 年度において地価の下落があり、価格を据え置くことが適当でないときは、価格を修正することができるようになりました。

・市民税

個人市民税は、平成 10 年度から 17 年度までは、ほぼ横ばいで推移しています。これは、景気対策のために減税措置が実施されたためです。平成 18 年度以降は税制改正による老年者控除、老年者非課税措置及び定率減税の廃止、税源移譲などの要因により著しい増加となっています。

法人市民税は、景気の変動に影響されやすい税で、バブル崩壊後は増減を繰り返しています。平成 15 年度以降は企業収益が回復基調にあることから増加に転じ、特に平成 17 年度は大規模な空港関連企業への法人市民税課税などの要因もあって伸びが著しく、個人市民税をしのぐ水準となっていますが、平成 21 年度は企業の業績悪化により、大幅な減収となりました。第 34 図は市民税の推移を示しています。



【用語解説】

① 税源移譲

納税者が国に納める税（国税）を減らし、都道府県や市町村に納める税（地方税）を増やすことで、国から地方へ税源を移すことです。「地方にできることは地方に」という方針の下、国の関与を縮小し、地方の権限・責任を拡大して、地方分権を一層推進することを目指す「三位一体の改革」の一環として平成 19 年度から行われたものです。

税源移譲による所得税、個人市民税の負担変動（モデル試算・年額）

（単位：円）

給与収入	税 源 移 譲 前			税源 移譲 ⇒	税 源 移 譲 後			負担 増減額 A－B
	所得税	個人市民税	合計 A		所得税	個人市民税	合計 B	
3,000,000	0	9,000	9,000		0	9,000	9,000	0
5,000,000	119,000	76,000	195,000		59,500	135,500	195,000	0
7,000,000	263,000	196,000	459,000		165,500	293,500	459,000	0

※夫婦子供2人（18歳、14歳）、妻子は所得無、一定の社会保険料が所得から控除し計算しています。

※個人市民税の金額は、所得割に係るものであり、このほか均等割が課税されます。

② 償却資産に対する課税の特例

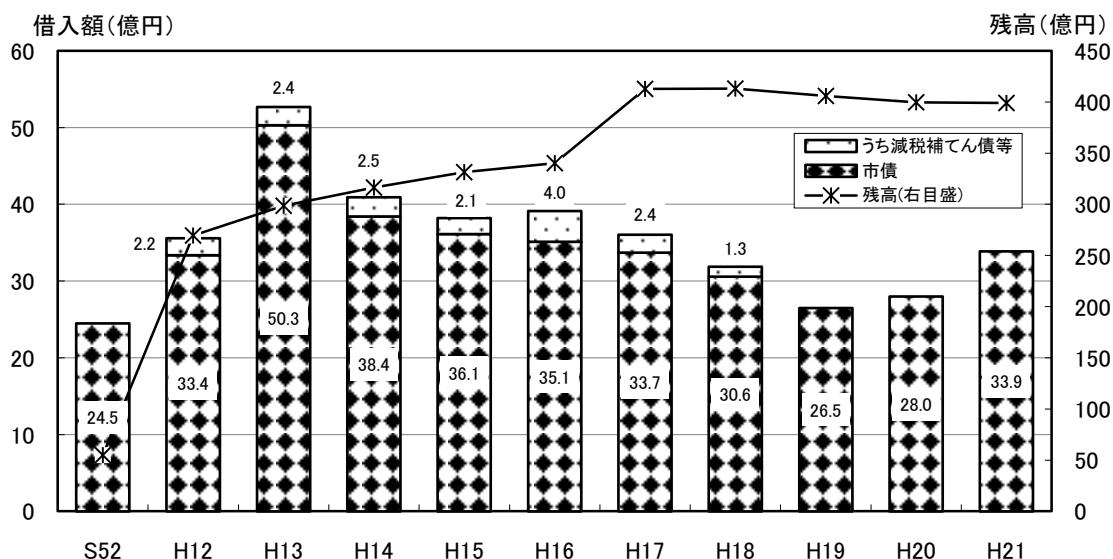
本来、固定資産税は市町村税ですが、大規模償却資産（構築物、機械など）については、市町村財政の均衡上、市町村の課税限度額が法律で定められています。この限度額を超える部分については課税の特例として県が課税することになっています。

○市債

平成21年度の市債借入額は33億9千万円です。主なものとしては、成田新高速鉄道整備事業債で16億3千万円、野球場整備事業債で7億6千万円、新清掃工場整備事業債で1億4千万円、中学校校舎耐震補強及び大規模改造事業債で1億3千万円などがあり、市民生活に密着した公共施設整備を進めています。なお、借入額は対前年度比5億9千万円（21.1%）の増となりました。市債残高は、平成21年度末で398億9千万円となり、前年より7千万円の減少となりました。

第35図は市債の推移を示しています。

第35図 市債推移



【用語解説】

減税補てん債

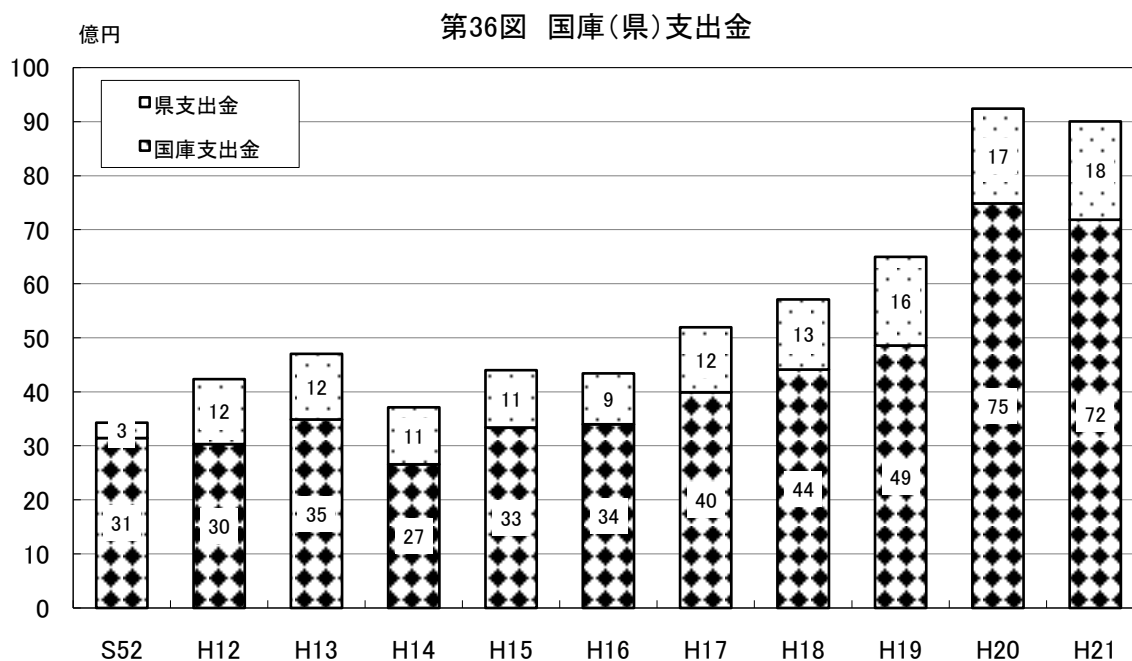
減税補てん債とは、国の減税政策により個人住民税などの減税が実施された場合に、その減収額を補てんするために借入れを行う地方債です。平成 7 年度及び平成 10 年度から 18 年度までの間に発行しています。平成 11 年度からは恒久的減税に伴う地方税の代替的な財源として、地方特例交付金が創設され、減収額の 4 分の 3（たばこ税の増収分は控除）が交付されており、残りの 4 分の 1 を減税補てん債で賄っています。このため、平成 11 年度以降の減税補てん債の額は減少していますが、平成 16 年度は先行減税分が増えています。

○その他の歳入

・国庫（県）支出金

国庫（県）支出金は、毎年度の事業規模に応じて増減します。平成 21 年度は 90 億 1 千万円で、対前年度比 2 億 3 千万円（2.6%）の減少となりました。これは、定額給付金給付事業費補助金で 19 億円、保育園整備事業費補助金で 2 億円、赤坂台方線整備事業費補助金で 1 億 6 千万円減少したことが主な要因となっています。

第 36 図は国庫（県）支出金の推移を示しています。



・県税からの交付金

第 14 表は、県税からの交付金の推移を示しています。

第 14 表 県税からの交付金の推移

(単位：千円)

年 度	昭和 52 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
利子割交付金		384,632	415,672	137,583	100,031	95,897
配当割交付金						23,032
株式等譲渡所得割交付金						27,462
地方消費税交付金		1,410,347	1,349,828	1,215,059	1,410,461	1,573,900
ゴルフ場利用税交付金	47,095	169,834	231,993	199,855	192,549	193,929
自動車取得税交付金	80,533	271,687	278,280	243,339	294,556	275,468
交通安全対策特別交付金	8,418	21,021	21,980	22,842	24,969	24,067
特別消費税交付金		13,722	184			
合 計	136,046	2,271,243	2,297,937	1,818,678	2,022,566	2,213,755

年 度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
利子割交付金	66,875	54,667	72,337	71,495	59,156
配当割交付金	42,347	69,490	78,263	33,641	26,900
株式等譲渡所得割交付金	76,040	64,404	55,998	11,241	13,871
地方消費税交付金	1,463,817	1,772,864	1,729,587	1,590,347	1,678,422
ゴルフ場利用税交付金	182,507	244,789	255,315	247,887	245,170
自動車取得税交付金	312,665	401,918	357,363	286,154	187,771
交通安全対策特別交付金	25,990	31,145	30,164	26,418	25,776
特別消費税交付金					
合 計	2,170,241	2,639,277	2,579,027	2,267,183	2,237,066

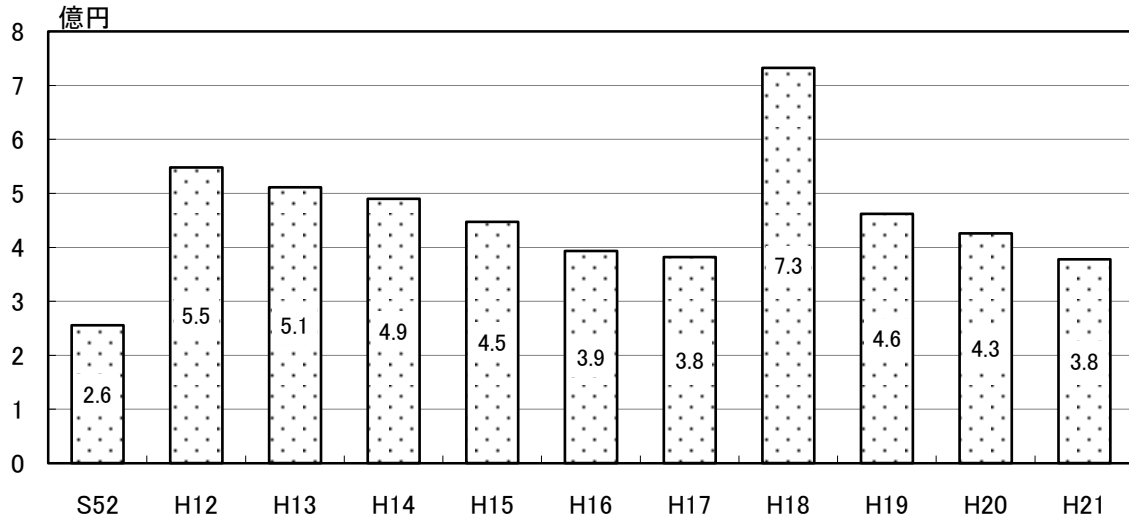
・地方交付税

普通地方交付税は、地方公共団体の財政力に応じて交付されるため、本市は財政力指数が高いので通常は交付を受けることができませんが、合併後 15 年間は特例措置により、旧下総町及び旧大栄町が交付を受けることができた普通交付税額（11 年目以降は逡減した額）が保障されるため、平成 21 年度は 18 億 7 千万円の普通交付税が交付されました。

特別地方交付税は、災害や地域固有の特殊な財政需要などにより交付されます。本市では、平成 21 年度は 3 億 8 千万円の特別交付税が交付されました。

第 37 図は特別地方交付税の推移を示しています。

第37図 特別地方交付税



・ 使用料、手数料、分担金・負担金

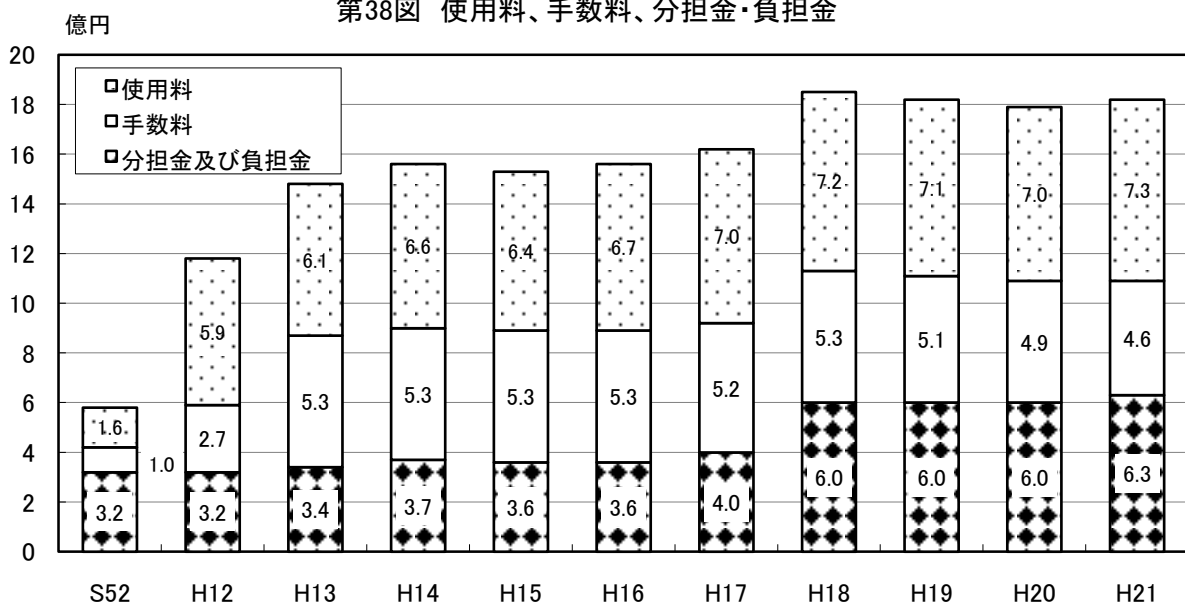
使用料は、公の施設の利用等の対価としてその利用者に負担してもらうもので、市営住宅使用料などがあります。

手数料は、特定の人のために行うサービスに対して必要な経費を負担してもらうもので、ごみ処理手数料や各種証明書の交付手数料などがあります。平成 13 年度は、ごみ処理手数料の改正があったため倍増しています。

その他に、特定の利益を受けた人に負担をしてもらい、その必要な費用に充てるもので、分担金・負担金があります。

第 38 図は使用料、手数料、分担金・負担金の推移を示しています。

第38図 使用料、手数料、分担金・負担金



○歳入決算額の推移

第15表は、空港開港前と最近10年間の歳入の決算額の推移を示しています。

第15表 歳入決算額推移

区 分		昭和52年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
自主財源	市税	4,002,341	24,699,010	25,345,787	24,656,841	24,554,617
	その他	諸収入	838,617	2,611,992	2,504,285	2,727,310
		分担金及び負担金	318,354	317,777	338,469	356,626
		使用料及び手数料	261,104	863,282	1,142,177	1,165,369
		財産収入	632,165	207,141	115,810	238,880
		繰越金	243,916	1,527,381	1,938,208	2,248,411
		繰入金		189,050	328,377	635,662
		寄附金	12,419	8,264	6,684	3,770
		計	2,306,575	5,724,887	6,199,950	7,376,028
	合 計		6,308,916	30,423,897	31,545,737	33,320,847
依存財源	国県支出金	国庫支出金	3,142,337	3,033,903	3,487,316	2,660,432
		県支出金	288,715	1,198,729	1,214,899	1,052,207
		計	3,431,052	4,232,632	4,702,215	3,712,639
	市債		2,451,400	3,561,500	5,270,900	4,095,679
	その他	地方消費税交付金		1,410,347	1,349,828	1,215,059
		地方特例交付金		591,803	624,110	673,408
		地方交付税	255,538	548,020	511,028	490,064
		地方譲与税	96,773	390,720	388,702	398,584
		自動車取得税交付金	80,533	271,687	278,280	243,339
		ゴルフ場利用税交付金	47,095	169,834	231,993	199,855
		利子割交付金		384,632	415,672	137,583
		配当割交付金				
		株式等譲渡所得割交付金				
		交通安全対策特別交付金	8,418	21,021	21,980	22,842
		特別消費税交付金		13,722	184	
		計	488,357	3,801,786	3,821,777	3,380,734
	合 計		6,370,809	11,595,918	13,794,892	11,189,052
	総 計		12,679,725	42,019,815	45,340,629	44,509,899
						43,611,946

※ 決算統計による区分及び金額に基づき表記してあるため、決算書の数値とは一致しません。

(単位：千円)

平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	区 分	
24,211,311	27,389,807	27,943,870	29,297,169	33,094,625	29,904,453	市税	自主財源 その他
2,949,506	3,130,366	3,119,506	3,482,819	3,140,480	3,123,983	諸収入	
363,272	397,599	602,890	604,314	604,657	632,750	分担金及び負担金	
1,202,308	1,218,195	1,242,105	1,217,927	1,181,126	1,193,654	使用料及び手数料	
101,820	185,087	150,327	170,142	197,277	147,552	財産収入	
1,977,651	1,474,831	2,461,082	2,738,352	2,216,076	4,564,980	繰越金	
918,490	1,615,535	1,776,280	611,553	131,135	2,243,277	繰入金	
23,479	33,370	3,842	6,050	3,265	4,555	寄附金	
7,536,526	8,054,983	9,356,032	8,831,157	7,474,016	11,910,751	計	
31,747,837	35,444,790	37,299,902	38,128,326	40,568,641	41,815,204	合 計	
3,397,283	3,992,151	4,411,613	4,858,874	7,486,579	7,186,545	国庫支出金	依存財源 その他
942,590	1,202,344	1,295,885	1,642,273	1,757,430	1,820,549	県支出金	
4,339,873	5,194,495	5,707,498	6,501,147	9,244,009	9,007,094	計	
3,913,600	3,607,100	3,189,500	2,648,700	2,799,200	3,388,600	市債	
1,573,900	1,463,817	1,772,864	1,729,587	1,590,347	1,678,422	地方消費税交付金	
599,101	600,756	803,315	204,893	325,659	338,414	地方特例交付金	
393,151	382,113	2,114,725	2,100,347	2,134,508	2,249,784	地方交付税	
610,240	826,619	1,472,547	580,630	553,306	525,444	地方譲与税	
275,468	312,665	401,918	357,363	286,154	187,771	自動車取得税交付金	
193,929	182,507	244,789	255,315	247,887	245,170	ゴルフ場利用税交付金	
95,897	66,875	54,667	72,337	71,495	59,156	利子割交付金	
23,032	42,347	69,490	78,263	33,641	26,900	配当割交付金	
27,462	76,040	64,404	55,998	11,241	13,871	株式等譲渡所得割交付金	
24,067	25,990	31,145	30,164	26,418	25,776	交通安全対策特別交付金	
						特別消費税交付金	
3,816,247	3,979,729	7,029,864	5,464,897	5,280,656	5,350,708	計	
12,069,720	12,781,324	15,926,862	14,614,744	17,323,865	17,746,402	合 計	
43,817,557	48,226,114	53,226,764	52,743,070	57,892,506	59,561,606	総 計	

3) 歳出の概要

○目的別経費

第 16 表は平成 21 年度普通会計決算額の目的別経費の前年度比較です。

第 16 表 目的別経費前年比較表

	平成21年度		平成20年度		増減額 (千円)	増減率 (%)
	決算額 (千円)	構成比 (%)	決算額 (千円)	構成比 (%)		
議会費	406,241	0.7	400,843	0.7	5,398	1.3
総務費	13,069,983	23.0	11,022,364	20.7	2,047,619	18.6
民生費	13,016,893	22.9	12,549,194	23.5	467,699	3.7
衛生費	5,754,584	10.1	5,866,540	11.0	▲111,956	▲1.9
労働費	67,866	0.1	40,520	0.1	27,346	67.5
農林水産業費	1,270,363	2.2	1,257,950	2.3	12,413	1.0
商工費	1,743,210	3.0	1,654,996	3.1	88,214	5.3
土木費	6,708,512	11.8	7,120,083	13.4	▲411,571	▲5.8
消防費	2,714,116	4.8	2,881,398	5.4	▲167,282	▲5.8
教育費	7,967,154	14.0	6,339,461	11.9	1,627,693	25.7
災害復旧費	0	0.0	0	0.0	0	0.0
公債費	4,196,652	7.4	4,194,177	7.9	2,475	0.1
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0
歳出合計	56,915,574	100.0	53,327,526	100.0	3,588,048	6.7

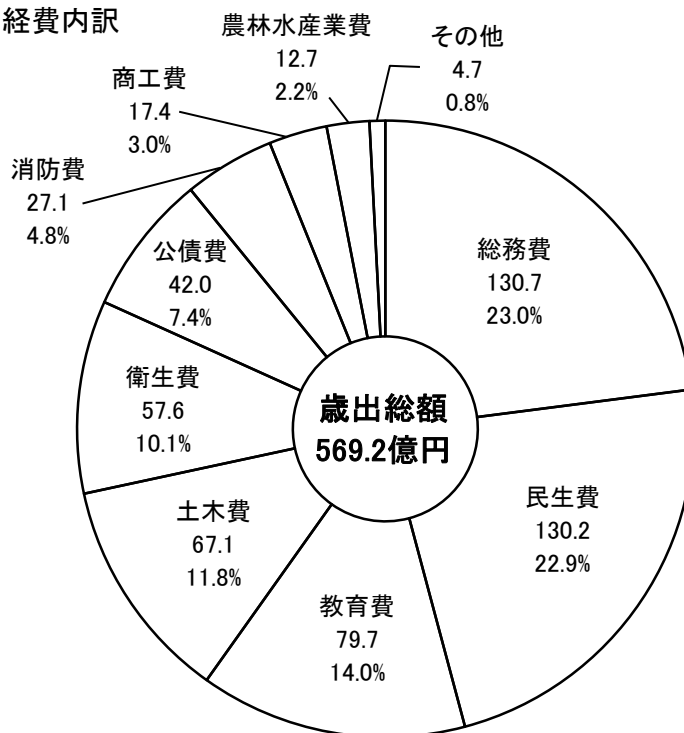
〔各費目の主な増減理由〕

総務費	定額給付金、成田新高速鉄道事業補助金、税過誤納還付金・加算金などの増により、20 億 5 千万円、18.6%の増となった。
民生費	生活保護費などの扶助費、国民健康保険特別会計などへの繰出金の増により、4 億 7 千万円、3.7%の増となった。
土木費	幹線道路整備事業、運動公園整備事業などの減により、4 億 1 千万円、5.8%の減となった。
教育費	野球場整備事業、中学校大規模改造事業などの増により 16 億 3 千万円、25.7%の増となった。

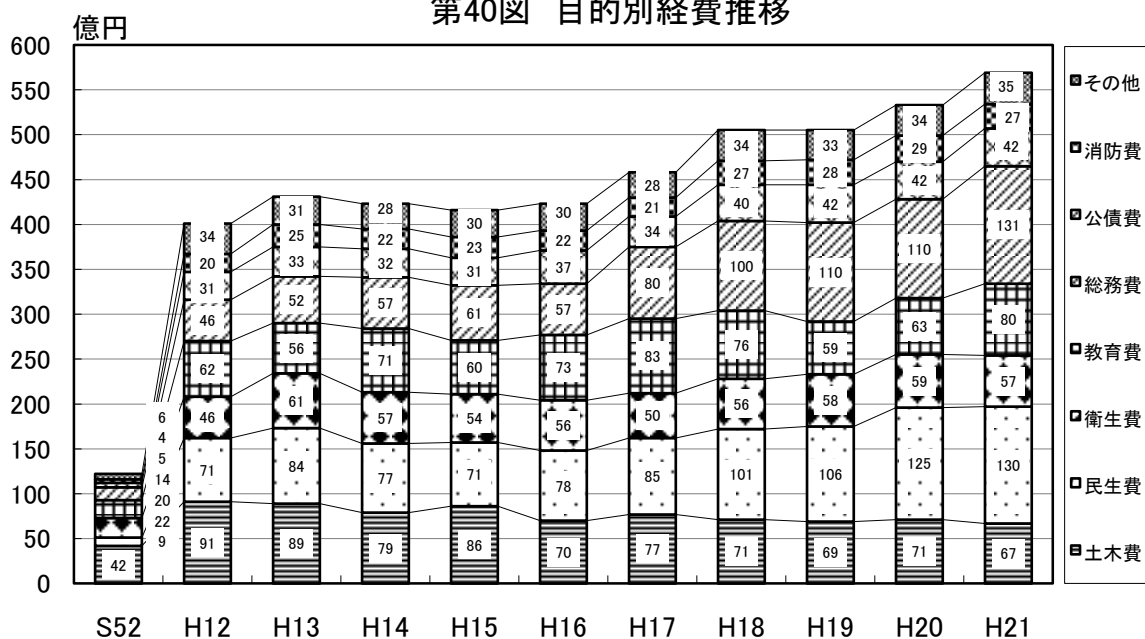
・ 目的別経費内訳

第 39 図は歳出を行政の目的別経費に分類したもので、第 40 図はその推移を示しています。決算額が大きなものは、「総務費」、「民生費」、「教育費」、「土木費」、「衛生費」であり、平成 21 年度はこれらで 8 割を占めています。また、民生費は毎年増加傾向にあり、この 10 年間で 1.8 倍以上になっています。

第39図 目的別経費内訳

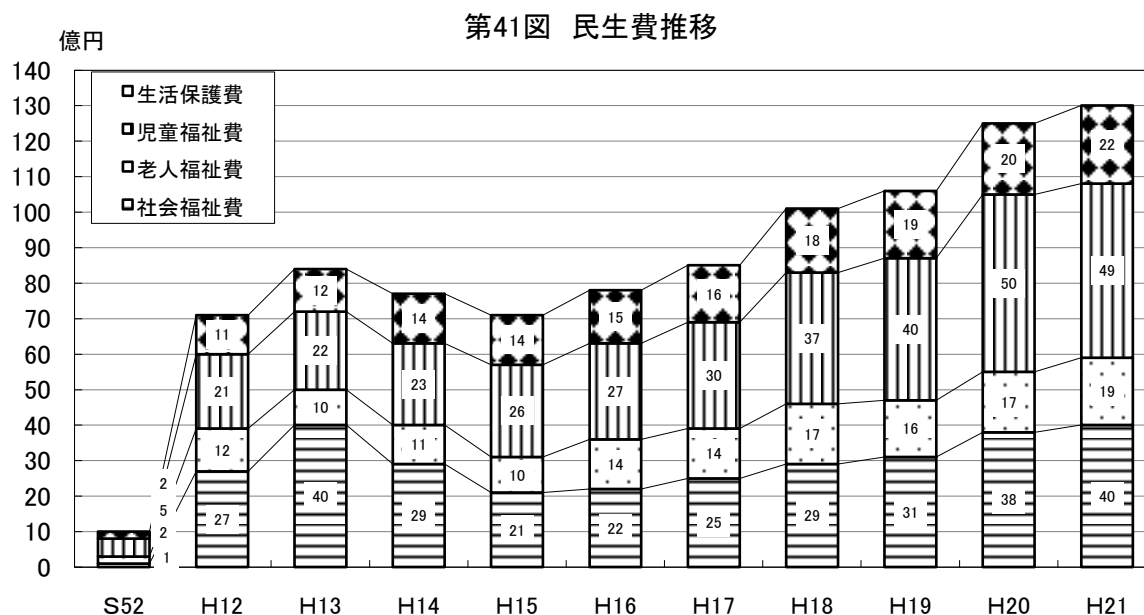


第40図 目的別経費推移



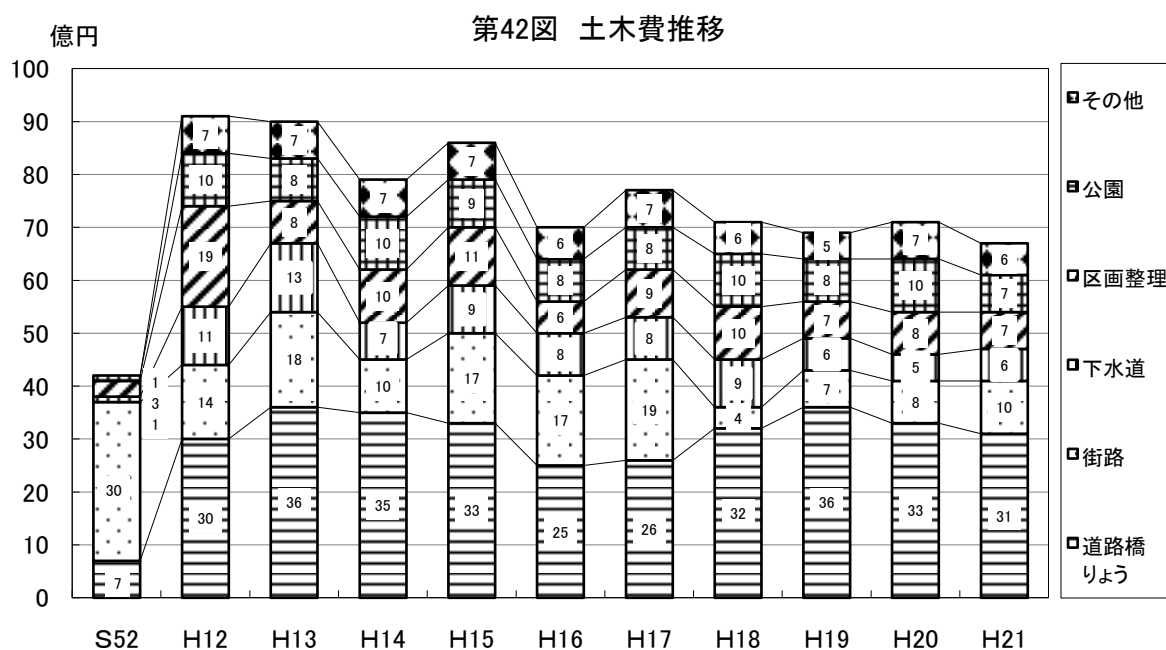
・ 民生費推移

第 41 図は民生費の推移を示しています。平成 14 年度から保健福祉館整備事業費の減に伴い一時的に減少しています。平成 18 年度以降は生活保護費や児童手当などの扶助費の増によるほか、合併による要因により全般的に増加しています。



・ 土木費推移

土木費は道路や公園などの社会資本形成に向けられる経費ですが、毎年度の事業の進捗状況により増減します。平成 21 年度が減少しているのは、幹線道路整備事業、運動公園整備事業などの減によるものです。第 42 図は土木費の推移を示しています。

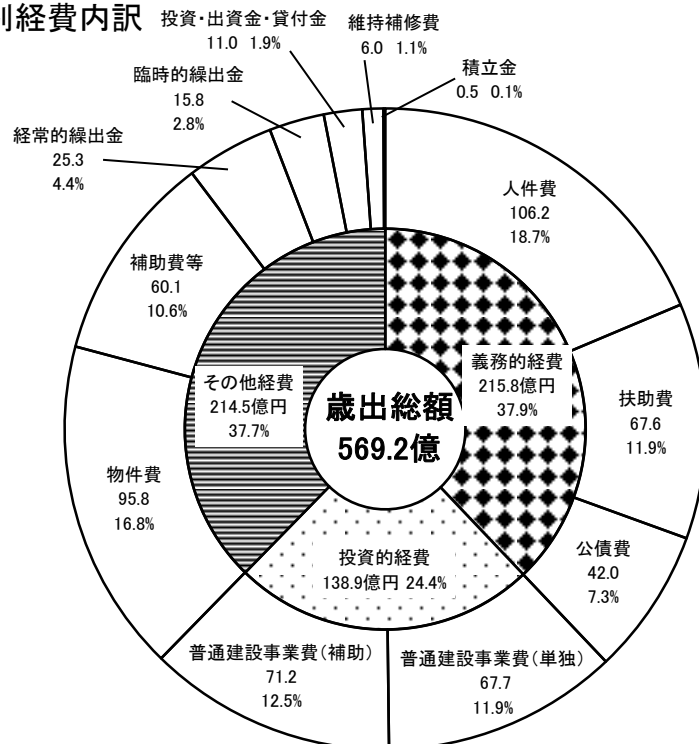


○性質別経費

平成 21 年度の歳出額 569 億 2 千万円を性質別に分類すると第 43 図のとおりとなります。

義務的経費は法令等の規定により任意に削減できないため、この比率が高いと財政構造が硬直化しているといえます。平成 21 年度は、この義務的経費が 37.9%を占めていますが、普通建設事業費のように行政水準の向上に積極的に寄与する投資的経費は 24.4%を確保しています。第 17 表は性質別経費の前年度比較です。

第43図 性質別経費内訳



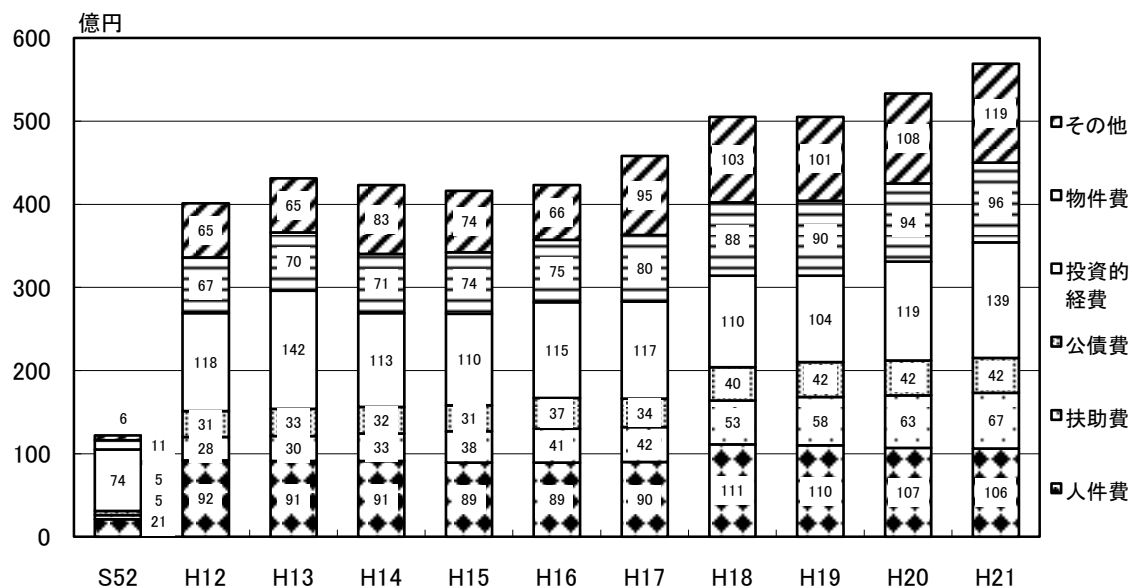
第 17 表 性質別経費前年度比較

		平成21年度		平成20年度		増減額 (千円)	増減率 (%)
		決算額 (千円)	構成比 (%)	決算額 (千円)	構成比 (%)		
義務的経費	人件費	10,616,936	18.7	10,703,325	20.1	▲86,389	▲0.8
	扶助費	6,762,389	11.9	6,340,654	11.9	421,735	6.7
	公債費	4,196,652	7.3	4,194,177	7.8	2,475	0.1
	小計	21,575,977	37.9	21,238,156	39.8	337,821	1.6
投資的経費		13,890,941	24.4	11,880,618	22.3	2,010,323	16.9
その他の経費	物件費	9,575,814	16.8	9,378,071	17.6	197,743	2.1
	維持補修費	596,048	1.1	611,543	1.2	▲15,495	▲2.5
	補助費等	6,011,481	10.6	2,905,545	5.4	3,105,936	106.9
	繰出金	4,119,966	7.2	3,681,758	6.9	438,208	11.9
	積立金	48,393	0.1	2,479,286	4.6	▲2,430,893	▲98.0
	投資・出資・貸付金	1,096,954	1.9	1,152,549	2.2	▲55,595	▲4.8
小計		21,448,656	37.7	20,208,752	37.9	1,239,904	6.1
歳出合計		56,915,574	100.0	53,327,526	100.0	3,588,048	6.7

・ 性質別経費推移

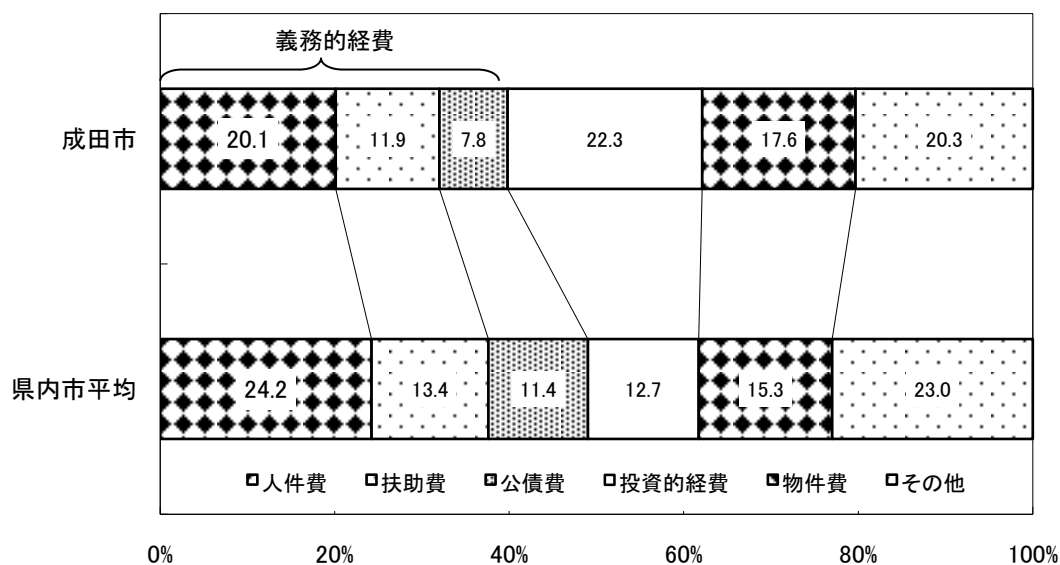
投資的経費は公共施設整備の状況により増減していますが、義務的経費は増加傾向にあります。第44図は性質別経費の推移を示しています。

第44図 性質別経費推移



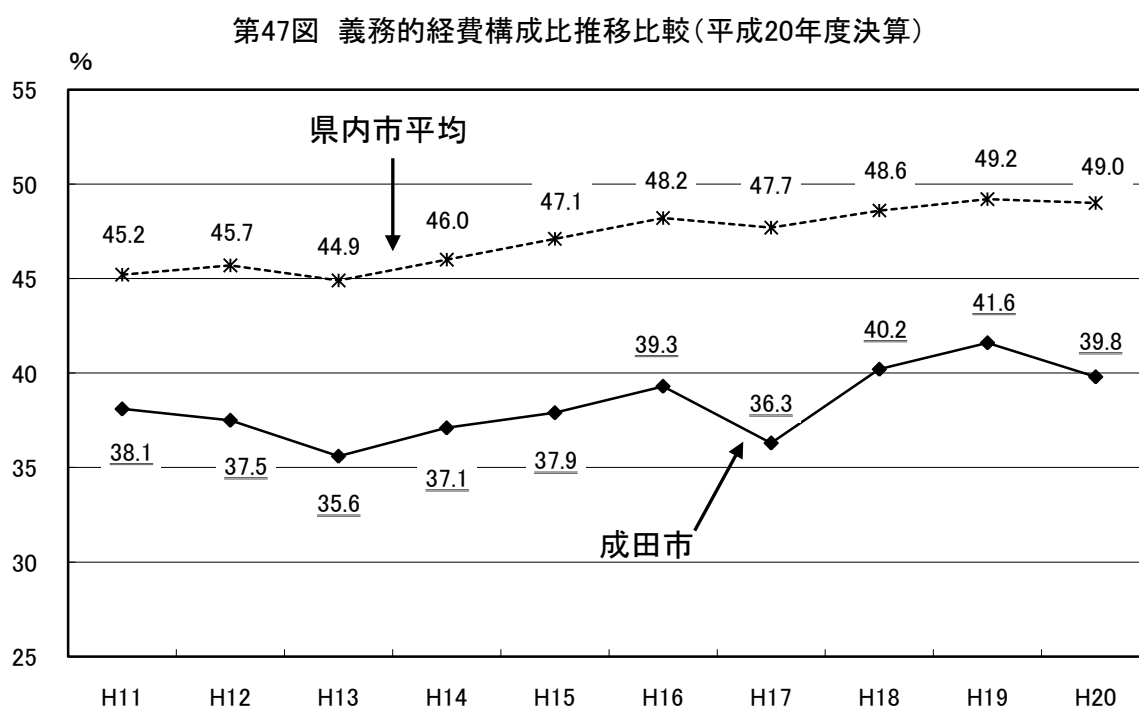
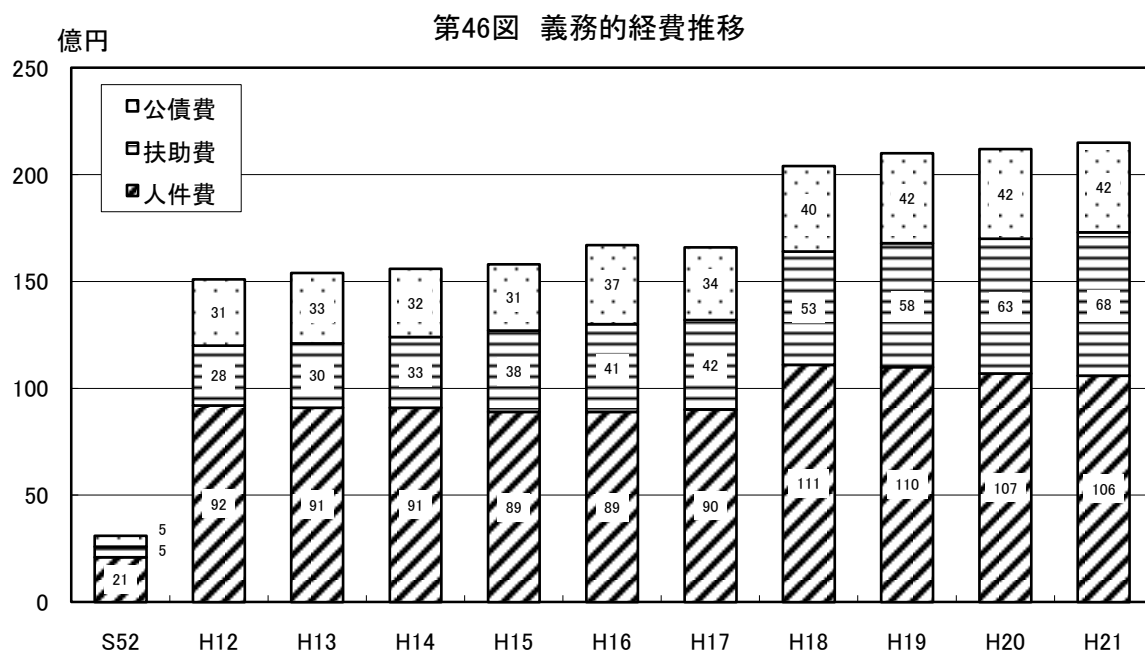
第45図は平成20年度決算の性質別経費の構成比を県内の市平均と比較したものです。県内の市平均と比較すると、人件費等の義務的経費の割合が低く（マイナス9.2%）、公共施設整備等に充てることができる投資的経費の割合が高い（プラス9.6%）ことから、本市の財政の硬直度が低いことを示しています。

第45図 性質別経費構成比比較（平成20年度決算）



・義務的経費推移

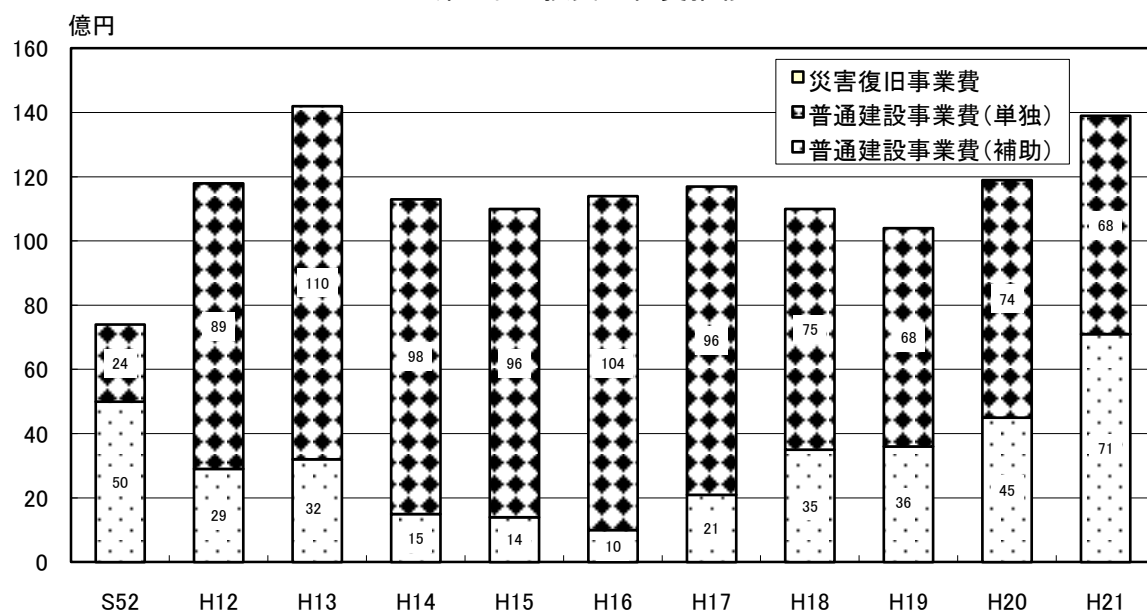
平成 12 年度の介護保険制度の導入により、一旦扶助費が減少しましたが、全体的には増加傾向にあります。義務的経費は任意に削減できない経費であるため、特に注意が必要です。第 46 図は義務的経費の推移を示し、第 47 図は歳出に占める義務的経費の構成比を県内の市平均と比較したものです。平均値と比べて低い水準で推移しており本市の財政が弾力性を維持していることがわかります。



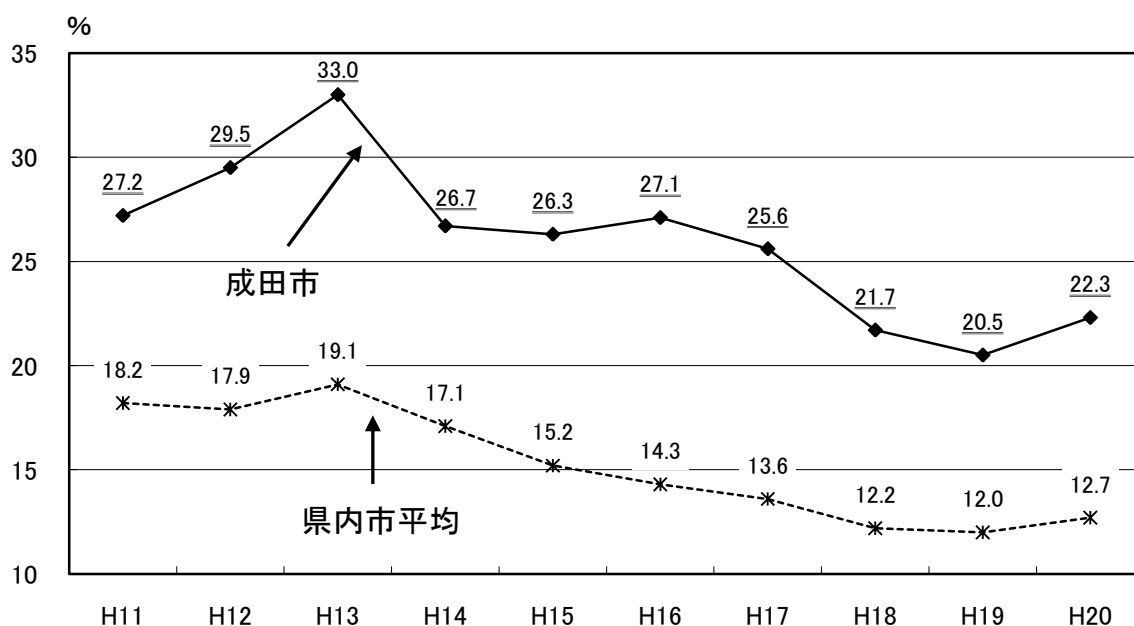
・投資的経費推移

平成 21 年度の普通建設事業費は、成田新高速鉄道整備事業、中学校大規模改造事業、野球場整備事業などの大規模な公共施設整備事業の増により増加しています。第 48 図は投資的経費の推移を示し、第 49 図は歳出に占める投資的経費の構成比を県内の市平均と比較したものです。年度によって増減がありますが、全体的には平均値より高い水準を維持しています。

第48図 投資的経費推移



第49図 投資的経費構成比推移比較（平成20年度決算）

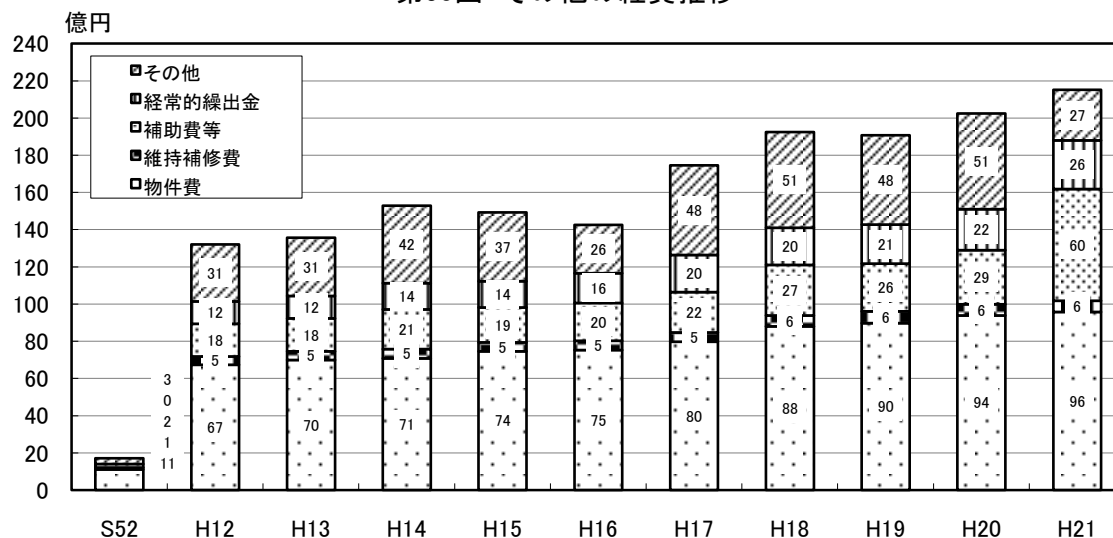


・その他の経費推移

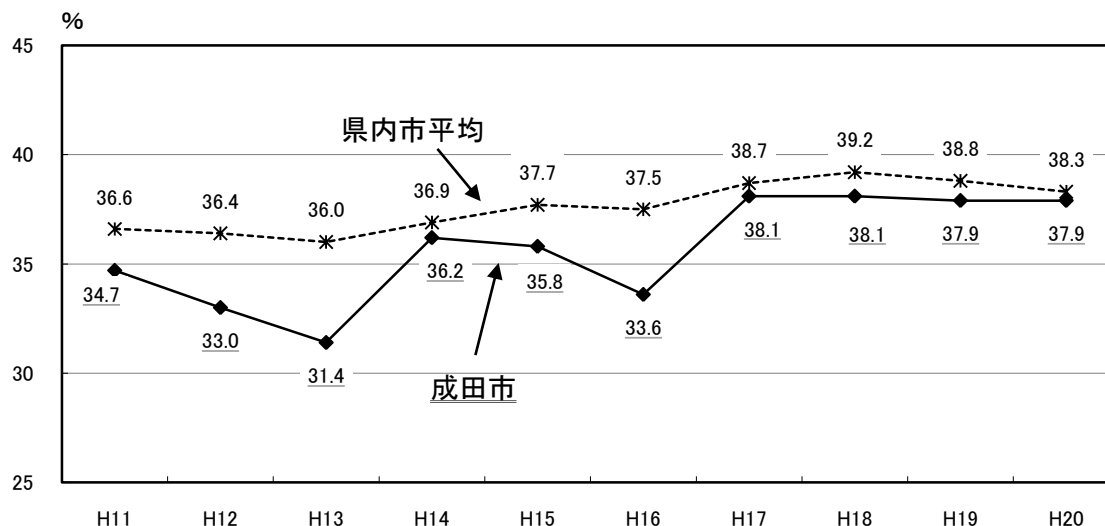
その他の経費のうち、最も大きい割合を占めるのが物件費です。物件費は消耗品の購入等の需用費、市の施設の管理運営を民間企業に委託する委託料等があり、毎年経常的に支出されるものです。このような経常的経費については、予算編成方針においても掲げているとおり徹底的に事務の精査を行い削減できるよう努めています。

第50図はその他の経費の推移を示し、第51図は歳出に占めるその他の経費の構成比を県内の市平均と比較したものです。

第50図 その他の経費推移



第51図 その他の経費構成比推移比較(平成20年度決算)



【用語解説】

経常的経費

毎年継続して固定的に支出される経費で、一時的、偶発的な行政需要に対応して支出される経費である臨時的経費と区分されるものです。これには義務的経費のほかに、物件費、維持補修費、補助費等、経常的繰出金が該当します。

○歳出決算額の推移

第 18 表 歳出決算額推移

空港開港前と最近 10 年間の決算額（歳出）の推移です。

区 分		昭和 52 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	
歳出(目的別)	議会費	119,843	395,163	387,601	372,778	387,985	
	総務費	1,410,695	4,633,516	5,176,749	5,645,239	6,101,903	
	民生費	951,275	7,061,833	8,409,717	7,698,843	7,131,948	
	衛生費	2,164,476	4,592,786	6,097,649	5,727,433	5,351,658	
	労働費		55,357	49,686	42,428	38,397	
	農林水産業費	317,249	1,417,018	1,197,674	946,449	949,671	
	商工費	142,764	1,500,875	1,477,190	1,459,424	1,683,571	
	土木費	4,164,738	9,071,579	8,900,303	7,902,409	8,565,820	
	消防費	442,559	2,047,020	2,462,664	2,177,987	2,314,244	
	教育費	2,011,275	6,205,132	5,649,432	7,086,118	5,966,536	
	災害復旧費	5,275					
	公債費	454,242	3,101,328	3,275,708	3,202,380	3,142,562	
	諸支出金						
	前年度繰上充用金						
	目的別合計		12,184,391	40,081,607	43,084,373	42,261,488	41,634,295
歳出(性質別)	義務的経費	人件費	2,063,555	9,157,461	9,087,548	9,112,743	8,881,779
		扶助費	539,416	2,759,944	2,955,789	3,336,083	3,772,742
		公債費	454,207	3,101,133	3,275,593	3,202,309	3,142,526
		小計	3,057,178	15,018,538	15,318,930	15,651,135	15,797,047
	投資的経費	普通建設事業費(補助)	5,047,286	2,916,632	3,234,105	1,524,731	1,341,512
		普通建設事業費(単独)	2,377,605	8,898,966	10,969,144	9,782,303	9,631,429
		災害復旧事業費	5,275				
		小計	7,430,166	11,815,598	14,203,249	11,307,034	10,972,941
	その他	物件費	1,091,969	6,732,946	6,982,648	7,079,287	7,444,198
		維持補修費	97,717	452,095	473,300	489,114	488,544
		補助費等	239,897	1,752,264	1,767,101	2,141,130	1,883,936
		経常的繰出金		1,157,081	1,206,828	1,420,264	1,352,981
		積立金	85,679	257,134	822,212	2,240,444	1,485,224
		投資・出資金・貸付金	18,841	1,123,676	917,133	1,034,024	1,148,335
		臨時的繰出金	162,944	1,772,275	1,392,972	899,056	1,061,089
		前年度繰上充用金					
		小計	1,697,047	13,247,471	13,562,194	15,303,319	14,864,307
	性質別合計		12,184,391	40,081,607	43,084,373	42,261,488	41,634,295

(単位：千円)

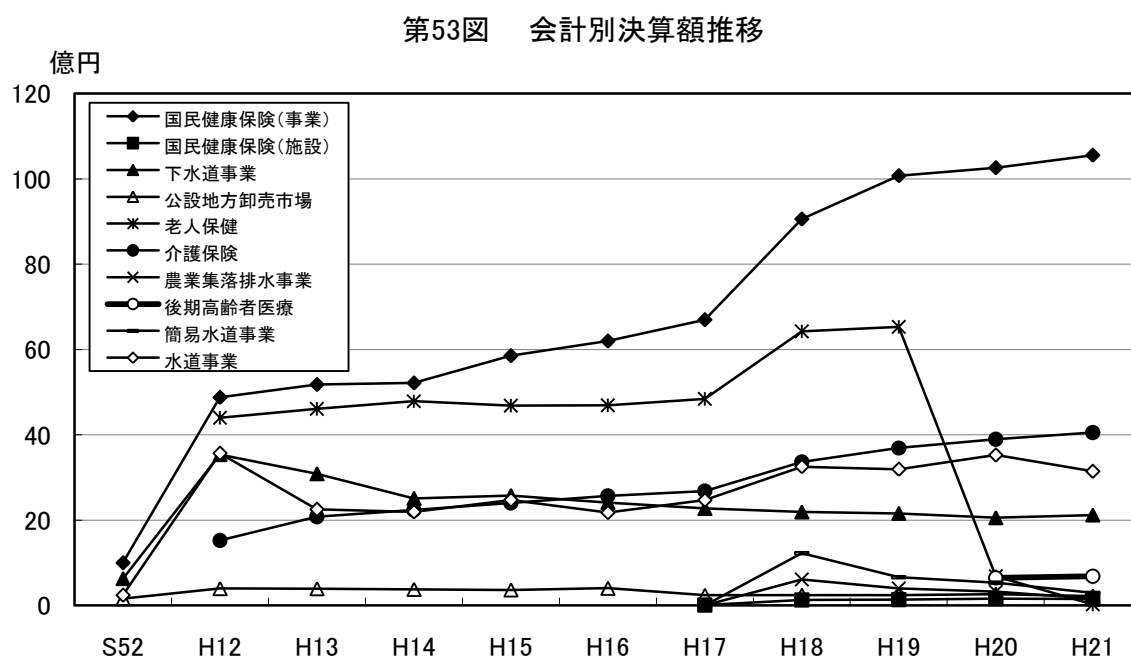
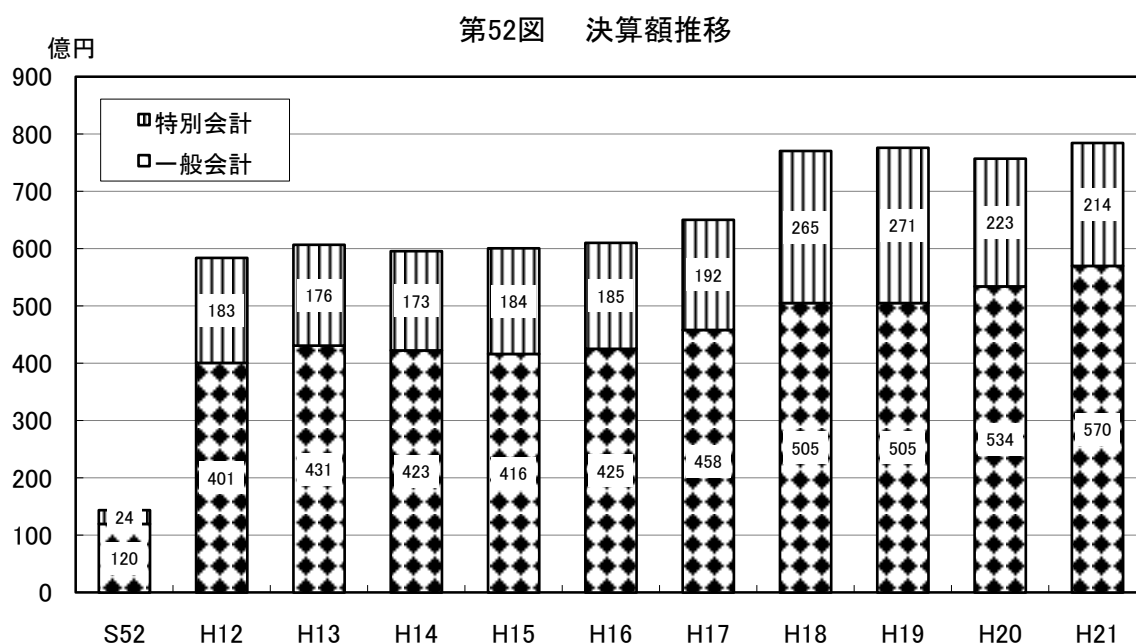
平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	区 分	
402,991	405,454	548,406	459,307	400,843	406,241	議会費	歳出(目的別)
5,698,674	7,958,674	10,002,492	10,956,236	11,022,364	13,069,983	総務費	
7,829,014	8,509,816	10,065,966	10,621,080	12,549,194	13,016,893	民生費	
5,589,913	5,049,320	5,629,740	5,832,369	5,866,540	5,754,584	衛生費	
37,720	31,729	33,406	35,730	40,520	67,866	労働費	
897,677	857,292	1,290,563	1,269,017	1,257,950	1,270,363	農林水産業費	
1,658,406	1,500,079	1,523,132	1,556,751	1,654,996	1,743,210	商工費	
7,051,565	7,692,990	7,130,091	6,910,309	7,120,083	6,708,512	土木費	
2,247,746	2,143,751	2,647,232	2,771,696	2,881,398	2,714,116	消防費	
7,272,891	8,252,812	7,617,812	5,911,336	6,339,461	7,967,154	教育費	
						災害復旧費	
3,656,129	3,363,115	3,999,572	4,203,163	4,194,177	4,196,652	公債費	
						諸支出金	
						前年度繰上充用金	
42,342,726	45,765,032	50,488,412	50,526,994	53,327,526	56,915,574	目的別合計	歳出(性質別)
8,901,884	9,000,540	11,070,076	10,956,857	10,703,325	10,616,936	人件費	義務的経費
4,101,328	4,249,341	5,280,463	5,853,547	6,340,654	6,762,389	扶助費	
3,656,118	3,363,115	3,999,572	4,203,163	4,194,177	4,196,652	公債費	
16,659,330	16,612,996	20,350,111	21,013,567	21,238,156	21,575,977	小計	
1,062,062	2,106,625	3,497,893	3,579,291	4,443,528	7,123,482	普通建設事業費(補助)	投資的経費
10,405,217	9,622,627	7,456,089	6,792,172	7,437,090	6,767,459	普通建設事業費(単独)	
						災害復旧事業費	
11,467,279	11,729,252	10,953,982	10,371,463	11,880,618	13,890,941	小計	その他の経費
7,522,251	7,972,896	8,790,361	8,973,223	9,378,071	9,575,814	物件費	
491,183	498,289	593,064	628,225	611,543	596,048	維持補修費	
2,043,830	2,161,432	2,714,306	2,664,313	2,905,545	6,011,481	補助費等	
1,565,170	1,972,272	2,045,299	2,071,607	2,165,627	2,534,450	経常的繰出金	
239,095	2,542,713	2,106,448	1,681,774	2,479,286	48,393	積立金	
1,148,989	1,396,570	1,863,310	2,083,084	1,152,549	1,096,954	投資・出資金・貸付金	
1,205,599	878,612	1,071,531	1,039,738	1,516,131	1,585,516	臨時的繰出金	
						前年度繰上充用金	
14,216,117	17,422,784	19,184,319	19,141,964	20,208,752	21,448,656	小計	
42,342,726	45,765,032	50,488,412	50,526,994	53,327,526	56,915,574	性質別合計	

※ 決算統計による区分及び金額に基づき表記してあるため、決算書の数値とは一致しません。

第3節 特別会計決算

○決算額の推移

特別会計とは、特定の事業を行う場合に一般会計と区分して経理する必要があるときに設ける会計で、平成12年度には介護保険会計が新設され、平成17年度には合併により大栄診療所を対象とする国民健康保険会計の施設勘定、農業集落排水事業会計及び簡易水道事業会計が加わり、平成20年度には後期高齢者医療会計が新設され、現在9会計（10勘定）（企業会計を含む。）となっています。下水道事業や水道事業などは、その性格から施設整備の状況により決算額が増減していますが、国民健康保険は、医療費の増大により増加傾向にあります。第52図、第53図及び第19表は、歳出決算額の推移を示しています。



第19表 決算額の推移

(単位：千円)

	昭和52年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
国民健康保険（事業勘定）	999,338	4,877,691	5,178,781	5,214,948	5,853,842	6,197,740
うち一般会計繰入	10,000	832,476	602,043	712,182	636,769	744,821
国民健康保険（施設勘定）						
うち一般会計繰入						
下水道事業	627,173	3,534,306	3,086,488	2,509,553	2,575,217	2,412,950
うち一般会計繰入	122,674	1,041,348	1,203,716	732,441	871,729	746,005
公設地方卸売市場	154,986	395,485	392,908	376,648	364,383	402,719
うち一般会計繰入	57,746	205,829	211,160	215,744	209,894	266,615
老人保健		4,400,404	4,609,561	4,785,030	4,685,433	4,693,343
うち一般会計繰入		319,339	177,415	145,096	161,812	401,061
介護保険		1,524,860	2,077,088	2,233,557	2,402,228	2,565,517
うち一般会計繰入		310,313	176,873	281,362	311,357	365,646
学校給食センター	395,484					
うち一般会計繰入	166,864					
交通災害共済	10,659					
うち一般会計繰入	3,809					
農業集落排水事業						
うち一般会計繰入						
簡易水道事業						
うち一般会計繰入						
水道事業	242,719	3,564,632	2,252,613	2,193,772	2,472,894	2,244,498
うち一般会計繰入		189,630	118,504	106,834	96,348	105,269
特別会計合計	2,430,359	18,297,378	17,597,439	17,313,508	18,353,997	18,516,767
うち一般会計繰入	361,093	2,898,935	2,489,711	2,193,659	2,287,909	2,629,417

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
国民健康保険（事業勘定）	6,697,111	9,057,307	10,072,211	10,258,280	10,552,413
うち一般会計繰入	888,796	858,183	979,142	1,405,375	1,647,270
国民健康保険（施設勘定）	7,611	126,418	136,088	154,676	150,902
うち一般会計繰入					
下水道事業	2,272,096	2,189,476	2,156,961	2,054,024	2,118,922
うち一般会計繰入	794,810	877,967	595,694	555,542	605,055
公設地方卸売市場	238,208	240,518	238,903	266,209	221,987
うち一般会計繰入	83,642	85,572	104,019	129,345	95,985
老人保健	4,841,605	6,423,053	6,528,964	684,012	24,197
うち一般会計繰入	448,910	354,955	421,413		121
介護保険	2,683,178	3,361,398	3,689,360	3,894,106	4,051,738
うち一般会計繰入	383,962	455,819	494,996	498,811	552,324
学校給食センター					
うち一般会計繰入					
交通災害共済					
うち一般会計繰入					
農業集落排水事業	4,367	607,945	396,026	320,095	161,241
うち一般会計繰入		130,866	136,537	125,746	130,091
後期高齢者医療				645,338	682,388
うち一般会計繰入				131,118	134,552
簡易水道事業	560	1,224,029	662,885	534,909	293,676
うち一般会計繰入		162,464	119,543	146,608	183,646
水道事業	2,468,887	3,252,092	3,190,272	3,524,509	3,142,213
うち一般会計繰入	165,206	143,692	135,966	134,511	119,593
特別会計合計	19,213,623	26,482,236	27,071,670	22,336,158	21,399,677
うち一般会計繰入	2,765,326	3,069,518	2,987,310	3,127,056	3,468,637

※ 簡易水道事業及び水道事業は、収益的支出額と資本的支出額の合計額です。

第4節 財務分析

1) 財務分析

○財政力指数

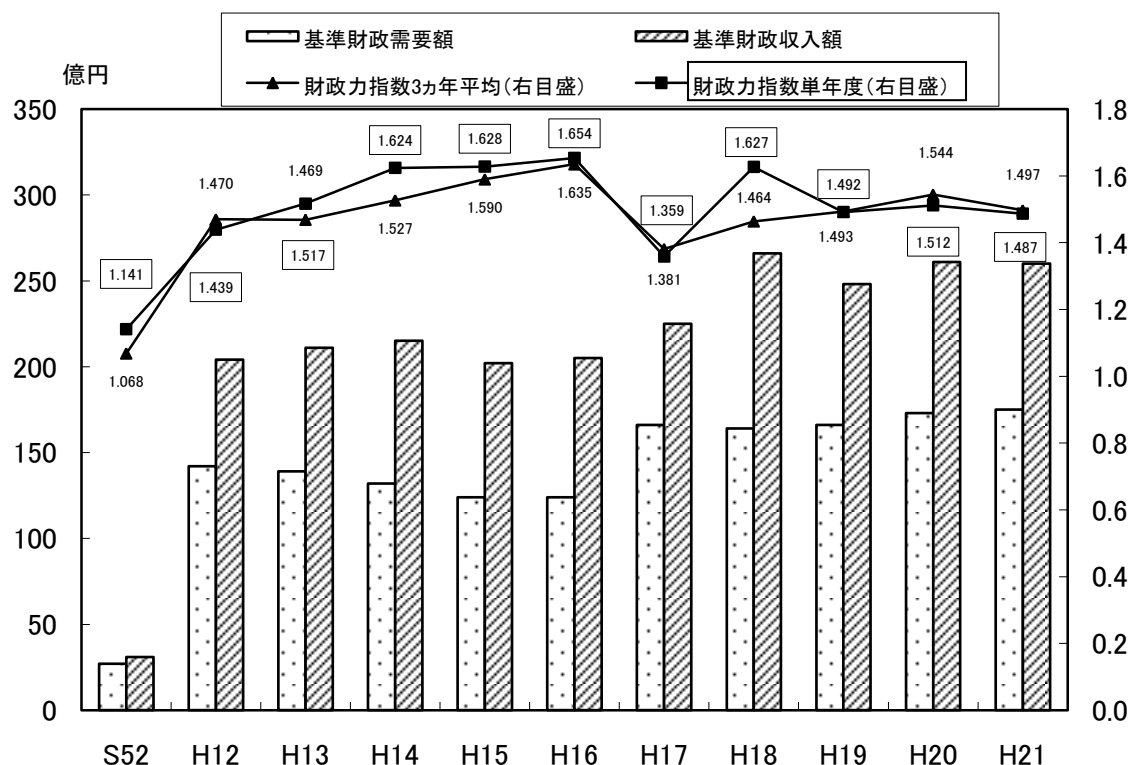
財政力指数は、地方公共団体の財政基盤の強弱を示す指数で、標準的な行政活動に必要な財源をどれくらい自力で調達できるかを表しており、普通交付税の算定基礎となる基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3ヵ年の平均値をいいます。

基準財政収入額が基準財政需要額を下回る場合は、それを補うために普通交付税が交付されます。本市の場合は大幅に上回っているため通常、普通交付税は交付されませんが、合併の特例措置により一定期間交付を受けることができます。財政力指数が「1」を超えている場合には、基準財政需要額を超えた分だけ通常水準を超えた行政活動が可能であるといえるため、財政力は高いといえます。

第54図は、基準財政需要額、基準財政収入額、財政力指数の推移です。

$$\text{財政力指数} = \frac{\text{基準財政収入額}}{\text{基準財政需要額}} \quad (3 \text{ ヵ年平均})$$

第54図 基準財政需要額・収入額、財政力指数の推移



【用語解説】

基準財政収入額、基準財政需要額

基準財政収入額とは、普通交付税の算定に用いるもので、各地方公共団体の財政力を合理的に測定するために、標準的な状態において徴収が見込まれる税収入を一定の方法によって算定した額の合計額をいいます。

基準財政需要額とは、普通交付税の算定に用いるもので、各地方公共団体が合理的、かつ、妥当な水準における行政を行い、又は施設を維持するための財政需要を一定の方法によって合理的に算定した額をいいます。

○経常収支比率

経常収支比率とは、財政構造の弾力性を判断するための指標で、税など毎年度経常的に収入される一般財源を、人件費、扶助費、公債費などの毎年度経常的に支出する経費にどの程度充当しているかを表す比率です。この比率が高いほど、公共施設の整備などの投資的な経費に充てる財源が少なくなり、財政運営が厳しくなります。

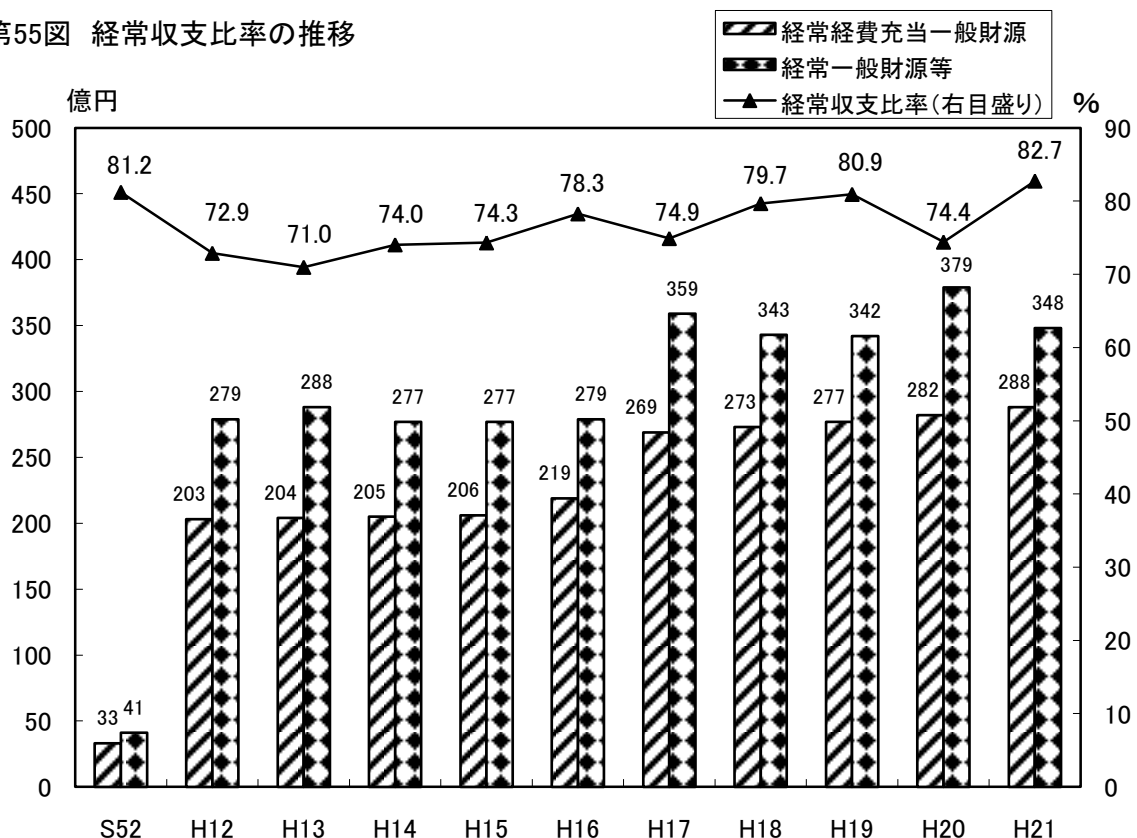
都市にあっては 80%以内が望ましく、80%を超えると財政構造の弾力性が失われつつあるとされています。

第 55 図は経常収支比率の推移を示しています。この 10 年間は、80%前後で推移しており財政の健全性を維持しています。平成 14 年度以降上昇傾向にありましたが、平成 17 年度は法人市民税の増加などにより低下し、平成 18 年度以降再び上昇しましたが、平成 20 年度は固定資産税の増加などにより低下しました。平成 21 年度は法人市民税の減収などにより上昇しています。

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{経常経費充当一般財源}}{\text{経常一般財源等}} \times 100$$

※ 経常一般財源等には、平成 13 年度からは減税補てん債が含まれ、平成 17 年度は合併に伴い、旧下総町及び旧大栄町の臨時財政対策債が含まれています。

第55図 経常収支比率の推移



【用語解説】

① 一般財源

一般財源とは、歳入のうち税などのように使途が特定されず、どのような経費にも使用することができるものをいいます。

② 特定財源

特定財源とは、生活保護費の負担金や道路整備のための補助金などのように、使途が限定されているものをいいます。

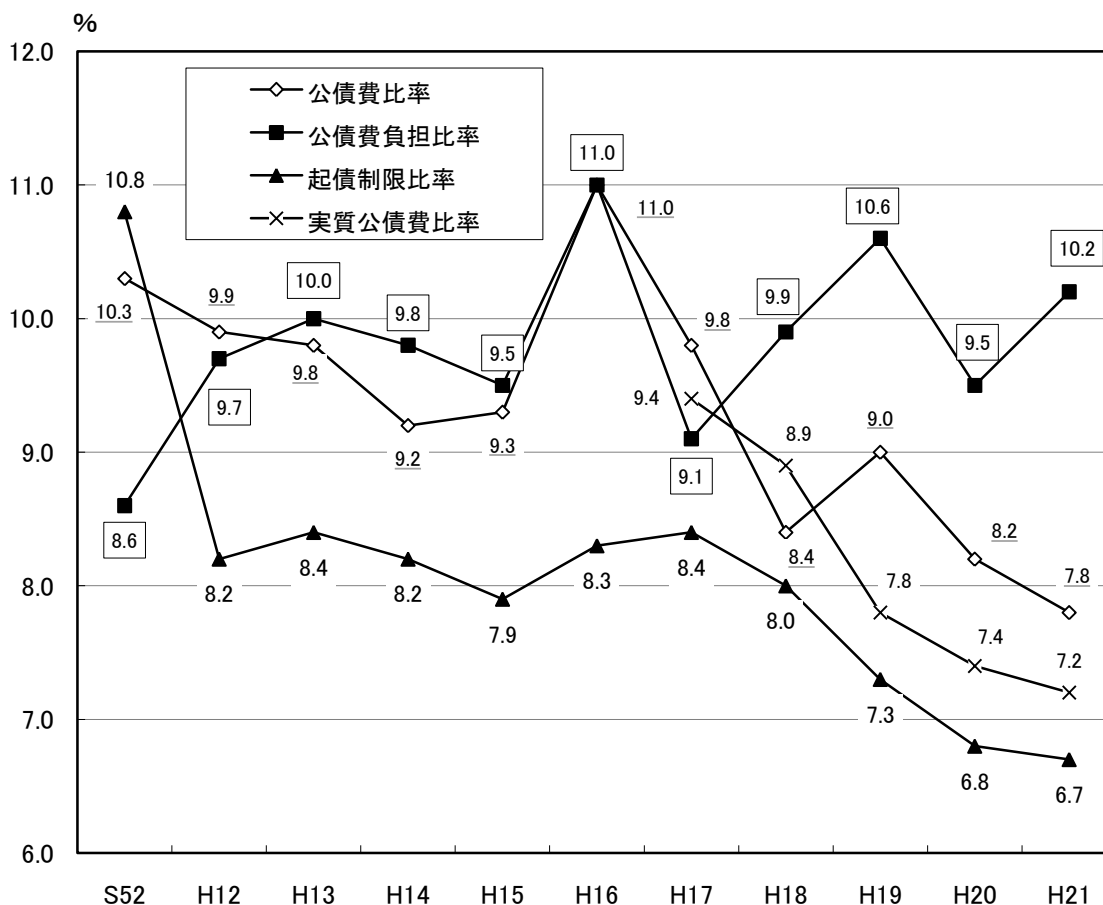
○市債

市債は、財政運営上の資金調達手段であると同時に、学校、道路、公園などの長期間にわたり効果を生ずる施設整備について、将来利用する住民の方々にもその一部を負担していただく方法として活用しています。

公債費はこの市債に対する元利償還金であり、義務的経費の中でも特に弾力性が乏しい経費であるので、その動向には十分留意する必要があります。

この公債費の財政負担の割合を判断する指標には、「公債費比率」、「起債制限比率」、「公債費負担比率」、「実質公債費比率」などがあります。第 56 図は各指標の推移を示しています。

第56図 公債費に関する指標



・公債費比率

公債費比率とは、標準財政規模に対し税などの一般財源をどの程度借入金の返済である公債費に充当しているかを表す比率です。この比率が高いと、投資的経費に充当される一般財源が少なくなり、財政の弾力性が失われることになります。

一般的には 10%を超えないことが望ましいとされています。本市では平成 10 年度以降は 10%以下で推移しており健全な財政状態を維持しています。平成 16 年度の比率が 11%と高い理由は、減税補てん債の一括償還という一時的なものによるものです。

公債費比率 =

$$\frac{(\text{公債費充当一般財源}) - (\text{災害復旧費等に係る基準財政需要額算入公債費})}{(\text{標準財政規模}) - (\text{災害復旧費等に係る基準財政需要額算入公債費})} \times 100$$

※ 公債費比率、起債制限比率及び実質公債費比率の算定に当たり、標準財政規模は臨時財政対策債の発行可能額を含んだものとなります。

・起債制限比率

起債制限比率とは、公債費比率と同様、市債の元利償還金に充当された一般財源の標準財政規模等に対する割合で、3 ヶ年の平均値をいいます。これは、多額の公債費により財政を圧迫している団体に対し、地方債の発行を制限するために設けられた指標で、この数値が 20%以上になると地方債の一部が、また 30%以上になるとほとんどの地方債（公営企業債の一部を除く）の発行が制限されることになります。本市では 6～8%台で推移しており良好な状態を維持しています。

起債制限比率 =

$$\frac{(\text{公債費充当一般財源}) - \frac{(\text{災害復旧費等に係る基準財政需要額算入公債費}) + (\text{事業費補正に係る基準財政需要額算入公債費})}{(\text{標準財政規模}) - \frac{(\text{災害復旧費等に係る基準財政需要額算入公債費}) + (\text{事業費補正に係る基準財政需要額算入公債費})}}{\times 100}$$

・公債費負担比率

公債費負担比率とは、一般財源総額に対する公債費に充当された一般財源（一時借入金利子等を含む）の占める割合を表す比率です。すなわち、公債費により一般財源の使途がどの程度制約されているかをみるものであり、財政構造の弾力性を判断する指標となります。一般的には 15%が警戒ライン、20%を超えると危険であるといわれています。本市は、10%前後で推移しており財政構造の弾力性を維持しています。

平成 16 年度の比率が 11%と高い理由は、減税補てん債の一括償還という一時的なものによるものです。

$$\text{公債費負担比率} = \frac{\text{公債費充当一般財源}}{\text{一般財源総額}} \times 100$$

・実質公債費比率

実質公債費比率とは、平成 18 年度に地方債制度が「許可制度」から「協議制度」に移行したことに伴い設けられた新たな財政指標で、標準財政規模に占める実質的な公債費に費やした一般財源の割合の 3 カ年の平均値をいいます。

従来の公債費比率との主な相違点は、上水道などの公営企業等の支出する元利償還金への一般会計からの繰出金、一部事務組合等の地方債の元利償還金に対する負担金及び公債費に準ずる債務負担行為に係る額を準元利償還金として算入していることにあります。

この実質公債費比率が 18%を超えると地方債許可団体となり、25%を超えると単独事業の起債が認められなくなる起債制限団体となります。本市の平成 21 年度の実質公債費比率は 7.2%となっています。

$$\begin{aligned} \text{実質公債費比率} = & \frac{\begin{array}{l} \text{(公債費充当一般財源)} + \text{(準公債費充当一般財源)} - \text{(基準財政需要額算入公債費及び準公債費)} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{(標準財政規模)} - \text{(基準財政需要額算入公債費及び準公債費)} \end{array}} \times 100 \end{aligned}$$

【用語解説】

① 標準財政規模

標準財政規模とは、市が標準的な状態で通常収入されるであろう一般財源の規模を示すもので、市が通常水準の行政サービスを提供する上で必要な一般財源の目安となる数値です。

$$\begin{aligned} \text{算式} = & \{ \text{基準財政収入額} - (\text{所得割における税源移譲相当額の 25\%}) - \text{地方譲与税} - \text{交通安全対策特別交付金} - \text{児童手当特例交付金} - \text{地方道路譲与税減収補てん臨時交付金} \} \\ & \times 100 / 75 + \text{地方譲与税} + \text{交通安全対策特別交付金} + \text{児童手当特例交付金} + \text{地方道路譲与税減収補てん臨時交付金} + \text{普通交付税} + \text{臨時財政対策債発行可能額} \end{aligned}$$

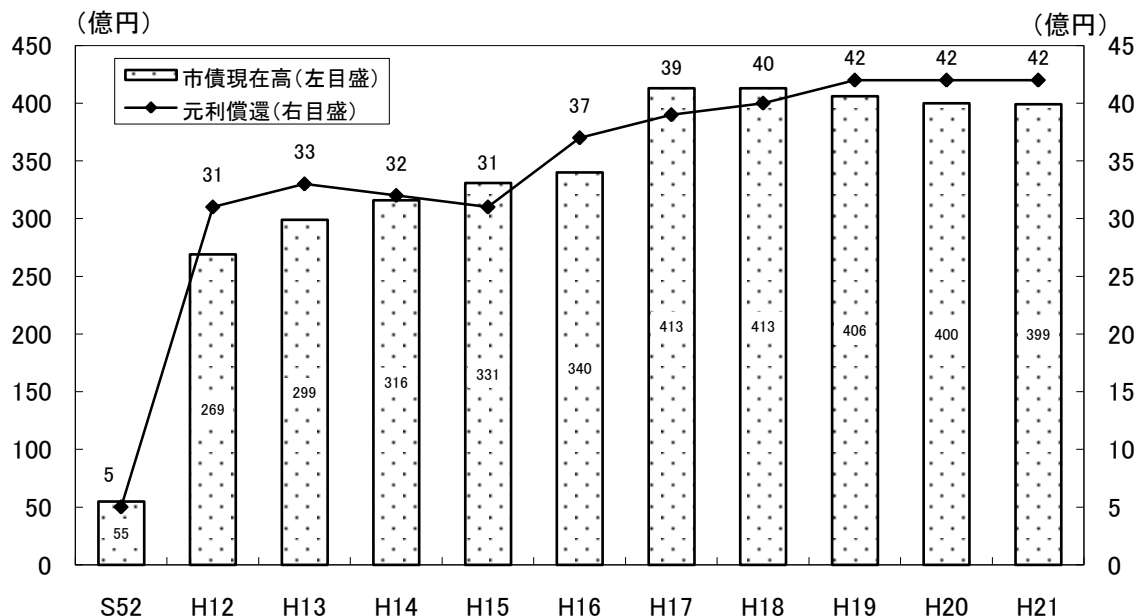
② 債務負担行為

予算は単一年度で完結することが原則ですが、将来にわたる支払い義務に対応するため、あらかじめ後年度の債務を約束する行為を債務負担行為といいます。これを行う場合には、その事項、期間及び限度額について予算書の項目の一つとして定める必要があります。

・市債残高

市債残高は施設整備の進捗に伴い 400 億円前後で推移しており、公債費（元利償還金）も 40 億円を超える水準にあります。第 57 図は市債残高と公債費の推移を示しています。

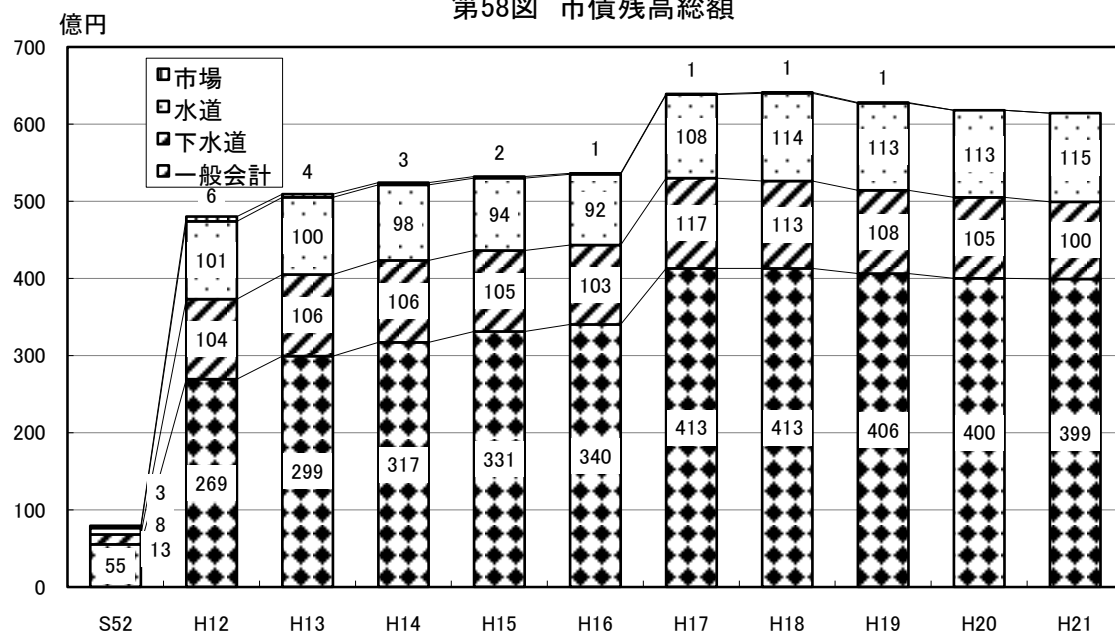
第57図 市債残高



・特別会計を含めた市債残高総額

特別会計を含めた市債残高は緩やかに減少しておりますが、依然として 600 億円を超える水準にあり、上下水道事業、公設地方卸売市場事業を含めた平成 21 年度末の市債残高総額は 614 億円に達しています。第 58 図は市債残高総額の推移を示しています。

第58図 市債残高総額



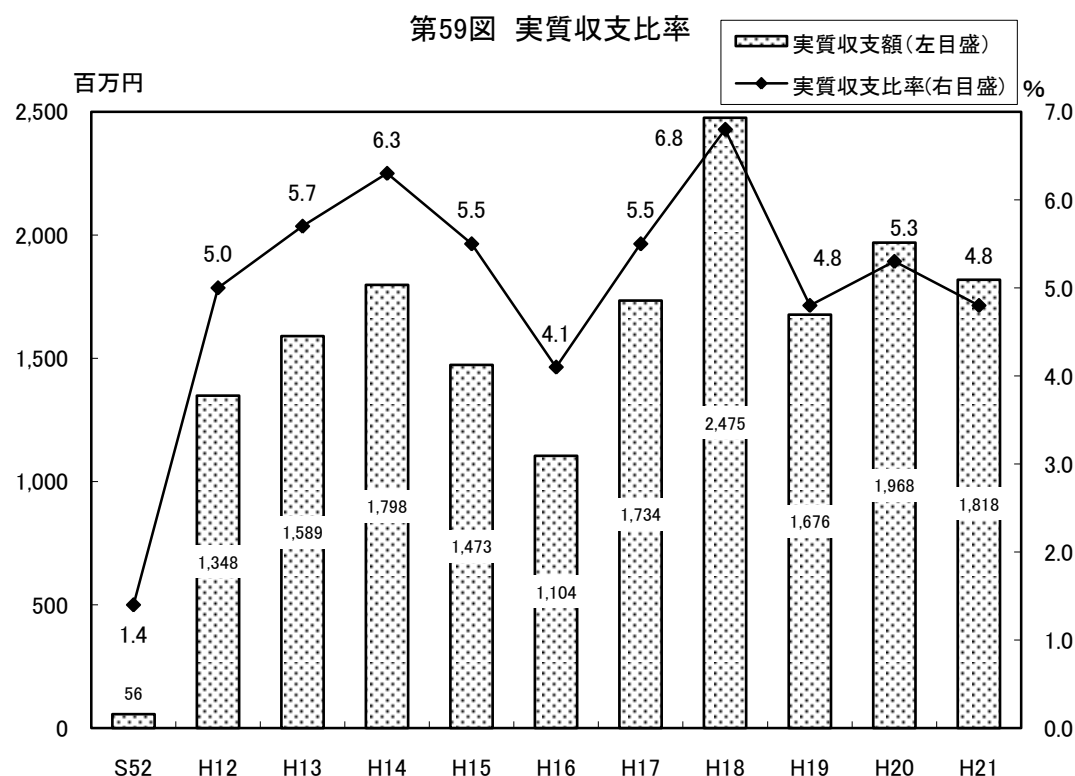
※ 水道には簡易水道事業を、下水道には農業集落排水事業を含んでいます。

○実質収支比率

実質収支比率とは、標準財政規模に対する実質収支の割合をいいます。実質収支は、その年度に属すべき収入と支出の実質的な差額（形式収支から翌年度に繰越すべき財源を差し引いたもの）で、当該団体の純剰余又は純損失を意味するものであり、財政運営の状況を判断する指標の一つとなります。一般的には、3～5%程度が望ましいとされていますが、都道府県においてはマイナス5%、市町村においてはマイナス20%以上になると、財政再建計画を策定して財政再建を行う場合でなければ地方債をもって公共施設等の建設事業の財源とすることができなくなります。

第59図は実質収支比率の推移を示しています。年度によって増減はありますが、概ね望ましい範囲内で推移しており、財政運営の健全性は維持されています。

$$\text{実質収支比率} = \frac{\text{実質収支額}}{\text{標準財政規模}} \times 100$$



○基金

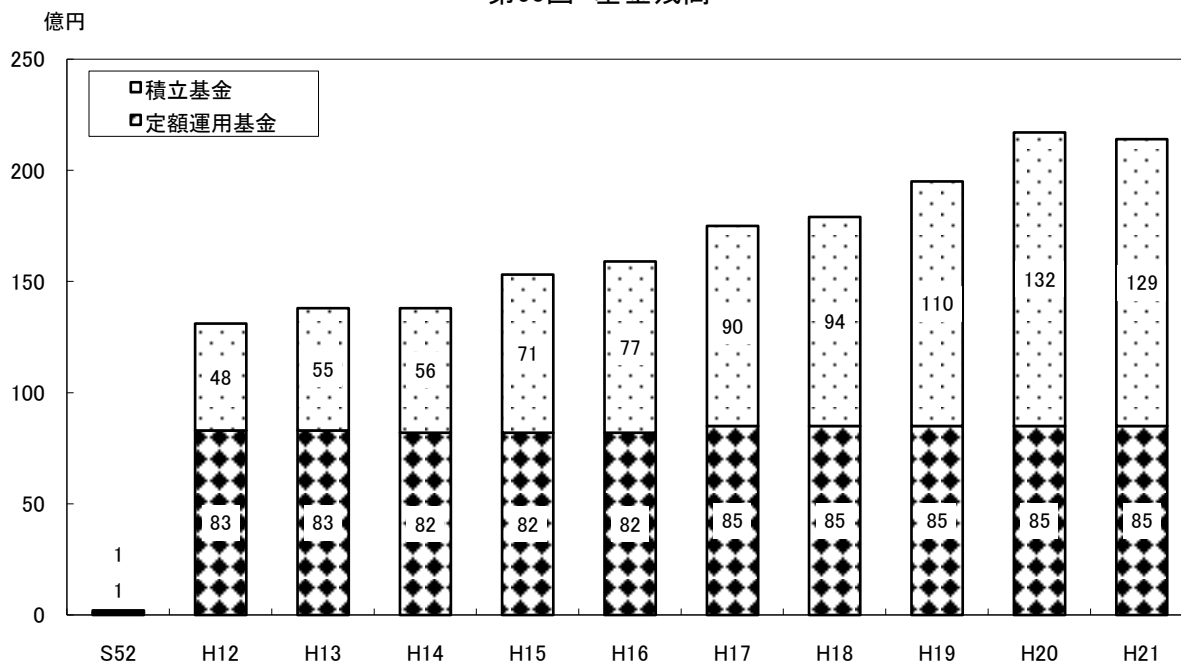
基金は、積立基金と定額運用基金の2つに区分されます。

積立基金とは、特定の目的のために資金を積み立て、必要な時に取崩して使用することで財源の調整機能を果たすものです。平成21年度は財政調整基金などに積立を行っています。

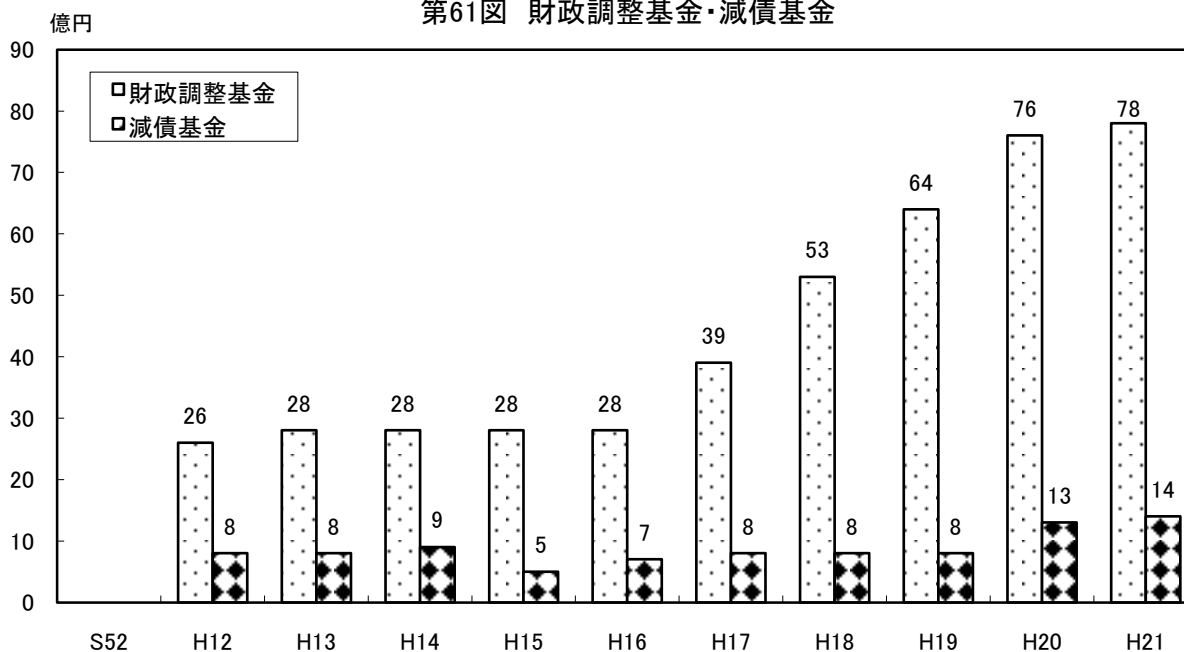
定額運用基金とは、土地開発基金のように特定の目的のために定額の資金を運用するものです。

平成 21 年度の基金残高は、空港周辺対策事業基金などの取り崩しにより、前年度と比較して 3 億円の減となりました。今後も安全で有利な有価証券への預託など引き続き適正な運用に努めていきます。第 60 図及び第 61 図は基金残高の推移を示しています。また、第 20 表は市の保有する基金の状況です。（水道事業会計分は除く。）

第60図 基金残高



第61図 財政調整基金・減債基金



第20表 基金推移

区 分		昭和52年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
積立基金	財政調整基金	7,836	2,556,619	2,810,003	2,810,331	2,810,376
	庁舎再建設基金	12,258	1,214	1,215	1,215	1,215
	減債基金		757,807	846,550	863,335	530,908
	社会福祉事業基金	8,888	192,421	192,505	192,511	192,515
	開発整備基金	80,000				
	一世紀夢の基金		4,017	4,021	4,023	4,025
	ふるさと基金		260,800	261,800	261,800	261,800
	空港周辺対策事業基金		113,256	413,369	413,404	613,435
	国際交流基金		200,000	200,000	200,000	200,000
	高齢者社会対策基金		450,000	450,000	450,000	450,000
	と蓄場跡地整備基金		68,088	70,322	72,547	74,529
	少子化対策臨時特例基金					
	子ども夢基金			22,333	24,305	21,481
	中学校建設基金					1,494,040
	交通・火災共済財政調整基金	16,336				
	国民健康保険財政調整基金（事業勘定）	13,928	69,832	69,862	69,862	69,863
	国民健康保険財政調整基金（施設勘定）					
	介護保険円滑導入基金		112,833			
	介護保険財政調整基金		46,039	153,477	224,994	333,512
	大栄工業団地污水处理施設等維持管理基金					
	準用河川天昌寺川整備基金					
	伊能歌舞伎基金					
	介護従事者処遇改善臨時特例基金					
積立基金 合計		139,246	4,832,926	5,495,457	5,588,327	7,057,699
定額運用基金	国民年金印紙調達基金	15,000	100,000	100,000		
	用品調達基金	1,000	5,000	5,000	5,000	5,000
	交通遺児及び母子家庭等就学資金貸付基金	1,781	23,844	23,845	23,845	23,845
	土地開発基金	96,961	7,783,384	7,783,793	7,783,802	7,783,810
	文化基金		398,761	398,926	398,935	398,943
	国民健康保険出産費資金貸付基金			5,000	5,000	5,000
	国民健康保険高額医療費資金貸付基金				4,000	6,000
	農業集落排水事業宅内接続費資金貸付基金					
定額運用基金 合計		114,742	8,310,989	8,316,564	8,220,582	8,222,598
基金 合計		253,988	13,143,915	13,812,021	13,808,909	15,280,297

(単位:千円)

平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	区 分
2,782,774	3,878,423	5,279,415	6,388,810	7,566,162	7,803,702	財政調整基金
1,215	1,215	1,216	1,218	1,222	1,223	庁舎再建設基金
726,244	752,323	763,970	822,459	1,325,630	1,378,219	減債基金
192,520	449,236	194,126	198,055	199,384	200,917	社会福祉事業基金
						開発整備基金
4,026	4,027	4,031	4,043	4,054	4,060	一世紀夢の基金
261,800	291,800	291,800	291,800	291,800	291,800	ふるさと基金
1,113,457	1,013,566	916,923	1,261,177	1,620,335	1,187,967	空港周辺対策事業基金
200,000	214,066	214,066	214,066	214,066	214,066	国際交流基金
450,000	507,882	507,882	507,882	507,882	507,882	高齢者社会対策基金
76,511	78,504	80,632	80,915	85,106	87,185	と蓄場跡地整備基金
						少子化対策臨時特例基金
18,477	16,280	13,257	10,678	9,064	7,372	子ども夢基金
1,479,798	545,240					中学校建設基金
						交通・火災共済財政調整基金
69,864	129,337	129,467	129,706	129,996	130,171	国民健康保険財政調整基金（事業勘定）
	125,142	122,947	123,205	117,126	124,143	国民健康保険財政調整基金（施設勘定）
						介護保険円滑導入基金
328,016	529,715	470,750	519,182	605,191	539,411	介護保険財政調整基金
	201,808	201,970	202,320	202,772	203,101	大栄工業団地汚水処理施設等維持管理基金
	200,492	200,644	201,131	201,580	201,847	準用河川天昌寺川整備基金
	20,000	17,570	15,140	12,710	10,280	伊能歌舞伎基金
				38,537	15,822	介護従事者処遇改善臨時特例基金
7,704,702	8,959,056	9,410,666	10,971,787	13,132,617	12,909,168	積立基金 合計
						国民年金印紙調達基金
5,000						用品調達基金
23,845	23,845	23,845	23,845	23,845	23,845	交通遺児及び母子家庭等就学資金貸付基金
7,783,817	8,075,741	8,076,333	8,077,445	8,079,102	8,079,924	土地開発基金
398,951	399,111	400,771	402,713	405,251	407,174	文化基金
5,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	国民健康保険出産費資金貸付基金
6,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	国民健康保険高額医療費資金貸付基金
	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	農業集落排水事業宅内接続費資金貸付基金
8,222,613	8,519,697	8,521,949	8,525,003	8,529,198	8,531,943	定額運用基金 合計
15,927,315	17,478,753	17,932,615	19,496,790	21,661,815	21,441,111	基金 合計

2) 主な財政指標の全国比較（平成 20 年度決算）

市の財政状況を判断する指標として、ここまでに様々な財政指標を掲載してきました。財政力指数、経常収支比率、公債費に係る各種比率など、いずれの指標においても本市の財政状況が健全であるということを示しています。ここでは、全国の都道府県及び市町村の平均値並びに近隣及び類似団体の状況と比較することにより、本市の財政状況を分析していきます。

類似団体とは、「人口規模や産業構造が同じような条件及び状況にある団体」をもとに、第 21 表のように分類されます。本市はⅢ－1 に分類されますので、同類型の団体を中心にみていきます。

第 21 表 都市の類型区分

産業構造 人口構造		Ⅱ次、Ⅲ次 95%以上		Ⅱ次、Ⅲ次 95%未満	
		Ⅲ次 65%以上	Ⅲ次 65%未満	Ⅲ次 55%以上	Ⅲ次 55%未満
人口	類型	3	2	1	0
50,000 人未満	I	I－3	I－2	I－1	I－0
50,000 人以上 100,000 人未満	Ⅱ	Ⅱ－3	Ⅱ－2	Ⅱ－1	Ⅱ－0
100,000 人以上 150,000 人未満	Ⅲ	Ⅲ－3	Ⅲ－2	Ⅲ－1 (成田市)	Ⅲ－0
150,000 人以上	Ⅳ	Ⅳ－3	Ⅳ－2	Ⅳ－1	Ⅳ－0

(注) 人口及び産業構造は、平成 17 年国勢調査による。

第 22 表 比較対象都市の状況（歳出）

（人口：H21. 3. 31 現在）

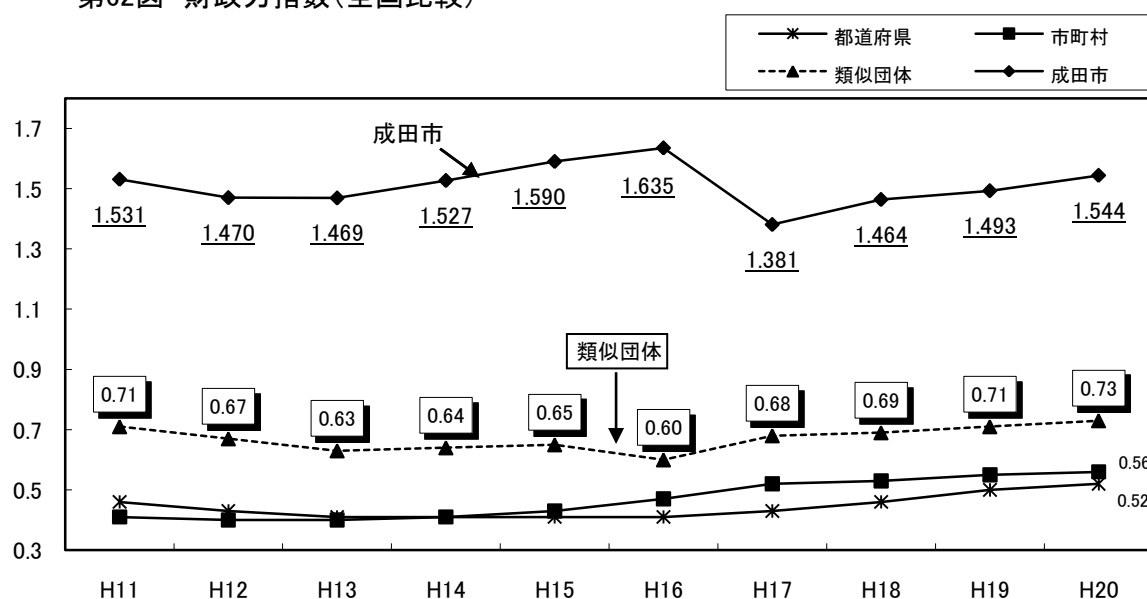
団体名	人口	平成 20 年度決算額	1 人当り決算額	類 型
成 田 市	125,428 人	53,327,526 千円	425,164 円	Ⅲ－1
木 更 津 市	126,663 人	33,630,013 千円	265,508 円	Ⅲ－1
佐 倉 市	175,601 人	36,943,407 千円	210,382 円	Ⅳ－3
四 街 道 市	87,004 人	22,460,147 千円	258,151 円	Ⅱ－3
印 西 市	63,859 人	21,235,122 千円	332,531 円	Ⅱ－1
土 浦 市	143,095 人	46,285,643 千円	323,461 円	Ⅲ－1
鴻 巣 市	118,851 人	32,293,234 千円	271,712 円	Ⅲ－1
新 発 田 市	103,553 人	38,392,578 千円	370,753 円	Ⅲ－1
藤 枝 市	143,248 人	43,146,779 千円	301,203 円	Ⅲ－1
八 代 市	135,377 人	51,076,502 千円	377,291 円	Ⅲ－1

○財政力指数

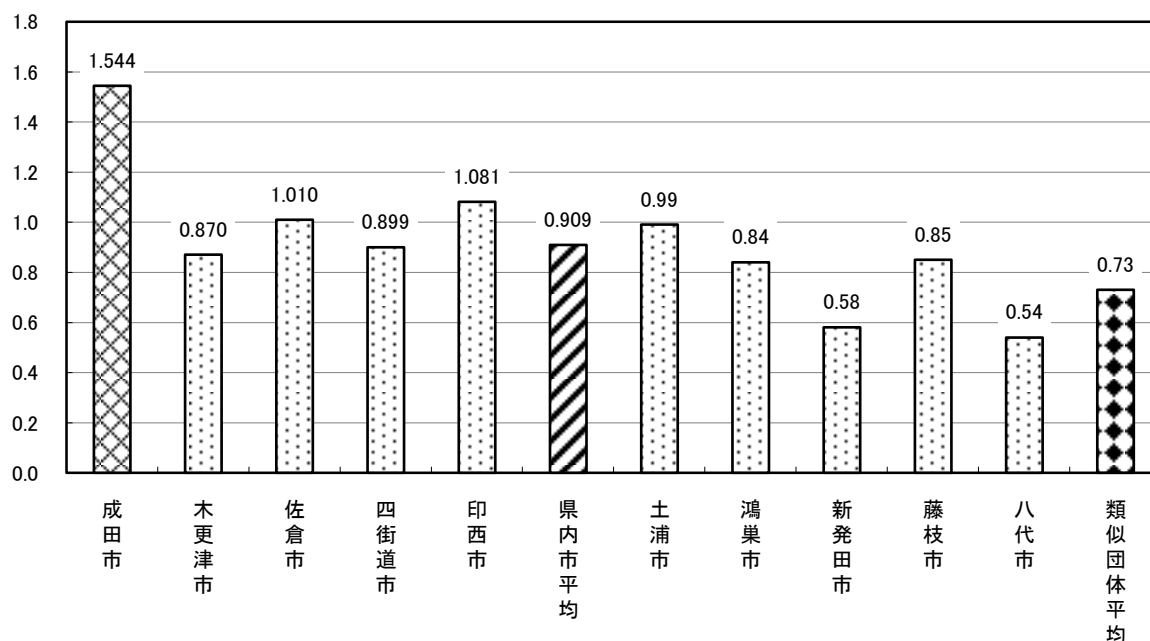
財政力指数が1に満たない団体には普通交付税が交付されます。平成20年度は、全国の都道府県を含む1,835団体のうち1,656団体に交付されました。また、不交付団体は全国で179団体あり、県内では、成田市、千葉市、市川市、船橋市、佐倉市、柏市、市原市、八千代市、君津市、富津市、浦安市、袖ヶ浦市、印西市、芝山町の計14団体となりました。（成田市及び柏市は、一本算定は不交付団体ですが、合併特例の適用により交付税が交付されます。）

第62図及び第63図は全国及び他市の財政力指数の状況ですが、本市の財政力指数が高いことがわかります。

第62図 財政力指数(全国比較)



第63図 財政力指数(他市比較)

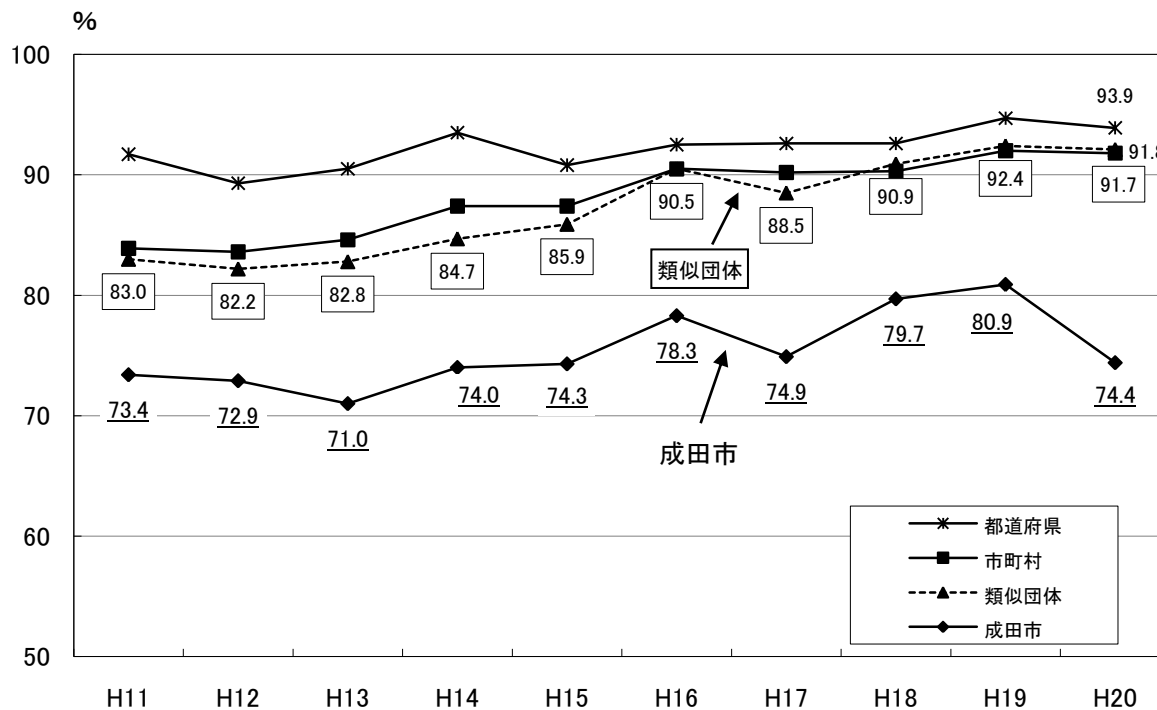


○経常収支比率

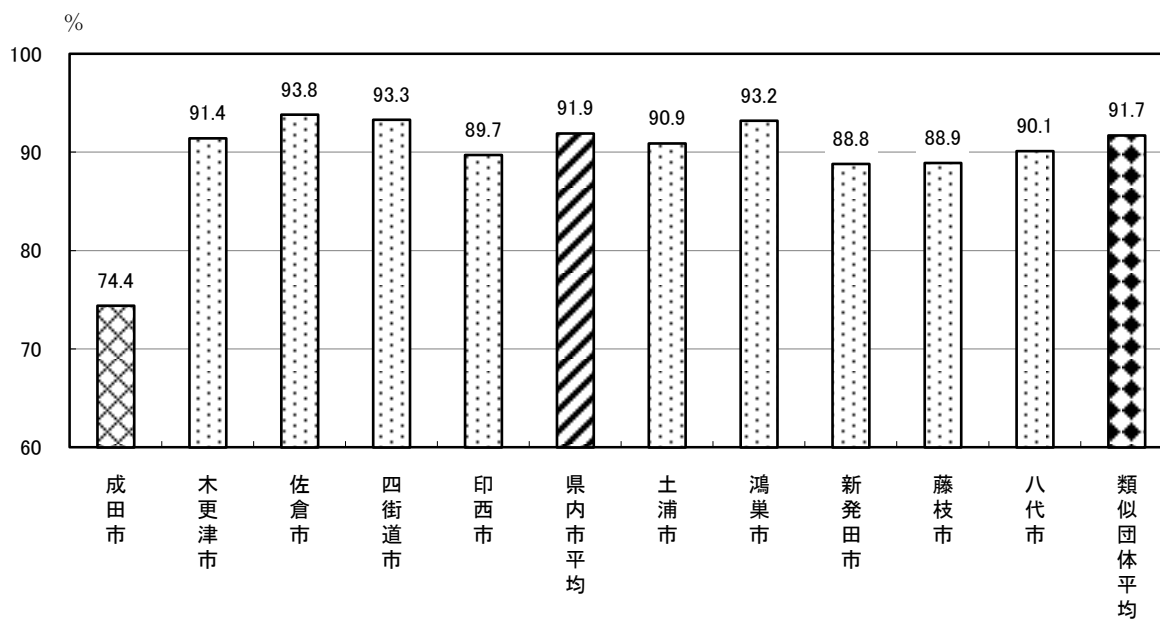
経常収支比率は 80%以内が望ましいとされています。本市では、類似団体と比較して、10～15%程度低い水準で望ましい範囲の中で推移しています。

第 64 図及び第 65 図は全国及び他市の経常収支比率の状況です。

第64図 経常収支比率(全国比較)



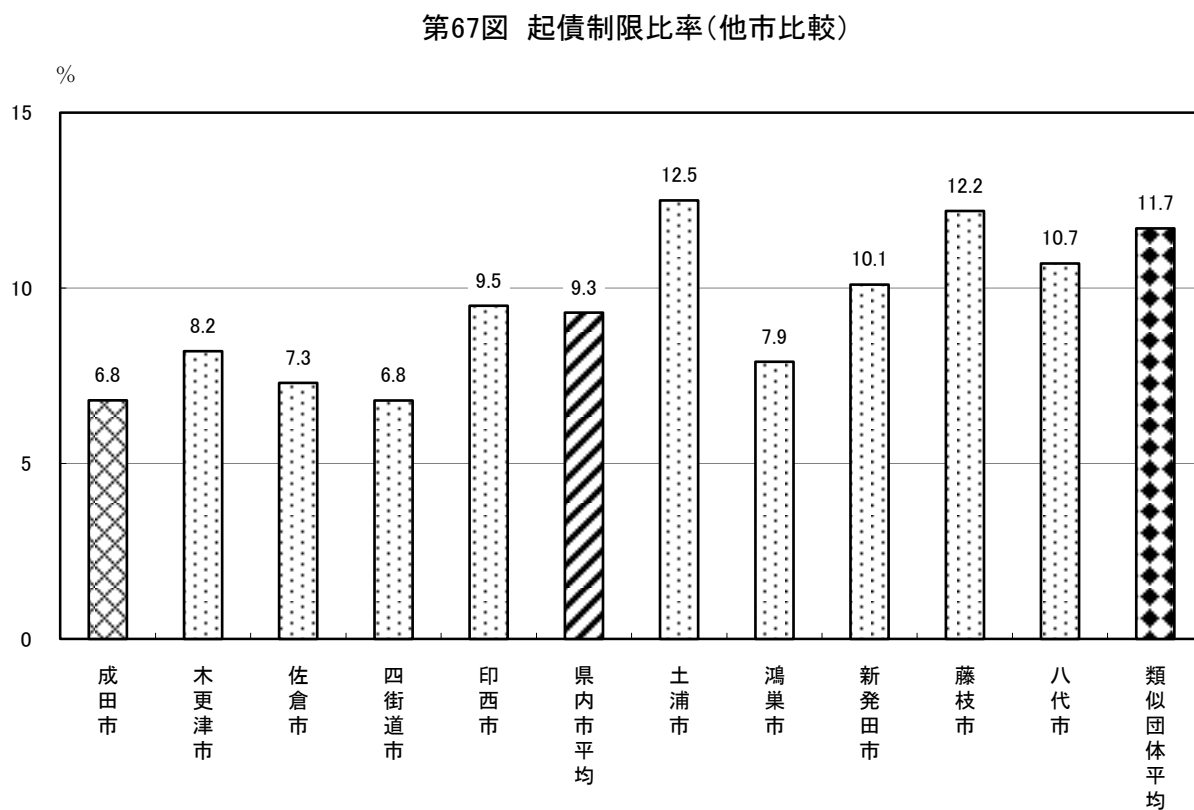
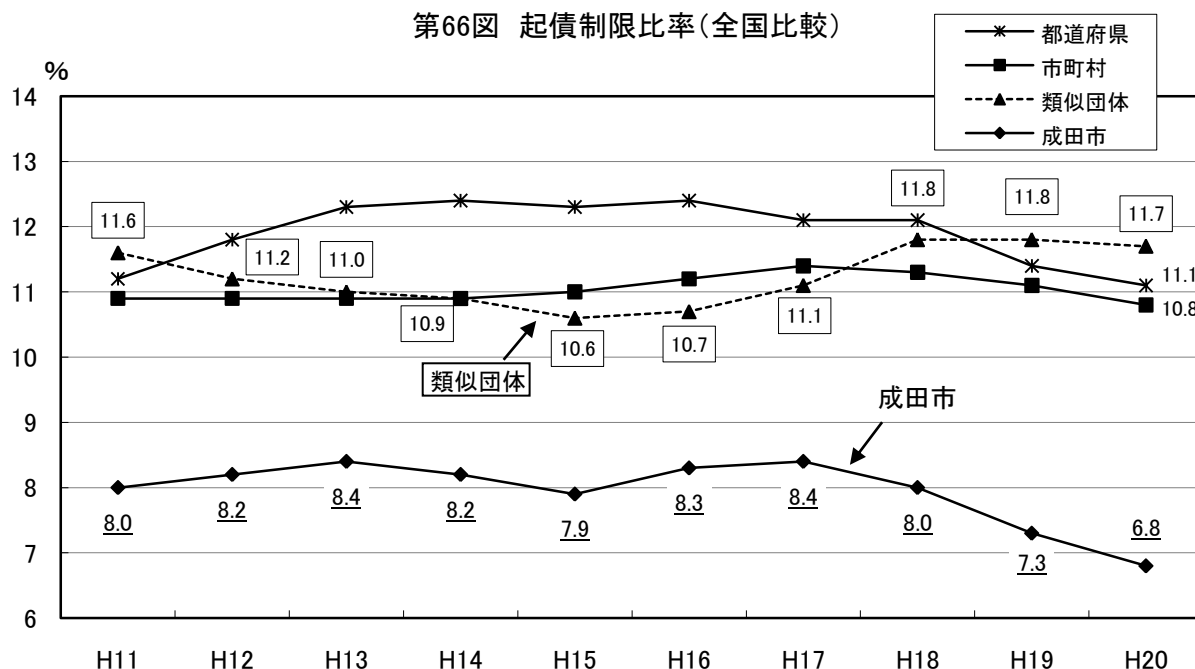
第65図 経常収支比率(他市比較)



○起債制限比率

起債制限比率は 20%以上になると地方債の発行が制限されます。本市では類似団体と比較して、20～30%程度低い水準で健全な範囲で推移しています。

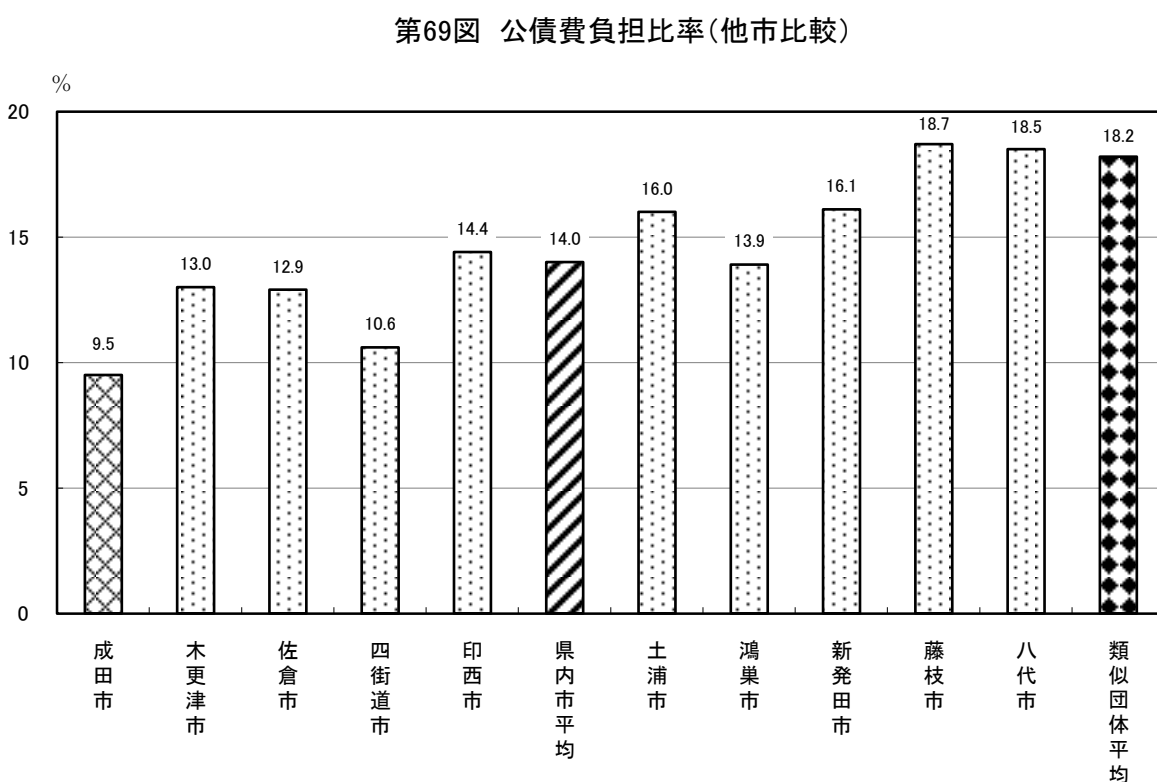
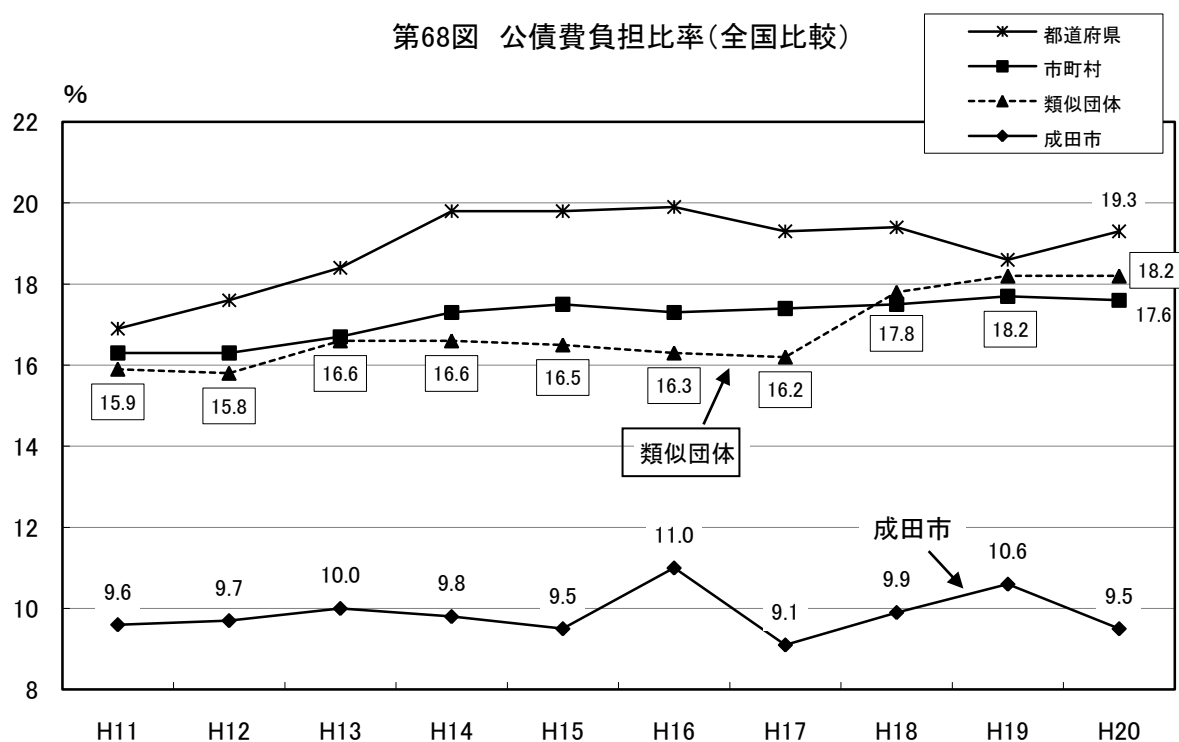
第 66 図及び第 67 図は全国及び他市の起債制限比率の状況です。



○公債費負担比率

公債費負担比率は20%を超えると危険ラインといわれています。本市では、類似団体と比較して、40%程度低い水準で推移しており財政の健全性を確保しています。

第68図及び第69図は全国及び他市の公債費負担比率の状況です。

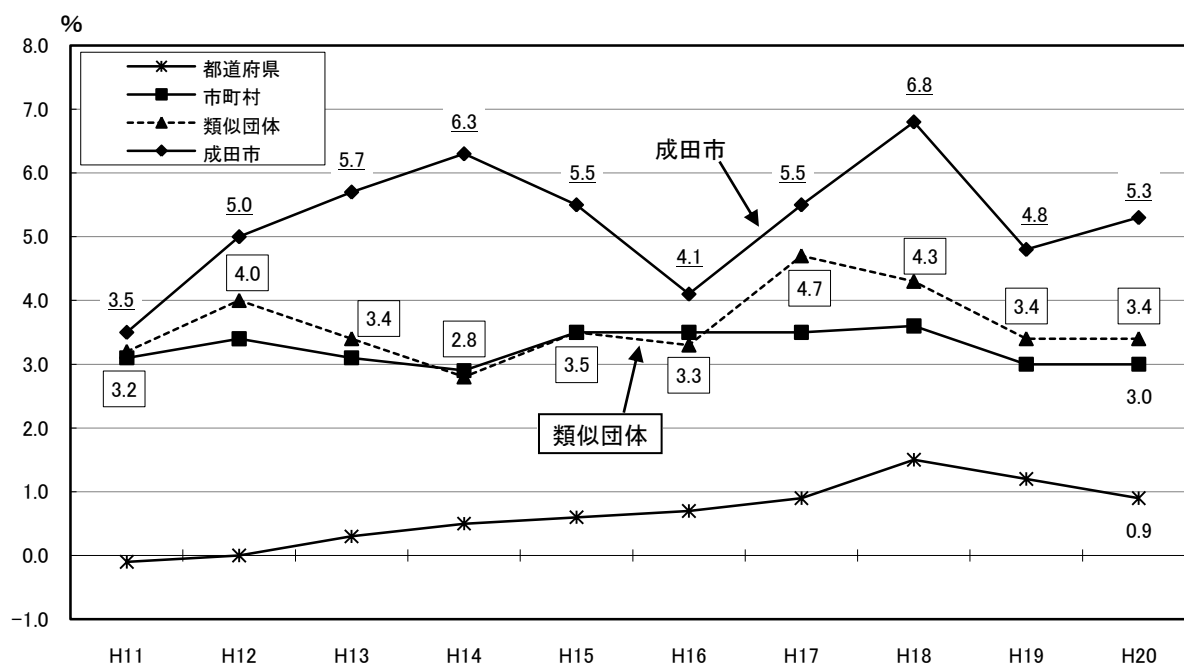


○実質収支比率

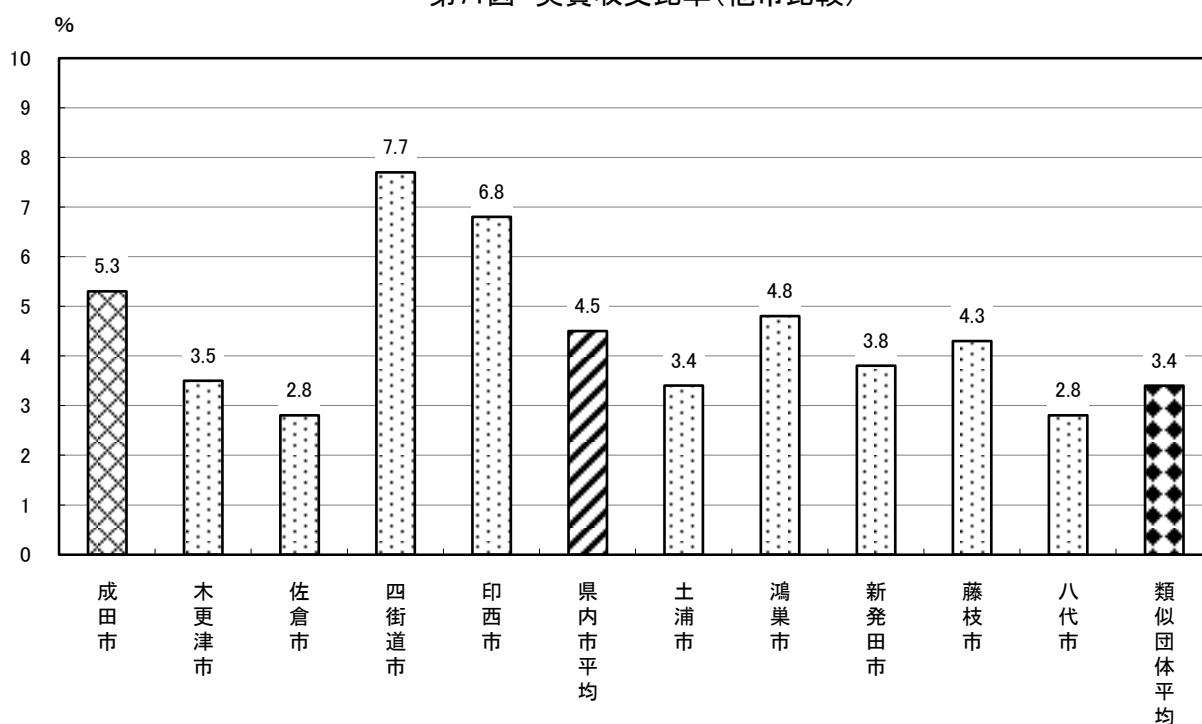
実質収支比率は、3～5%程度が望ましいとされています。本市では類似団体と比較すると、増減の幅は大きいものの概ね良好な範囲で推移しています。全国的にみると、都道府県においては一時マイナス比率を示すなど大変低い水準で推移しており、厳しい財政状況が続いています。

第70図及び第71図は全国及び他市の実質収支比率の状況です。

第70図 実質収支比率(全国比較)



第71図 実質収支比率(他市比較)



第5節 財政健全化法の財政指標

1) 健全化判断比率及び資金不足比率

この財政指標（健全化判断比率及び資金不足比率）は、地方公共団体の財政が悪化した場合に早期に健全化することを目的に、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、設けられたものです。

本市の数値は、どの財政指標においても早期健全化基準を大きく下回り、財政の健全性を示しております。

第23表 健全化判断比率

(単位：%)

	健全化判断比率	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	11.53	20.00
連結実質赤字比率	—	16.53	40.00
実質公債費比率	7.2	25.0	35.0
将来負担比率	37.5	350.0	

※「実質赤字比率」及び「連結実質赤字比率」は、黒字の場合「—」の表記となる。

第24表 資金不足比率

(単位：%)

	資金不足比率	経営健全化基準
水道事業会計	—	20.0
簡易水道事業特別会計	—	20.0
公設地方卸売市場特別会計	—	20.0
下水道事業特別会計	—	20.0
農業集落排水事業特別会計	—	20.0

※資金不足とならない場合は、「—」の表記となる。

【財政指標の説明】

①実質赤字比率 = 一般会計等の赤字の程度を指標化し、財政運営の深刻度を示します。

$$\text{実質赤字比率} = \frac{\text{一般会計等の実質赤字額}}{\text{標準財政規模}}$$

②連結実質赤字比率 = 全ての会計の赤字や黒字を合算し、地方公共団体としての赤字の程度を指標化し、地方公共団体としての運営の深刻度を示します。

$$\text{連結実質赤字比率} = \frac{\text{連結実質赤字額}}{\text{標準財政規模}}$$

③実質公債費比率 = 一般会計が負担する借入金の返済額及びこれに準じる額の大きさ(3ヵ年平均)を指標化し、資金繰りの危険度を示します。

$$\text{実質公債費比率} = \frac{(\text{地方債の元利償還金} + \text{準元利償還金}) - (\text{特定財源} + \text{元利償還金} \cdot \text{準元利償還金に係る基準財政需要額算入額})}{\text{標準財政規模} - (\text{元利償還金} \cdot \text{準元利償還金に係る基準財政需要額算入額})}$$

- ④将来負担比率 = 一般会計の借入金(地方債)や将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高の程度を指標化し、将来財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示します。

将来負担比率	=	$\frac{\text{将来負担額} - (\text{充当可能基金額} + \text{特定財源見込額} + \text{地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額})}{\text{標準財政規模} - (\text{元利償還金} \cdot \text{準元利償還金に係る基準財政需要額算入額})}$
--------	---	--

- ⑤資金不足比率 = 公営企業の資金不足を、公営企業の事業規模である料金収入規模と比較して指標化し、経営状況の深刻度を示します。

資金不足比率	=	$\frac{\text{資金の不足額}}{\text{事業の規模}}$
--------	---	--------------------------------------

2) 地方公共団体の財政の健全化に関する法律の概要

- ① 毎年度、健全化判断比率（①実質赤字比率 ②連結実質赤字比率 ③実質公債費比率 ④将来負担比率）を監査委員の審査に付した上で、議会に報告し、公表することになります。
- ② 財政の早期健全化や財政の再生のため、健全化判断比率の値が一定の基準以上の場合には、財政の状況が悪化した要因の分析の結果を踏まえ、財政健全化計画や財政再生計画を策定し、財政の早期健全化に努めることになります。

【早期健全化基準を超えた場合】

健全化判断比率である4つの比率のうち一つでも早期健全化基準を超えた場合、「早期健全化団体」となり、財政健全化計画を策定し、議会で議決を得た後、速やかに住民に公表するとともに、知事に報告しなければなりません。

【財政再生基準を超えた場合】

将来負担比率を除く3つの比率のうち一つでも財政再生基準以上になった場合、「財政再生団体」となり、財政再生計画を策定し議会の議決を得て、総務大臣に同意を求めます。同意を得ていないときは、災害復旧事業等を除き地方債の発行ができなくなります。事実上、国の管理の下、財政の再生に取り組むことになります。

- ③ その他、財政健全化計画等の策定の場合には、外部監査を求めなければならないことなどが定められています。
- ④ 公営企業についても、毎年、公営企業ごとに資金不足比率を監査委員の審査に付した上で、議会に報告し公表することとなり、一定基準以上の場合には、経営健全化計画を定めなければならないこととなります。

※なお、健全化判断比率の公表は、平成19年度決算から実施していますが、一定基準額以上の団体に対する健全化計画の策定等の規定は、平成20年度決算から適用となります。

第4章 新地方公会計制度に基づく財務書類4表

第1節 財務諸表の概要

1) 新地方公会計制度の概要

平成18年6月に成立した「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」を契機に、地方公共団体の資産・債務改革の一環として、「新地方公会計制度の整備」が位置づけられました。

また、同年8月の「地方公共団体における行政改革の更なる推進のための指針」において、発生主義の活用及び複式簿記の考え方を導入した、①貸借対照表、②行政コスト計算書、③資金収支計算書、④純資産変動計算書の4表の財務書類を、平成21年度までに整備することが要請されたことに伴い、本市におきましても、平成20年度決算より公会計基準モデルに基づく財務書類4表を整備しました。

2) 成田市財務書類4表について

○基準モデルの特徴

民間企業会計の考え方と会計実務をもとに、資産、税収や移転収支など、地方公共団体の特殊性を加味した財務書類で、開始貸借対照表を固定資産台帳等に基づき作成します。現金取引情報にとどまらず、ストック・フロー情報を網羅的に公正価値で把握するものです。

平成19年度まで作成していた旧総務省方式では、固定資産については、昭和44年度以降の決算統計の建設事業費の積上げにより算定していたため、昭和43年度以前に取得した資産は計上されておらず、売却や滅失により除却された資産も計上されるなど不合理がありました。

また、個々の資産価値を特定できないため、減価償却なども想定上の数値となっているのに対し、基準モデルでは、現存するすべての固定資産を洗い出し、公正価値により評価しています。

○対象とする会計の範囲

財務書類4表は普通会計ベースと単体ベース、連結ベースで作成しています。

- ・ 普通会計 → 一般会計
- ・ 単体 → 普通会計 + 特別会計

国民健康保険、下水道事業、公設地方卸売市場、老人保健、介護保険、農業集落排水事業、後期高齢者医療、簡易水道事業、水道事業

- ・ 連結 → 単体 + 第三セクター

【出資比率50%以上の第三セクター】
(財)成田市開発協会、(財)成田市教育文化振興財団、成田市土地開発公社、(財)成田市農業センター、(有)ティ・ティ・エス

○財務書類 4 表の概要

・貸借対照表（バランスシート）

会計年度末（3月31日時点。ただし、出納整理期間中の増減を含む）における成田市の保有する①資産、②債務、③純資産に関する情報を表すものです。

① 資産

市の保有しているすべての資産を表示しており、学校、公園、道路など将来の世代に引き継ぐ社会資本や、投資、基金など将来現金化することが可能な資産のことです。

《事業用資産とインフラ資産》

- ・事業用資産…当該資産から将来的な経済便益が発生すると想定されるもの

（例）庁舎、学校、保育所 等

- ・インフラ資産…将来にわたる都市基盤と想定されるもの

（例）道路、公園、上下水道、ごみ処理施設 等

市場において、取引される物件であるか否かが一つの判断基準となります。

「庁舎」は売却可能資産と考えられるので、事業用資産ですが、道路は地方公共団体の固有の機能をもつ資産であって、市場で取引される性質のものではないため、インフラ資産として区分されます。

② 負債

将来的な支払義務を生じさせる市債や、在職する職員がすべて退職したと仮定した場合に支払うこととなる退職手当要支給額である退職給付引当金など、将来世代の負担となるものです。

③ 純資産

過去の世代や国・県が負担した将来返済しなくてよい財産です。

・行政コスト計算書

1年間の行政運営コストのうち、福祉サービスやごみの収集にかかる経費など、資産形成につながらない行政サービスに要したコストを①人件費、②物件費、③経費、④業務関連経費、などに区分して表示するとともに、それら行政サービスの対価としての使用料や手数料等の収入を表示したものです。

従来の現金会計では、捕捉できなかった減価償却費などの非現金コストについても計上しており、経常費用合計から、経常収益合計を差し引いたものが、当該年度の純経常行政コストとして把握されます。

・純資産変動計算書

純資産（過去の世代や国・県が負担した将来返済しなくてよい財産）が年度中にどのような財源や要因で増減したかを明らかにするものです。

① 財源の変動

行政コスト計算書に計上されない財源の流出入を表します。

② 資産形成充当財源の変動

財源を将来世代も利用可能な固定資産、長期金融資産にどの程度使ったかを表す。

・資金収支計算書（キャッシュフロー計算書）

1年間の現金の流れを示すものであり、その性質に応じて、①経常的収支、②資本的収支、③財務的収支に区分したもので、どのような活動に資金を必要としているかを表したものです。また、併せて、基礎的財政収支（プライマリーバランス）も説明できます。

① 経常的収支

行政サービスを行う中で、毎年継続的に収入、支出されるもの。

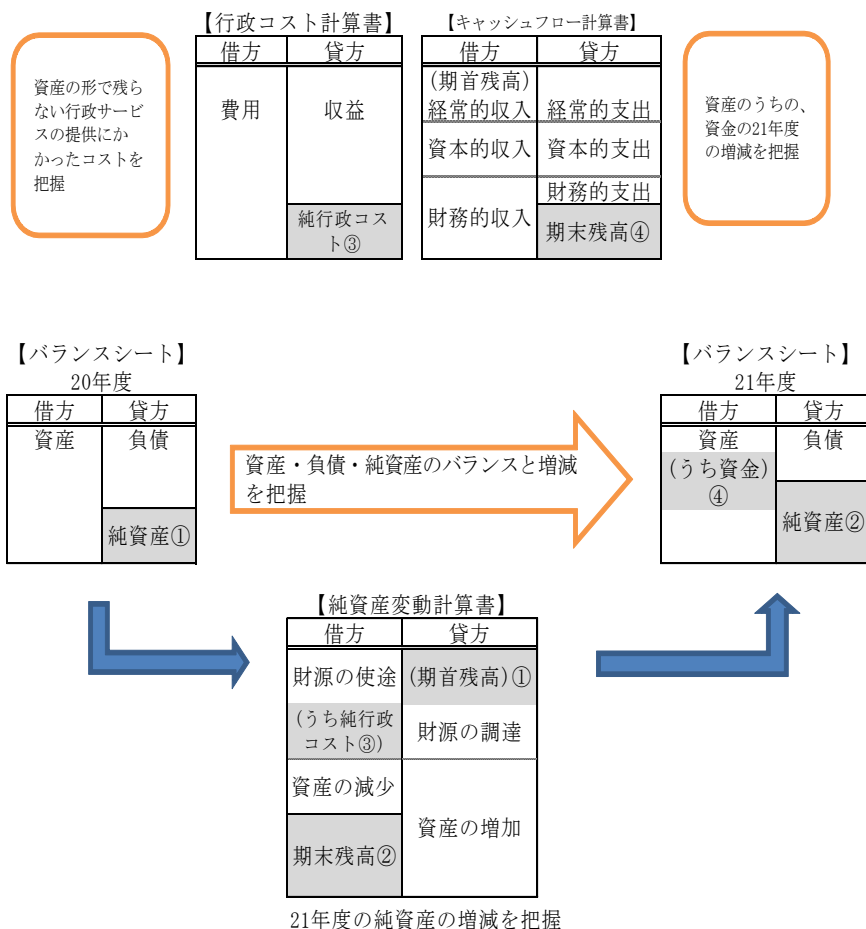
② 資本的収支

学校、公園、道路などの資産形成や投資、貸付金などの収入、支出など。

③ 財務的収支

市債、借入金などの収入、支出など。

・財務書類4表の相互の関連



第2節 財務諸表でみる成田市の財政状況

1) バランスシートでみる財政状況

○貸借対照表（BS）

（単位：百万円）

【資産の部】	普通会計	単 体	連 結	【負債の部】	普通会計	単 体	連 結
1. 金融資産	26,550	32,814	32,405	1. 流動負債	4,515	5,777	5,822
資金	3,114	6,509	6,706	未払金及び未払費用	2	163	198
金融資産	23,436	26,305	25,699	前受金及び前受収益	0	7	14
債権	1,923	3,455	3,479	引当金(賞与引当金)	632	658	658
有価証券	0	500	510	預り金(保管金等)	468	492	495
投資等	21,513	22,350	21,710	公債(短期)	3,413	4,457	4,457
2. 非金融資産	218,713	271,441	271,910	短期借入金	0	0	0
事業用資産	88,658	88,736	88,812	その他の流動負債	0	0	0
有形固定資産	88,300	88,369	88,444	2. 非流動負債	47,802	69,014	68,673
無形固定資産	37	45	46	公債	36,474	56,978	56,978
棚卸資産	321	322	322	借入金	0	0	357
インフラ資産	130,055	182,705	183,098	責任準備金	0	0	0
				引当金(退職給付引当金等)	11,119	11,821	11,123
				その他の非流動負債	209	215	215
				負債合計	52,317	74,791	74,495
資産合計	245,263	304,255	304,315	【純資産の部】	192,946	229,464	229,820
				純資産合計	192,946	229,464	229,820
				負債・純資産合計	245,263	304,255	304,315

○市民1人当たりの貸借対照表（BS）

（単位：円）

【資産の部】	普通会計	単 体	連 結	【負債の部】	普通会計	単 体	連 結
1. 金融資産	210,548	260,226	256,983	1. 流動負債	35,805	45,818	46,174
資金	24,697	51,617	53,179	未払金及び未払費用	15	1,296	1,573
金融資産	185,851	208,609	203,804	前受金及び前受収益	0	51	106
債権	15,250	27,401	27,594	引当金(賞与引当金)	5,011	5,220	5,220
有価証券	0	3,965	4,042	預り金(保管金等)	3,713	3,903	3,927
投資等	170,601	177,243	172,168	公債(短期)	27,066	35,348	35,348
2. 非金融資産	1,734,472	2,152,622	2,156,340	短期借入金	0	0	0
事業用資産	703,091	703,712	704,310	その他の流動負債	0	0	0
有形固定資産	700,251	700,798	701,389	2. 非流動負債	379,090	547,306	544,602
無形固定資産	297	358	365	公債	289,253	451,858	451,858
棚卸資産	2,543	2,556	2,556	借入金	0	0	2,829
インフラ資産	1,031,381	1,448,910	1,452,030	責任準備金	0	0	0
				引当金(退職給付引当金等)	88,178	93,744	88,211
				その他の非流動負債	1,659	1,704	1,704
				負債合計	414,895	593,124	590,776
資産合計	1,945,020	2,412,848	2,413,323	【純資産の部】	1,530,125	1,819,724	1,822,547
				純資産合計	1,530,125	1,819,724	1,822,547
				負債・純資産合計	1,945,020	2,412,848	2,413,323

平成22年3月31日現在人口126,098人

○貸借対照表から分かること（連結ベース）

成田市は、今までに3,043億円の資産を形成しています。

資産の中でも特に大きな比率を占めるのが、道路や公園、清掃施設などの『インフラ資産』であり、1,831億円（総資産の60.2%）を占めています。それ以外の、庁舎や学校、保育所等の『事業用資産』も888億円（同29.2%）となります。金融資産の中では出資金や基金などの『投資等』が主なものです。

負債である 745 億円については、将来世代が負担していくこととなります。負債の中では公債が主なもので、570 億円（総負債の 76.5%）を占めています。

また、資産から負債を引いた純資産については 2,298 億円であり、これらは過去の世代や国、県の負担で既に支払いが済んでいるものです。

これらを、平成 22 年 3 月 31 日現在の人口 126,098 人で市民 1 人当たりに換算すると、資産が 241 万円、負債が 59 万円、純資産が 182 万円となりました。

2) 行政コスト計算書でみる財政状況

○行政コスト計算書（P L）

（単位：百万円）

【経常費用】	普通会計	単 体	連 結
1. 経常業務費用	25,878	28,691	29,054
①人件費	10,364	10,811	11,258
②物件費	7,028	7,442	7,586
③経費	7,749	9,096	8,869
④業務関連費用	737	1,342	1,341
2. 移転支出	21,142	33,130	33,116
①他会計への移転支出	3,228	0	0
②補助金等移転支出	6,332	6,364	6,323
③社会保障関係費等移転支出	5,452	20,318	20,318
④その他の移転支出	6,130	6,448	6,475
経常費用合計（総行政コスト）	47,020	61,821	62,170
【経常収益】			
経常業務収益	2,649	5,894	6,245
①業務収益	895	4,052	4,398
②業務関連収益	1,754	1,842	1,847
経常収益合計	2,649	5,894	6,245
純経常費用（純行政コスト）	44,371	55,927	55,925

○市民 1 人当たりの行政コスト計算書（P L）

（単位：円）

【経常費用】	普通会計	単 体	連 結
1. 経常業務費用	205,221	227,532	230,407
①人件費	82,191	85,738	89,276
②物件費	55,738	59,019	60,156
③経費	61,450	72,137	70,336
④業務関連費用	5,842	10,638	10,639
2. 移転支出	167,660	262,733	262,621
①他会計への移転支出	25,597	0	0
②補助金等移転支出	50,213	50,465	50,146
③社会保障関係費等移転支出	43,238	161,131	161,131
④その他の移転支出	48,612	51,137	51,344
経常費用合計（総行政コスト）	372,881	490,265	493,028
【経常収益】			
経常業務収益	21,006	46,747	49,525
①業務収益	7,096	32,136	34,878
②業務関連収益	13,910	14,611	14,647
経常収益合計	21,006	46,747	49,525
純経常費用（純行政コスト）	351,875	443,518	443,503

○行政コスト計算書から分かること（連結ベース）

平成 21 年度の成田市の行政コストは総額 622 億円で、行政サービスに対する対価として市民が負担する使用料や手数料などの経常収益は 62 億円となりました。

行政コスト総額から経常収益を引いた純行政コストは 559 億円となり、この不足分については、市税や地方交付税などの一般財源や国・県補助金で賄っています。

総行政コストの中で最も割合が大きかったのは、生活保護費や福祉手当などの『社会保障関係費等移転支出』で、総額 203 億円（総行政コストの 32.7%）であり、次が職員給与や議員報酬、退職給付費用等の『人件費』で 113 億円（同 18.1%）、その次が各種委託料などの『経費』で 89 億円（同 14.3%）でした。

これらを市民 1 人あたりに換算すると、行政コストが 49 万円、経常収益が 5 万円、純行政コストは 44 万円となりました。

3) 純資産変動計算書でみる財政状況

○純資産変動計算書（NWM）

（単位：百万円）

	普通会計	単 体	連 結
前期末残高	189,230	227,117	227,475
当期変動額			
【Ⅰ 財源変動の部】	△ 186	869	858
1. 財源の使途	55,100	70,382	70,403
①純経常費用への財源措置	44,371	55,927	55,925
②固定資産形成への財源措置	6,741	8,082	8,086
③長期金融資産形成への財源措置	1,089	1,183	1,198
④その他の財源の使途	2,899	5,190	5,194
2. 財源の調達	54,914	71,251	71,261
①税収	32,928	33,096	33,096
②社会保険料	0	3,931	3,931
③移転収入	13,117	22,348	22,349
④その他の財源の調達	8,869	11,876	11,885
【Ⅱ 資産形成充当財源変動の部】	3,902	1,478	1,487
1. 固定資産の変動	6,110	5,161	5,157
①固定資産の減少	5,791	8,106	8,113
②固定資産の増加	11,901	13,267	13,270
2. 長期金融資産の変動	△ 2,151	△ 2,732	△ 2,719
①長期金融資産の減少	3,240	3,915	3,918
②長期金融資産の増加	1,089	1,183	1,199
3. 評価・換算差額等の変動	△ 57	△ 951	△ 951
①評価・換算差額等の減少	3,043	3,949	3,949
②評価・換算差額等の増加	2,986	2,998	2,998
【Ⅲ 少数株主持分変動の部】	0	0	△ 1
【Ⅳ その他の純資産変動の部】	0	0	1
当期変動額合計	3,716	2,347	2,345
当期末残高	192,946	229,464	229,820

○市民 1 人当たりの純資産変動計算書（NWM）

（単位：円）

	普通会計	単 体	連 結
前期末残高	1,500,660	1,801,116	1,803,955
当期変動額			
【Ⅰ 財源変動の部】	△ 1,475	6,891	6,807
1. 財源の使途	436,958	558,157	558,322
①純経常費用への財源措置	351,875	443,518	443,503
②固定資産形成への財源措置	53,455	64,099	64,123
③長期金融資産形成への財源措置	8,636	9,382	9,505
④その他の財源の使途	22,992	41,158	41,191
2. 財源の調達	435,483	565,048	565,129
①税収	261,127	262,466	262,466
②社会保険料	0	31,173	31,173
③移転収入	104,024	177,230	177,237
④その他の財源の調達	70,332	94,179	94,253
【Ⅱ 資産形成充当財源変動の部】	30,940	11,717	11,790
1. 固定資産の変動	48,453	40,932	40,901
①固定資産の減少	45,923	64,281	64,336
②固定資産の増加	94,376	105,213	105,237
2. 長期金融資産の変動	△ 17,058	△ 21,666	△ 21,562
①長期金融資産の減少	25,694	31,048	31,067
②長期金融資産の増加	8,636	9,382	9,505
3. 評価・換算差額等の変動	△ 455	△ 7,549	△ 7,549
①評価・換算差額等の減少	24,135	31,321	31,321
②評価・換算差額等の増加	23,680	23,772	23,772
【Ⅲ 少数株主持分変動の部】	0	0	△ 7
【Ⅳ その他の純資産変動の部】	0	0	2
当期変動額合計	29,465	18,608	18,592
当期末残高	1,530,125	1,819,724	1,822,547

○純資産変動計算書から分かること（連結ベース）

平成 21 年度は、純資産が 23 億円増加となりました。

これは純経常費用（純行政コスト）の支出等の『財源の使途』が 704 億円であったのに比べ、税収などの『財源の調達』が 713 億円と大きかったこと、また、固定資産の減価償却等による資産価値の減少額 81 億円と比べ、インフラ資産の整備などに伴う固定資産の増加が 133 億円と大きかったこと等が主な要因です。

結果、平成 21 年度末の純資産は 2,298 億円となりました。

これらを市民 1 人当たりに換算すると、平成 21 年度中に純資産は 2 万円増加して 182 万円となりました。

4) 資金収支計算書でみる財政状況

○資金収支計算書（CF）

(単位：百万円)			
【経常的収支区分】		普通会計	単 体 連 結
I. 経常的収支		4,000	6,107 6,066
1. 経常的支出		44,364	58,616 59,009
① 経常業務費用支出		23,222	25,486 25,893
② 移転支出		21,142	33,130 33,116
2. 経常的収入		48,364	64,723 65,075
① 租税収入		32,641	32,641 32,641
② 社会保険料収入		0	3,931 3,931
③ 経常業務収益収入		2,605	5,802 6,152
④ 移転収入		13,118	22,349 22,351
【資本的収支区分】			
II. 資本的収支		△ 4,535	△ 5,296 △ 5,314
1. 資本的支出		7,830	9,266 9,286
① 固定資産形成支出		6,741	8,083 8,086
② 長期金融資産形成支出		1,089	1,183 1,198
③ その他の資本形成支出		0	0 2
2. 資本的収入		3,295	3,970 3,972
① 固定資産売却収入		55	55 55
② 長期金融資産償還収入		3,240	3,915 3,917
③ その他の資本処分収入		0	0 0
基礎的財政収支		△ 535	811 752
【財務的収支区分】			
III. 財務的収支		△ 1,369	△ 2,189 △ 2,128
1. 財務的支出		4,758	6,420 6,601
① 支払利息支出		737	1,321 1,321
② 元本償還支出		4,021	5,099 5,280
2. 財務的収入		3,389	4,231 4,473
① 公債発行収入		3,389	4,231 4,231
② 借入金収入		0	0 242
③ その他の財務的収入		0	0 0
当期資金収支額		△ 1,904	△ 1,378 △ 1,376
期首資金残高		5,018	7,887 8,082
期末資金残高		3,114	6,509 6,706

○市民1人当たりの資金収支計算書（CF）

(単位：円)			
【経常的収支区分】		普通会計	単 体 連 結
I. 経常的収支		31,719	48,426 48,106
1. 経常的支出		351,821	464,848 467,959
① 経常業務費用支出		184,160	202,115 205,338
② 移転支出		167,661	262,733 262,621
2. 経常的収入		383,540	513,274 516,065
① 租税収入		258,856	258,856 258,856
② 社会保険料収入		0	31,173 31,173
③ 経常業務収益収入		20,659	46,014 48,787
④ 移転収入		104,025	177,231 177,249
【資本的収支区分】			
II. 資本的収支		△ 35,961	△ 41,996 △ 42,140
1. 資本的支出		62,091	73,480 73,643
① 固定資産形成支出		53,455	64,098 64,124
② 長期金融資産形成支出		8,636	9,382 9,505
③ その他の資本形成支出		0	0 14
2. 資本的収入		26,130	31,484 31,503
① 固定資産売却収入		436	436 436
② 長期金融資産償還収入		25,694	31,048 31,067
③ その他の資本処分収入		0	0 0
基礎的財政収支		△ 4,242	6,430 5,966
【財務的収支区分】			
III. 財務的収支		△ 10,855	△ 17,363 △ 16,883
1. 財務的支出		37,728	50,918 52,352
① 支払利息支出		5,842	10,475 10,475
② 元本償還支出		31,886	40,443 41,877
2. 財務的収入		26,873	33,555 35,469
① 公債発行収入		26,873	33,555 33,555
② 借入金収入		0	0 1,914
③ その他の財務的収入		0	0 0
当期資金収支額		△ 15,097	△ 10,933 △ 10,917
期首資金残高		39,794	62,550 64,096
期末資金残高		24,697	51,617 53,179

○資金収支計算書から分かること（連結ベース）

行政サービスを行う中で、毎年度継続的に収入、支出される経常的収支は 61 億円の余剰が発生し、一方、資産形成や、投資、貸付金などの収支である資本的収支は 53 億円の赤字となったため、基礎的財政収支（プライマリーバランス）は、結果として 8 億円の黒字となりました。

市債の収支である財務的収支については 21 億円の赤字ですが、これは、市債を新たに発行することによる借入金額に比べて返済高が多いことを意味し、市債の発行を抑制し残高を減らした結果です。

結果、当期の資金収支額は 14 億円の赤字となり、期末資金残高は 67 億円となりました。

これらを市民 1 人あたりに換算すると、当期は 1 万 1 千円の赤字となり、期末資金残高は 5 万 3 千円となりました。

第3節 財務諸表に基づく分析指標

1) 純資産比率

純資産／総資産

企業会計の「自己資本比率」に相当するものであり、総資産のうち返済義務のない純資産がどれくらいの割合かを表します。この比率が高いほど、財政状況が健全であるといえ、市町村の普通会計では、60～70％が標準であるといわれています。

	純資産（百万円）	総資産（百万円）	純資産比率（％）
普通会計	192,946	245,263	78.7
単 体	229,464	304,255	75.4
連 結	229,820	304,315	75.5

成田市では、普通会計、単体、連結とも、純資産比率は70～80％であり、標準を上回っていることから、財政状況の健全性がうかがえます。

2) 社会資本形成の世代間比率

純資産／（事業用資産＋インフラ資産）

社会資本形成に係る負担のうち、これまでの世代の負担がどのくらいの割合を占めているのかを表します。

この比率が高いほど、これまでの世代が社会資本形成の形成コストを負担しており、逆に低ければ、将来世代がコストを負担しなければならないことを意味します。市町村の普通会計の平均では、これまでの世代の負担割合は約80％です。

	純資産（百万円）	事業用資産＋インフラ資産（百万円）	社会資本形成の世代間比率（％）
普通会計	192,946	218,713	88.2
単 体	229,464	271,441	84.5
連 結	229,820	271,910	84.5

成田市では、普通会計、単体、連結とも、社会資本形成の世代間比率は、80％を超えていることから、負担を将来に先送りしない、健全な財政運営をしてきたことが分かります。

3) 資産老朽化比率

減価償却累計額／有形固定資産取得価格

有形固定資産のうち、土地以外の償却資産の取得価格に対する減価償却累計額の割合を計算することにより、耐用年数に比べて、どの程度年数が経過しているか（老朽化しているか）がわ

かる指標です。

通常、比率が高い(耐用年数に近付いている)ほど、修繕費用がかかることが想定されます。資産老朽化比率の平均値は、35%～50%と言われています。

主だった資産及び全資産の老朽化比率は次のとおりです。

主な資産	資産老朽化比率（%）
道 路	55.8
橋りょう	54.7
建 物	52.5
公 園	41.4
管きょ	63.8
全資産合計	54.4

成田市では、全資産の合計で、資産老朽化比率が 54.4%と、平均値を上回り、各施設の老朽化が進んでいることがうかがえます。

特に、道路や、橋りょう、管きょなどのインフラ資産の老朽化が進んでいることから、今後、これら資産の計画的な修繕が求められています。

第5章 総合計画と財政見通し

第1節 総合計画

1) 総合計画

総合計画は、まちづくりの基本理念、将来像、施策の大綱等を示した「基本構想」、具体的な施策や事業を示した「基本計画」、施策や事業を実施するための年次計画である実施計画（総合5か年計画'06）からなっています。

本市では、「市民が主役のまちづくり」を基本理念に「空港(そら)、交流(ふれあい)、希望(ゆめ) 創造都市成田」の実現をテーマとし、新たな時代における新生成田市のさらなる発展と市民一人ひとりの幸せを目指すまちづくりを推進します。

基 本 構 想	平成 18 年度～27 年度
基 本 計 画	平成 18 年度～27 年度
総合 5 か年計画' 06 平成 18 年度～22 年度	次期総合 5 か年計画 平成 23 年度～27 年度

○総合 5 か年計画' 06

「総合 5 か年計画' 06」は、基本構想・基本計画を具現化するための行財政運営の基本となるものであり、予算編成の指針となっています。第 25 表は施策の体系です。

第 25 表 「総合 5 か年計画' 06」の施策の体系

1. 世界との交流拠点として市民が誇れる都市をつくる ①成田に集まり世界とつながる交流基盤を整える ②活動しやすく機能的な都市基盤・都市環境を整える	2. 市民がいきいき働く活力ある産業を育てる ①伝統がいきづく国際性豊かな観光地づくりを推進する ②創意と工夫により農林水産業の持続的発展を図る ③地域特性を活かした商工業の振興を図る
3. 市民一人ひとりの健康で生きがいを持った生活をささえる ①高齢者や障がい者が自立し安心して暮らせる体制をつくる ②安心して出産し子育てができる環境をつくる ③住みなれた地域で安心して暮らせる福祉環境を整える ④市民みんなが健康で長生きできる暮らしを実現する	4. 市民が地域文化を愛し、次代を担う心豊かな人材を育む ①成田の個性を活かした国際交流・地域文化の発展を図る ②子どもも大人もともに学び育つ教育を推進する ③生涯を通して学びスポーツができる環境づくりを推進する
5. 市民が安全、安心、快適に暮らせる生活環境をつくる ①安全に暮らせる地域社会をつくる ②空港と共生し安心して暮らせるまちづくりを推進する ③市民が快適に暮らせる身近な生活環境を整える	6. 市民と行政が協働する効率的な自治体運営を行う ①みんなが参加する地域社会をつくる ②市民本位の効率的な自治体運営を行う

・年度別事業費

「総合５か年計画’06」は、総合計画の前期の実施計画となります。この計画期間においては、成田国際空港や成田新高速鉄道の整備などが本格化するとともに、国の行政改革と地方分権の進展等、社会経済情勢も極めて流動的であると予想されるため、計画の弾力的な運用を図るものとします。第26表は年度別事業費です。

第26表 年度別事業費

(単位：千円)

区分		年度別 事業費	財源内訳				
			国庫支出金	県支出金	地方債	その他 特定財源	一般財源
平成 18 年 度	事業費	36,405,816	4,133,094	1,144,858	3,824,000	3,858,510	23,445,354
	公債費	4,027,599	0	14,897	0	0	4,012,702
	人件費	10,366,585	27,478	27,997	0	458,575	9,852,535
	計	50,800,000	4,160,572	1,187,752	3,824,000	4,317,085	37,310,591
平成 19 年 度	事業費	41,101,447	5,565,668	1,224,225	6,412,200	4,001,470	23,897,884
	公債費	4,224,546	0	12,859	0	0	4,211,687
	人件費	10,174,007	27,478	27,997	0	458,575	9,659,957
	計	55,500,000	5,593,146	1,265,081	6,412,200	4,460,045	37,769,528
平成 20 年 度	事業費	42,785,713	5,902,713	1,212,294	6,279,400	3,927,023	25,464,283
	公債費	4,232,256	0	11,158	0	0	4,221,098
	人件費	10,082,031	27,478	27,997	0	458,575	9,567,981
	計	57,100,000	5,930,191	1,251,449	6,279,400	4,385,598	39,253,362
平成 21 年 度	事業費	42,515,685	5,501,734	1,176,179	6,539,700	5,050,511	24,247,561
	公債費	4,387,380	0	7,608	0	0	4,379,772
	人件費	9,996,935	27,478	27,997	0	458,575	9,482,885
	計	56,900,000	5,529,212	1,211,784	6,539,700	5,509,086	38,110,218
平成 22 年 度	事業費	43,465,798	4,756,078	1,305,704	6,548,300	7,048,704	23,807,012
	公債費	4,337,329	0	6,535	0	0	4,330,794
	人件費	9,896,873	27,478	27,997	0	458,575	9,382,823
	計	57,700,000	4,783,556	1,340,236	6,548,300	7,507,279	37,520,629
合 計	事業費	206,274,459	25,859,287	6,063,260	29,603,600	23,886,218	120,862,094
	公債費	21,209,110	0	53,057	0	0	21,156,053
	人件費	50,516,431	137,390	139,985	0	2,292,875	47,946,181
	合計	278,000,000	25,996,677	6,256,302	29,603,600	26,179,093	189,964,328

第2節 財政計画

平成18年度を初年度とする、総合5か年計画を基本にして、平成18年度から平成22年度までの5年間の財政計画を策定しました。

本計画は、一般会計について年度別の財政状況を示すことにより、今後の財政運営の指針とするものです。 第27表は年次別計画です。

1) 年次別計画

第27表 年次別計画

		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	計
歳入	市税	27,562,932	30,175,154	30,470,546	30,033,260	30,325,561	148,567,453
	地方譲与税	1,442,328	566,150	577,150	589,150	605,365	3,780,143
	利子割交付金	102,300	102,300	102,300	102,300	102,300	511,500
	配当割交付金	32,700	32,700	32,700	55,500	55,500	209,100
	株式等譲渡所得割交付金	8,400	8,400	14,200	14,200	14,200	59,400
	地方消費税交付金	1,700,000	1,700,000	1,700,000	1,700,000	1,700,000	8,500,000
	ゴルフ場利用税交付金	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	1,250,000
	自動車取得税交付金	366,000	366,000	366,000	366,000	366,000	1,830,000
	地方特例交付金	560,000	331,010	181,010	31,010	31,010	1,134,040
	地方交付税	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	9,500,000
	交通安全対策特別交付金	24,600	24,600	24,600	24,600	24,600	123,000
	国庫支出金	4,160,572	5,593,146	5,930,191	5,529,212	4,783,556	25,996,677
	県支出金	1,187,752	1,265,081	1,251,449	1,211,784	1,340,236	6,256,302
	市債	3,824,000	6,412,200	6,279,400	6,539,700	6,548,300	29,603,600
	その他特定財源	4,317,085	4,460,045	4,385,598	5,509,086	7,507,279	26,179,093
	その他一般財源	3,361,331	2,313,214	3,634,856	3,044,198	2,146,093	14,499,692
	計	50,800,000	55,500,000	57,100,000	56,900,000	57,700,000	278,000,000

		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	計
歳出	議会費	80,276	68,876	68,807	68,807	60,625	347,391
	総務費	18,007,477	22,529,001	21,181,698	18,616,726	15,637,332	95,972,234
	(うち人件費)	10,366,585	10,174,007	10,082,031	9,996,935	9,896,873	50,516,431
	民生費	8,617,646	8,537,241	8,609,979	8,772,901	8,901,871	43,439,638
	衛生費	4,512,454	5,019,735	6,307,351	8,809,284	11,231,117	35,879,941
	労働費	26,101	26,101	26,101	26,101	26,101	130,505
	農林水産業費	1,060,456	1,130,270	1,111,400	1,021,402	954,788	5,278,316
	商工費	1,317,611	1,358,345	1,327,543	1,324,831	1,325,125	6,653,455
	土木費	6,084,833	6,416,859	7,277,410	6,999,806	8,730,456	35,509,364
	消防費	682,558	1,195,484	761,356	722,787	595,208	3,957,393
	教育費	6,280,958	4,929,877	6,148,622	6,088,004	5,864,101	29,311,562
	災害復旧費	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	10,000
	公債費	4,027,599	4,224,546	4,232,256	4,387,380	4,337,329	21,209,110
	諸支出費	31	31	31	31	31	155
	予備費	100,000	61,634	45,446	59,940	33,916	300,936
	計	50,800,000	55,500,000	57,100,000	56,900,000	57,700,000	278,000,000

本計画は、次のように推計しました。

地方譲与税のうち、所得譲与税は平成18年度で廃止、地方特例交付金（児童手当特例交付金を除く）は、平成20年度で廃止を前提としました。

国・県支出金、市債は、現行の制度を前提としました。

地方交付税は、現行の交付税制度を基に推計しました。

人件費は、職員数を減員し、定期昇給を見込まないで推計しました。

公債費は、現行の償還年数、利率を適用して推計しました。

2) 税収見込み

第 28 表 税収見込み

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	計
個人市民税	6,101,844	7,495,132	7,604,137	7,663,335	7,684,910	36,549,358
法人市民税	4,031,032	4,110,494	4,208,922	4,233,092	4,344,914	20,928,454
固定資産税	15,923,738	17,060,085	17,145,659	16,632,858	16,785,710	83,548,050
軽自動車税	146,919	152,441	158,033	163,575	169,226	790,194
都市計画税	186,575	188,772	189,721	181,650	183,706	930,424
特別土地保有税	25,507	20,913	16,757	11,433	9,778	84,388
地方たばこ税	1,146,836	1,146,836	1,146,836	1,146,836	1,146,836	5,734,180
鉱産税	480	480	480	480	480	2,400
入湯税	1	1	1	1	1	5
計	27,562,932	30,175,154	30,470,546	30,033,230	30,325,561	148,567,453

市税の見込みについては、国の三位一体の改革による税源移譲を考慮し、総合5か年計画で示した人口増等を加味し推計しました。第28表は財政計画に基づく税収見込みです。

3) 財政指標及び主要基金等の状況

第 29 表 財政指標及び主要基金等の状況

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
経常収支比率	81.1%	81.3%	81.9%	82.9%	83.2%
公債費負担比率	10.8%	11.2%	10.8%	11.5%	11.5%
財政調整基金	5,272,053	5,747,949	4,614,025	4,022,968	4,241,599
減債基金	761,988	762,075	437,466	90,508	70,988
市債残高	41,064,757	43,252,411	45,299,555	47,451,875	49,662,846

経常収支比率と公債費負担比率は、平成18年度予算で試算したものから推計しました。減債基金は、利子以外の積立を考慮していません。第29表は財政指標及び主要基金等の状況です。

4) 今後の財政運営

国の税源移譲による税制改革も伴ない、市財政の基幹である市税収入の伸びが見込まれますが、三位一体の改革による地方分権が進められ、国庫負担補助金の縮減や地方交付税の削減が行われ、市は今まで以上に自立的かつ計画的な財政運営が求められています。

成田市の財政は、財政力指数では全国上位に位置し、また、経常収支比率や公債費負担比率等の各種財政指標においても、常に健全性を保っております。

そのような中、平成18年度を初年度とする総合5か年計画では、成田新高速鉄道関連事業、新清掃工場及び附帯施設建設事業、JR成田駅前再開発事業等の大規模事業や1市2町の合併に伴う新市建設事業、空港関連対策事業等で、その総事業費は2,780億円になり、今後の財政運営は、引き続き厳しい状況にあると言えます。

このような状況にあっても、少子高齢化社会への対応、市民の生活環境の推進、都市基盤の整備等の市民サービスの向上を目指しながら、市の財政の健全性を維持していかなければなりません。そのため市では、歳入の確保、補助金の見直し、使用料・手数料等の受益者負担の見直し、民間委託の推進、職員定数の適正化、給与の適正化等の行財政改革を行う第5次行政改革推進計画及び集中改革プランを策定し、それらに基づき、引き続き財政の健全性を図ってまいります。

(単位:千円)

平成 21 年 度										市 区 町 村 コ ー ド		122114		番 号		10					
決 算 状 況										市 町 村 名		成 田 市		市 町 村 型 H21 普 通 交 付 税 種 地 区 分		Ⅲ－1 I－5					
人 口				面 積		人口密度		人口集中地区人口				産 業 構 造									
国 勢 調 査	17年		121,139 人		km ² 213.84	人 566.5	17年国調		65,479 人 <th rowspan="3">区 分</th> <th colspan="2">第1次</th> <td colspan="2">第2次<td colspan="2">第3次</td></td>		区 分	第1次		第2次 <td colspan="2">第3次</td>		第3次					
	12年		116,898 人				12年国調		60,715 人			17 年 国 調 <td colspan="2">3,742 人</td> <td colspan="2">10,352 人</td> <td colspan="2">46,999 人</td>		3,742 人		10,352 人		46,999 人			
	増減率		3.6 %									6.0 %		16.6 %		75.5 %					
住 民 基 本 台 帳	22.3.31		126,098 人		S40. 4. 1以降の合併等の状況								就 業 人 口	12 年 国 調		4,032 人		10,553 人		45,588 人	
	21.3.31		125,428 人		平18.3.27 下総町、大栄町の編入合併									6.6 % <td colspan="2">17.2 %</td> <td colspan="2">74.3 %</td>		17.2 %		74.3 %			
	増減率		0.5 %																		
区 分				平成21年度		平成20年度		増減額		対H20増減率		区 分		財 政 指 標 等							
1. 歳 入 総 額 ①				59,561,606		57,892,506		1,669,100		2.9 %		財 政 力 指 数		1.497							
2. 歳 出 総 額 ②				56,915,574		53,327,526		3,588,048		6.7		実 質 収 支 比 率		4.8 %							
3. 差引(形式収支)(①－②) ③				2,646,032		4,564,980		-1,918,948		-42.0		経 常 収 支 比 率		82.7 %							
4. 翌年度に繰り越すべき財源 ④				827,922		2,596,521		-1,768,599		-68.1		公 債 費 比 率		7.8 %							
5. 実 質 収 支 (③－④) ⑤				1,818,110		1,968,459		-150,349		-7.6		公 債 費 負 担 比 率		10.2 %							
6. 単 年 度 収 支 ⑥				-150,349		292,482		-442,831				起 債 制 限 比 率		6.7 %							
7. 積 立 金 ⑦				35,881		1,466,061		-1,430,180		-97.6		積 立 金 現 在 高		12,097,610							
8. 繰 上 償 還 金 ⑧				0		0		0		－		うち財政調整基金		7,803,702							
9. 積 立 金 取 崩 し 額 ⑨				1,228,314		0		1,228,314		皆増		地 方 債 現 在 高		39,887,232							
10. 実 質 単 年 度 収 支 (⑥＋⑦＋⑧－⑨)				-1,342,782		1,758,543		-3,101,325				債務負担行為支出予定額		22,523,478							
基 準 財 政 需 要 額						17,470,539						健 全 化 判 断 比 率									
基 準 財 政 収 入 額						25,982,524						実 質 赤 字 比 率						－ %			
標 準 財 政 規 模						37,572,601						連 結 実 質 赤 字 比 率						－ %			
うち臨時財政対策債発行可能額						1,726,216						実 質 公 債 費 比 率						7.2 %			
												将 来 負 担 比 率						37.5 %			
地 方 公 営 事 業 会 計 の 状 況												一 部 事 務 組 合 等 加 入 状 況									
会 計 名		種別 (注)	歳 入 (総収益)	歳 出 (総費用)	実質収支 (純損益)	普通会計 からの繰入 額	資金不足比率 (対象会計の み記載)	組 合 等 名								普通会計 からの負担金 又は繰出金	左のうち投資的経 費充当額又は繰出 基準内繰出金				
国民健康保険事業(事業勘定)		事	11,214,047	10,674,302	521,532	1,769,347	%	千葉県市町村総合事務組合								35,055	0				
国民健康保険事業(直診勘定)		事	172,174	150,902	21,272	0		千葉県後期高齢者医療広域連合								615,023	0				
老人保健医療事業		事	30,087	25,827	4,871	1,751		印旛郡市広域市町村圏事務組合(普通)								33,017	0				
介護保険事業(保険事業勘定)		事	4,362,225	4,203,946	149,171	704,531		印旛郡市広域市町村圏事務組合(水道)								68,277	43,248				
介護保険事業(介護サービス事業勘定)		事	34,502	34,502	0	12,787		印旛利根川水防事務組合								1,077	0				
後期高齢者医療事業		事	746,200	741,494	4,706	184,992		香取広域市町村圏事務組合								325,905	35,413				
水道事業		企適	1,726,391	1,678,649	47,742	119,593	－														
簡易水道事業		企適	239,617	239,617	0	183,646	－														
市場事業		企非	242,819	221,987	20,832	95,985	－	第三セクター等に対する債務保証又は損失補償の状況													
公共下水道事業		企非	2,177,753	2,118,922	58,831	605,055	－	第三セクター等名								H21年度末の債務保証額又は損失補償額					
農業集落排水事業		企非	169,343	161,242	8,101	130,091	－	成田市土地開発公社								356,759					
地域指定等の状況			特 別 職 等(H22.4.1現在)					一 般 職 員 等													
広 域			給 与 等 の 状 況	区 分	適 用 年 月 日	1人当たり平均給料 (報酬)月額 百円		区 分	職 員 数 (H22.4.1現在)	1人当たり平均給料支給 月額(H22.4月分) 百円											
近郊整備				市 町 村 長	17 7 1	8,835 百円		一 般 職 員	1,093 人	3,412 百円											
公害防止				副 市 町 村 長	19 4 1	7,600		うち技能労務職員	31	2,793											
低 工				収 入 役	－	－		うち消防関係職員	244	3,218											
山村振興				教 育 長	17 7 1	7,030		教育公務員	21	4,003											
過疎地域				議 会 議 長	10 4 1	5,300		臨 時 職 員	0	0											
農 工				副 議 長	10 4 1	4,900															
リゾート				議 会 議 員	10 4 1	4,700		合 計	1,114	3,423											
半島振興																					

注)「企適」は、平成21年度地方公営企業決算状況調査の対象の地方公営企業のうち地方公営企業法を全部又は一部を適用している事業、「企非」は、同調査の対象の地方公営企業のうち左記以外の事業、「事」は、地方公営事業のうち同調査の対象の地方公営企業以外の事業、「収益」は、左記のうち収益事業をいう。

番号	10													
市 町 村 名		成 田 市		市町村類型	Ⅲ－1									
歳 入					性 質 別 歳 出									
区 分		決算額	構成比	対H20増減率	経常一般財源等	区 分		決算額	構成比	対H20増減率	一般財源等	経常的経費充当一般財源等	經常 収 支 比 率	
地 方 税		29,904,453	50.2 %	－9.6 %	29,706,136	人 件 費		10,616,936	18.7 %	－0.8 %	10,024,250	9,968,861	28.7 %	
地 方 譲 与 税		525,444	0.9	－5.0	525,444	うち職員給		7,557,617	13.3	－2.5	7,036,292			
利子割交付金		59,156	0.1	－17.3	59,156	扶 助 費		6,762,389	11.9	6.7	2,726,905	2,718,974	7.8	
配当割交付金		26,900	0.0	－20.0	26,900	公 債 費		4,196,652	7.4	0.1	4,190,637	4,190,637	12.0	
株式等譲渡所得割交付金		13,871	0.0	23.4	13,871	内元利償還金		4,196,652	7.4	0.1	4,190,637	4,190,637	12.0	
地方消費税交付金		1,678,422	2.8	5.5	1,678,422	内一時借入金利子		0	0.0	－	0	0	0.0	
ゴルフ場利用税交付金		245,170	0.4	－1.1	245,170	義務的経費小計		21,575,977	37.9	1.6	16,941,792	16,878,472	48.5	
特別地方消費税交付金		0	0.0	－	0									
自動車取得税交付金		187,771	0.3	－34.4	187,771	物 件 費		9,575,814	16.8	2.1	7,456,092	6,926,516	19.9	
軽油引取税交付金		0	0.0	－		維持補修費		596,048	1.0	－2.5	565,731	565,731	1.6	
地方特例交付金等		338,414	0.6	3.9		補助費等		6,011,481	10.6	106.9	3,829,835	2,092,960	6.0	
地方交付税		2,249,784	3.8	5.4		投資及び出資金・貸付金 (経常的なものを除く)		0	0.0	－	0	0	0.0	
内普通		1,871,810	3.1	9.5	1,871,810	経常的繰出金		2,534,450	4.5	17.0	2,324,899	2,324,899	6.7	
内特別		377,974	0.6	－11.2		経常的経費小計		40,293,770	70.8	11.0	31,118,349	28,788,578	82.7	
一 般 財 源 計		35,229,385	59.1	－8.1	34,653,094									
交通安全対策特別交付金		25,776	0.0	－2.4	25,776							経常的経費充当一般財源等		
分担金及び負担金		632,750	1.1	4.6	0	積 立 金		48,393	0.1	－98.0	0	28,788,578		
使 用 料		729,842	1.2	4.9	77,024	投資及び出資金・貸付金 (経常的なものを除く)		1,096,954	1.9	－4.8	88,154			
手 数 料		463,812	0.8	－4.4	0	繰 出 金 (経常 的なものを除く)		1,585,516	2.8	4.6	1,582,771	投資的経費充当可能一般財源等		
国 庫 支 出 金		7,186,545	12.1	－4.0		前年度繰上充用金		0	0.0	－	0	8,287,869		
国有提供施設等所在 市町村助成交付金		0	0.0	－	0									
都道府県支出金		1,820,549	3.1	3.6		投 資 的 経 費		13,890,941	24.4	16.9	5,641,837	経 常 一 般 財 源 等		
財 産 収 入		147,552	0.2	－25.2	31,943	うち人件費		480,866	0.8	3.7	480,866	34,792,635		
寄 附 金		4,555	0.0	39.5		普通建設事業費		13,890,941	24.4	16.9	5,641,837			
繰 入 金		2,243,277	3.8	1,610.7		内補助		7,123,482	12.5	60.3	613,966	一 般 財 源 等 総 額		
繰 越 金		4,564,980	7.7	106.0		内単独		6,767,459	11.9	－9.0	5,027,871			
諸 収 入		3,123,983	5.2	－0.5	4,798	災害復旧事業費		0	0.0	－	0	41,077,143		
地 方 債		3,388,600	5.7	21.1		失業対策事業費		0	0.0	－	0			
うち減収補てん債特例分		0	0.0	－								うち債務負担行為に係る支出額 に充当された一般財源等の額		
うち臨時財政対策債		0	0.0	－										
合 計		59,561,606	100.0	2.9	34,792,635	合 計		56,915,574	100.0	6.7	38,431,111	908,890		
市 町 村 税					目 的 別 歳 出							公共施設の整備状況		
区 分		決算額	構成比	対H20増減率	超過課税分 収入済額	区 分		決算額	構成比	対H20増減率	一般財源等			
市町村 民 税		個人分	7,810,866	26.1 %	0.9 %	0	議 会 費		406,241	0.7 %	1.3 %	406,141	道路舗装率	96.0 %
		法人分	2,115,358	7.1	－59.3	156,412	総 務 費		13,069,983	23.0	18.6	6,414,262	道路改良率	69.8 %
固 定 資 産 税		18,608,575	62.2	－0.6	0	民 生 費		13,016,893	22.9	3.7	7,982,975	上水道等普及率	80.1 %	
軽 自 動 車 税		175,146	0.6	5.7	0	衛 生 費		5,754,584	10.1	－1.9	4,541,177	下水道普及率(人口)	72.2 %	
市町村たばこ税		975,292	3.3	－6.7		労 働 費		67,866	0.1	67.5	40,056	し尿収集率	7.7 %	
鉱 産 税		470	0.0	1.5	0	農 林 水 産 業 費		1,270,363	2.2	1.0	1,240,222	し尿衛生処理率	100.0 %	
特別土地保有税		20,429	0.1	26.8		商 工 費		1,743,210	3.1	5.3	698,470	ごみ収集率	100.0 %	
法定普通税小計		29,706,136	99.3	－9.7	156,412	土 木 費		6,708,512	11.8	－5.8	5,005,576	ごみ焼却処理率	85.1 %	
法定外普通税・旧法税		0	0.0	－	0	消 防 費		2,714,116	4.8	－5.8	2,386,423	保育所施設充足率	94.9 %	
目 的 税		198,317	0.7	－0.3	0	教 育 費		7,967,154	14.0	25.7	5,525,172	幼稚園施設充足率	106.3 %	
内 内 内		入 湯 税	0	0.0	－	0	災 害 復 旧 費		0	0.0	－	0	小学校非木造比率	98.8 %
		事 業 所 税	0	0.0	－		公 債 費		4,196,652	7.4	0.1	4,190,637	中学校非木造比率	99.2 %
		都 市 計 画 税	198,317	0.7	－0.3		諸 支 出 金		0	0.0	－	0		
		水利地益税等	0	0.0	－		前年度繰上充用金		0	0.0	－	0		
合 計		29,904,453	100.0	－9.6	156,412	合 計		56,915,574	100.0	6.7	38,431,111			
国民健康保険税(料)		2,652,131		1.3		平成21年度大規模事業(かつこ書きは、平成21年度事業費 単位:百万円)								
徴収率	区 分		現年課税分	滞納繰越分	合 計	・ 成田新高速鉄道アクセス事業(4,080)								
	市 町 村 税		97.8 %	20.2 %	93.4 %	・ 野球場整備事業(798)								
	市町村民税		97.5	20.5	92.1	・ 中学校大規模改造事業(430)								
	固定資産税		97.9	21.5	94.5	・ 湯川線整備事業(429)								
		国民健康保険税(料)	87.1	16.2	66.3	・ 表参道整備事業(351)								

注)表示単位未満を四捨五入しています。このため、構成比の積み上げと合計が一致しない場合があります。
注)調査項目がない場合、指標又は増減率等が算定されない場合は、「－」で表しています。

(単位:千円)

平成 20 年 度										番号		10					
決 算 状 況										市区町村		122114		市町村類型		Ⅲ－1	
										市町村名		成 田 市		H20普通交付 税種地区分		I 5	
人 口			面 積		人口密度		人口集中地区人口		産 業 構 造								
国 勢 調 査	17年	121,139 人	km ²	213.84	人	566.5	17年国調	65,479 人	就業人口	17 年 国 調	3,742 人	10,352 人	46,999 人				
	12年	116,898 人					12年国調	60,715 人			6.0 %	16.6 %	75.5 %				
	増減率	3.6 %									6.0 %	16.6 %	75.5 %				
住 民 基 本 台 帳	21.3.31	125,428 人	S40. 4. 1以降の合併等の状況						12 年 国 調	4,032 人	10,553 人	45,588 人					
	20.3.31	123,742 人	平成18年3月27日 下総町、大栄町の編入合併							6.6 %	17.2 %	74.3 %					
	増減率	1.4 %								6.6 %	17.2 %	74.3 %					
区 分			平成20年度		平成19年度		増減額		対H19増減率		区 分		財 政 指 標 等				
1. 歳 入 総 額 ①			57,892,506		52,743,070		5,149,436		9.8 %		財 政 力 指 数		1.544				
2. 歳 出 総 額 ②			53,327,526		50,526,994		2,800,532		5.5		実 質 収 支 比 率		5.3 %				
3. 差引(形式収支)(①－②) ③			4,564,980		2,216,076		2,348,904		106.0		経 常 収 支 比 率		74.4 %				
4. 翌年度に繰り越すべき財源 ④			2,596,521		540,099		2,056,422		380.7		公 債 費 比 率		8.2 %				
5. 実 質 収 支 (③－④) ⑤			1,968,459		1,675,977		292,482		17.5		公 債 費 負 担 比 率		9.5 %				
6. 単 年 度 収 支 ⑥			292,482		－799,373		1,091,855		136.6		起 債 制 限 比 率		6.8 %				
7. 積 立 金 ⑦			1,466,061		1,164,515		301,546		25.9		積 立 金 現 在 高		14,269,823				
8. 繰 上 償 還 金 ⑧			0		0		0		－		うち財政調整基金		8,996,135				
9. 積 立 金 取 崩 し 額 ⑨			0		0		0		－		地 方 債 現 在 高		39,958,620				
10. 実 質 単 年 度 収 支 (⑥＋⑦＋⑧－⑨)			1,758,543		365,142		1,393,401		381.6		債務負担行為支出予定額		5,585,319				
基 準 財 政 需 要 額					17,265,052					健 全 化 判 断 比 率							
基 準 財 政 収 入 額					26,101,918					実 質 赤 字 比 率					－ %		
標 準 財 政 規 模					36,983,195					連 結 実 質 赤 字 比 率					－ %		
うち臨時財政対策債発行可能額					1,112,227					実 質 公 債 費 比 率					7.4 %		
										将 来 負 担 比 率					33.4 %		
地 方 公 営 事 業 会 計 の 状 況										一 部 事 務 組 合 等 加 入 状 況							
会 計 名	種別 (注)	歳 入 (総収益)	歳 出 (総費用)	実質収支 (純損益)	普通会計 からの繰入 額	資金不足比率 (対象会計の み記載)	組 合 等 名					普通会計か らの負担金 又は繰出金	左のうち投資的経 費充当額又は繰出 基準内繰出金				
国民健康保険事業(事業勘定)	事	10,626,964	10,382,655	244,309	1,534,076	%	千葉県市町村総合事務組合					34,961	0				
老人保健医療事業	事	708,906	707,231	1,675	23,219		千葉県後期高齢者医療広域連合					491,036	0				
介護保険事業(保険事業勘定)	事	4,237,396	4,051,457	185,939	656,095		印旛郡市広域市町村圏事務組合(普通)					35,315	0				
後期高齢者医療事業	事	693,293	685,054	8,239	164,498		印旛郡市広域市町村圏事務組合(水道)					48,901	47,901				
国民健康保険事業(直診勘定)	事	172,922	154,676	18,246	0		印旛利根川水防事務組合					1,076	0				
介護保険事業(介護サービス事業勘定)	事	25,558	25,558	0	4,429		香取広域市町村圏事務組合					421,603	40,055				
水道事業	企適	1,831,609	1,677,996	153,613	134,511												
簡易水道事業	企適	251,692	251,692	0	146,609												
市場事業	企非	277,574	266,208	11,366	129,345		第三セクター等に対する債務保証又は損失補償の状況										
公共下水道事業	企非	2,117,684	2,054,024	63,660	555,542		第三セクター等名					H20年度末の債 務保証額又は損 失補償額					
農業集落排水事業	企非	325,375	320,095	5,280	125,746		成田市土地開発公社					296,207					
地域指定等の状況		給 与 等 の 状 況	特 別 職 等(H21.4.1現在)				一 般 職 員 等										
広 域	○		区 分	適 用 年 月 日	1人当たり平均給料 (報酬)月額 百円		区 分	職 員 数 (H21.4.1現在)	1人当たり平均給料支給 月額(H21.4月分) 百円								
近郊整備	○		市 町 村 長	17 7 1	8,835 百円		一般職員	1,091 人	3,393 百円								
公害防止	○		副市町村長	19 4 1	7,600		うち技能労務職員	34	2,749								
低 工			収 入 役		0		うち消防関係職員	240	3,272								
山村振興			教 育 長	17 7 1	7,030		教育公務員	21	4,041								
過疎地域			議 会 議 長	10 4 1	5,300		臨 時 職 員	0	0								
農 工			副 議 長	10 4 1	4,900												
リゾート			議 会 議 員	10 4 1	4,700		合 計	1,112	3,406								
半島振興																	

注)「企適」は、平成20年度地方公営企業決算状況調査の対象の地方公営企業のうち地方公営企業法を全部又は一部を適用している事業、「企非」は、同調査の対象の地方公営企業のうち左記以外の事業、「事」は、地方公営事業のうち同調査の対象の地方公営企業以外の事業、「収益」は、左記のうち収益事業をいう。

番号		10		(単位:千円)										
市 町 村 名		成 田 市			市町村類型		Ⅲ－1							
歳 入					性 質 別 歳 出									
区 分		決算額	構成比	対H19増減率	経常一般財源等	区 分		決算額	構成比	対H19増減率	一般財源等	経常的経費充当一般財源等	経常比率	
地 方 税		33,094,625	57.2 %	13.0 %	32,895,683	人 件 費		10,703,325	20.1 %	-2.3 %	10,010,431	9,941,669	26.3 %	
地 方 譲 与 税		553,306	1.0	-4.7	553,306	うち職員給		7,750,524	14.5	-3.4	7,130,966			
利子割交付金		71,495	0.1	-1.2	71,495	扶 助 費		6,340,654	11.9	8.3	2,579,868	2,572,139	6.8	
配当割交付金		33,641	0.1	-57.0	33,641	公 債 費		4,194,177	7.9	-0.2	4,184,629	4,184,629	11.0	
株式等譲渡所得割交付金		11,241	0.0	-79.9	11,241	内元利償還金		4,194,177	7.9	-0.2	4,184,629	4,184,629	11.0	
地方消費税交付金		1,590,347	2.7	-8.1	1,590,347	内一時借入金利子		0	0.0	－	0	0	0.0	
ゴルフ場利用税交付金		247,887	0.4	-2.9	247,887	義務的経費小計		21,238,156	39.8	1.1	16,774,928	16,698,437	44.1	
特別地方消費税交付金		0	0.0	－	0									
自動車取得税交付金		286,154	0.5	-19.9	286,154	物 件 費		9,378,071	17.6	4.5	7,355,081	6,839,876	18.1	
軽油引取税交付金		0	0.0	－		維持補修費		611,543	1.1	-2.7	591,519	591,519	1.6	
地方特例交付金等		325,659	0.6	58.9	325,659	補 助 費 等		2,905,545	5.4	9.1	2,747,322	2,070,561	5.5	
地 方 交 付 税		2,134,508	3.7	1.6	1,708,956	投資及び出資金・貸付金(経常的なものを除く)		0	0.0	－	0	0	0.0	
内	普通交付税	1,708,956	3.0	4.3		経常的繰出金		2,165,627	4.1	4.5	1,980,961	1,980,961	5.2	
内	特別交付税	425,552	0.7	-7.9		経常的経費小計		36,298,942	68.1	2.7	29,449,811	28,181,354	74.4	
一 般 財 源 計		38,348,863	66.2	10.4	37,724,369									
交通安全対策特別交付金		26,418	0.0	-12.4	26,418							経常的経費充当一般財源等		
分担金及び負担金		604,657	1.0	0.1	0	積 立 金		2,479,286	4.6	47.4	2,429,974	28,181,354		
使 用 料		695,899	1.2	-2.2	75,891	投資及び出資金・貸付金(経常的なものを除く)		1,152,549	2.2	-44.7	131,149			
手 数 料		485,227	0.8	-4.2	0	繰 出 金 (経常的なものを除く)		1,516,131	2.8	45.8	1,493,273	投資的経費充当可能一般財源等		
国 庫 支 出 金		7,486,579	12.9	54.1		前年度繰上充用金		0	0.0	－	0	10,352,382		
国有提供施設等所在市町村助成交付金		0	0.0	－	0									
都道府県支出金		1,757,430	3.0	7.0		投 資 的 経 費		11,880,618	22.3	14.6	5,787,402	経 常 一 般 財 源 等		
財 産 収 入		197,277	0.3	15.9	34,097	うち人件費		463,902	0.9	-0.9	463,902	37,871,284		
寄 附 金		3,265	0.0	-46.0		普通建設事業費		11,880,618	22.3	14.6	5,787,402			
繰 入 金		131,135	0.2	-78.6		内	補 助	4,443,528	8.3	24.1	451,485	一 般 財 源 等 総 額		
繰 越 金		2,216,076	3.8	-19.1		内	単 独	7,437,090	13.9	9.5	5,335,917			
諸 収 入		3,140,480	5.4	-9.8	10,509	災害復旧事業費		0	0.0	－	0		43,856,589	
地 方 債		2,799,200	4.8	5.7		失業対策事業費		0	0.0	－	0	413,489		
うち減収補てん債特例分		0	0.0	－									うち債務負担行為に係る支出額に充当された一般財源等の額	
うち臨時財政対策債		0	0.0	－										
合 計		57,892,506	100.0	9.8	37,871,284	合 計		53,327,526	100.0	5.5	39,291,609			
市 町 村 税					目 的 別 歳 出					公共施設の整備状況				
区 分		決算額	構成比	対H19増減率	超過課税分収入済額	区 分		決算額	構成比	対H19増減率	一般財源等			
市町村	個 人 分	7,739,584	23.4 %	2.6 %	0	議 会 費		400,843	0.8 %	-12.7 %	400,838	道路舗装率	95.8 %	
民 税	法 人 分	5,203,016	15.7	40.3	619,279	総 務 費		11,022,364	20.7	0.6	7,824,377	道路改良率	68.6 %	
固 定 資 産 税		18,725,625	56.6	13.6	0	民 生 費		12,549,194	23.5	18.2	7,478,087	上水道普及率	79.3 %	
軽自動車税		165,645	0.5	6.1	0	衛 生 費		5,866,540	11.0	0.6	4,714,038	下水道普及率(人口)	71.5 %	
市町村たばこ税		1,045,240	3.2	-11.7		労 働 費		40,520	0.1	13.4	40,292	し尿収集率	8.5 %	
鉦 産 税		463	0.0	-0.4	0	農 林 水 産 業 費		1,257,950	2.4	-0.9	1,212,303	し尿衛生処理率	100.0 %	
特別土地保有税		16,110	0.0	-42.3		商 工 費		1,654,996	3.1	6.3	608,181	ごみ収集率	100.0 %	
法定普通税小計		32,895,683	99.4	13.0	619,279	土 木 費		7,120,083	13.4	3.0	5,204,625	ごみ焼却処理率	85.5 %	
法定外普通税・旧法税		0	0.0	－	0	消 防 費		2,881,398	5.4	4.0	2,434,751	保育所施設充足率	96.3 %	
目 的 税		198,942	0.6	2.4	0	教 育 費		6,339,461	11.9	7.2	5,189,488	幼稚園施設充足率	109.7 %	
内	入 湯 税	0	0.0	－	0	災 害 復 旧 費		0	0.0	－	0	小学校非木造比率	98.9 %	
	事業所税	0	0.0	－		公 債 費		4,194,177	7.9	-0.2	4,184,629	中学校非木造比率	99.2 %	
	都市計画税	198,942	0.6	2.4		諸 支 出 金		0	0.0	－	0			
	水利地益税等	0	0.0	－		前年度繰上充用金		0	0.0	－	0			
合 計		33,094,625	100.0	13.0	619,279	合 計		53,327,526	100.0	5.5	39,291,609			
国民健康保険税(料)		2,618,764		-11.9		平成20年度大規模事業(かつこ書きは、平成20年度事業費 単位:百万円)								
徴収率	区 分	現年課税分	滞納繰越分	合 計										
	市 町 村 税	98.6 %	19.0 %	94.2 %										
	市町村民税	98.1	21.6	94.2										
	固定資産税	98.9	21.1	95.3										
	国民健康保険税(料)	88.2	15.8	67.2										
					・ 成田新高速鉄道アクセス事業(2,714) ・ 表参道整備事業(449) ・ 大柴野球場整備事業(444) ・ 成田新高速鉄道アクセス事業関連道路整備事業(377) ・ 赤坂消防署公津分署整備事業(367)									

注)表示単位未満を四捨五入しています。このため、構成比の積み上げと合計が一致しない場合があります。

注)調査項目がない場合、指標又は増減率等が算定されない場合は、「—」で表しています。

普通会計決算状況（決算統計）

年 度	人 口 年度末現在 A (人)	歳入総額 B (千円)	歳出総額 C (千円)	差 引 B－C (千円)	実質収支 (千円)
S44	43,983	1,556,988	1,398,481	158,507	75,210
S45	44,437	2,333,347	2,194,925	138,422	16,625
S46	45,125	3,417,470	3,299,931	117,539	14,467
S47	46,450	4,053,849	3,620,189	433,660	288,776
S48	48,579	4,501,223	3,931,086	570,137	117,520
S49	50,691	6,454,477	6,350,038	104,439	7,088
S50	52,652	5,607,198	5,563,563	43,635	8,250
S51	54,223	6,201,044	5,957,128	243,916	24,989
S52	58,492	12,679,725	12,184,391	495,334	56,092
S53	64,301	11,105,740	10,548,503	557,237	435,326
S54	67,038	13,462,065	12,619,511	842,554	833,555
S55	69,675	15,103,597	14,546,839	556,758	417,968
S56	71,746	17,582,104	17,116,758	465,346	414,035
S57	73,635	17,630,967	16,221,550	1,409,417	860,590
S58	74,474	22,144,619	21,036,433	1,108,186	907,594
S59	75,562	22,462,339	21,177,216	1,285,123	977,732
S60	76,447	22,613,588	21,175,571	1,438,017	1,249,904
S61	77,923	23,886,985	22,008,684	1,878,301	1,495,107
S62	79,505	26,198,895	24,969,432	1,229,463	762,688
S63	82,311	29,432,135	28,239,651	1,192,484	645,676
H 1	84,189	29,069,937	27,762,104	1,307,833	1,006,949
H 2	85,676	32,099,375	30,568,519	1,530,856	1,295,261
H 3	87,316	34,652,931	33,035,960	1,616,971	701,954
H 4	88,864	39,603,283	38,317,133	1,286,150	723,559
H 5	89,748	37,525,722	36,106,232	1,419,490	1,026,134
H 6	89,842	35,162,547	33,694,063	1,468,484	1,030,033
H 7	90,528	37,706,422	36,261,810	1,444,612	1,082,185
H 8	91,192	37,630,702	35,663,667	1,967,035	1,523,475
H 9	92,152	41,577,483	40,065,954	1,511,529	1,119,292
H10	92,789	38,961,623	37,587,586	1,374,037	1,062,781
H11	94,163	42,211,341	40,683,960	1,527,381	927,062
H12	95,011	42,019,815	40,081,607	1,938,208	1,348,246
H13	95,850	45,340,629	43,084,373	2,256,256	1,589,481
H14	97,057	44,509,899	42,261,488	2,248,411	1,797,867
H15	97,740	43,611,946	41,634,295	1,977,651	1,472,538
H16	98,708	43,817,557	42,342,726	1,474,831	1,104,499
H17	120,534	56,200,544	53,739,462	2,461,082	1,733,703
H18	122,231	53,226,764	50,488,412	2,738,352	2,475,350
H19	123,742	52,743,070	50,526,994	2,216,076	1,675,977
H20	125,428	57,892,506	53,327,526	4,564,980	1,968,459
H21	126,098	59,561,606	56,915,574	2,646,032	1,818,110

普通会計決算状況（決算統計）

年 度	標準財政規模 D（千円）	財政力指数 3力年平均	実 質 収 支 比 率 (%)	経 常 収 支 比 率 (%)	公 債 費 比 率 (%)	起 債 制 限 比 率 (%)	債 務 負 担 行 為 比 率 (%)
S44	716,723	0.510	10.5	70.6	6.7		
S45	845,666	0.471	2.0	66.9	7.5		
S46	1,063,721	0.446	1.4	73.4	11.3		
S47	1,269,983	0.485	22.7	80.8	15.3		0.8
S48	1,709,782	0.597	6.9	84.1	15.4		3.2
S49	2,545,659	0.799	0.3	90.8	12.4		3.3
S50	2,821,187	0.950	0.3	91.4	12.8		21.0
S51	3,174,683	1.041	0.8	85.7	12.7		12.9
S52	4,088,279	1.068	1.4	81.2	10.3	10.8	9.7
S53	4,312,244	1.032	10.1	83.9	12.2	10.4	10.9
S54	5,843,560	1.060	14.3	74.9	10.5	9.6	12.3
S55	7,521,688	1.094	5.6	74.8	10.1	9.3	11.1
S56	8,614,127	1.195	4.8	75.7	10.8	8.8	9.3
S57	9,579,933	1.248	9.0	74.8	11.1	8.9	0.1
S58	10,047,447	1.256	9.0	71.4	11.6	9.3	0.1
S59	11,063,458	1.301	8.8	68.3	12.6	9.9	0.0
S60	13,353,534	1.383	9.4	67.9	11.5	10.0	4.1
S61	14,398,504	1.475	10.4	71.1	11.4	10.0	5.4
S62	14,257,222	1.513	5.3	60.9	11.0	9.5	10.3
S63	15,919,194	1.533	4.1	63.5	11.5	9.6	4.0
H 1	18,212,925	1.529	5.5	58.7	11.3	9.6	2.9
H 2	20,210,768	1.555	6.4	58.7	10.6	9.6	0.5
H 3	21,810,156	1.557	3.2	62.1	10.4	9.3	0.0
H 4	23,472,235	1.547	3.1	61.3	10.3	9.0	0.0
H 5	26,145,332	1.588	3.9	60.0	9.2	8.6	0.0
H 6	27,499,764	1.643	3.7	67.0	9.1	8.2	0.0
H 7	24,150,411	1.633	4.5	69.7	10.5	8.3	0.0
H 8	27,691,633	1.617	5.5	66.7	9.3	8.3	0.0
H 9	28,323,108	1.574	4.0	68.4	9.1	8.3	0.0
H10	27,628,242	1.591	3.8	73.9	9.2	7.9	0.0
H11	26,855,243	1.531	3.5	73.4	9.8	8.0	0.0
H12	27,080,381	1.470	5.0	72.9	9.9	8.2	2.1
H13	28,008,456	1.469	5.7	71.0	9.8	8.4	1.8
H14	28,531,973	1.527	6.3	74.0	9.2	8.2	2.0
H15	26,726,332	1.590	5.5	74.3	9.3	7.9	6.7
H16	27,220,957	1.635	4.1	78.3	11.0	8.3	5.6
H17	31,250,288	1.381	5.5	74.9	9.8	8.4	6.9
H18	36,387,747	1.464	6.8	79.7	8.4	8.0	0.4
H19	34,082,930	1.493	4.8	80.9	9.0	7.3	1.4
H20	36,983,195	1.544	5.3	74.4	8.2	6.8	1.4
H21	37,572,601	1.497	4.8	82.7	7.8	6.7	3.1

普通会計決算状況（決算統計）

年度	積立金現在高		債務残高			債務残高と 標準財政 規模の比較 (H-E)/D
	E (千円)	うち財政調整 基金 (千円)	地方債 現在高 F (千円)	債務負担行為 未払残高 G (千円)	計 (F+G) H (千円)	
S44	57,513	52,436	548,820	5,786	554,606	0.7
S45	61,186	55,623	990,647	146,767	1,137,414	1.3
S46	64,206	55,623	1,525,664	36,375	1,562,039	1.4
S47	12,507	3,574	1,961,153	202,124	2,163,277	1.7
S48	13,007	3,574	2,170,385	1,507,666	3,678,051	2.1
S49	15,057	3,574	2,650,862	2,690,768	5,341,630	2.1
S50	17,269	3,574	2,785,575	3,501,263	6,286,838	2.2
S51	23,303	7,340	3,262,192	3,483,243	6,745,435	2.1
S52	108,982	7,836	5,493,627	3,427,928	8,921,555	2.2
S53	127,475	8,251	6,643,353	2,692,229	9,335,582	2.1
S54	893,332	754,252	7,937,670	1,898,550	9,836,220	1.5
S55	1,477,193	1,290,931	8,903,431	1,015,432	9,918,863	1.1
S56	1,675,503	1,387,668	9,830,312	125,976	9,956,288	1.0
S57	2,103,133	1,471,946	10,730,704	118,551	10,849,255	0.9
S58	3,091,413	2,087,343	13,362,283	105,556	13,467,839	1.0
S59	3,553,807	1,832,703	14,412,027	3,811,360	18,223,387	1.3
S60	4,344,235	1,991,833	15,290,776	4,956,130	20,246,906	1.2
S61	4,467,774	2,105,031	16,013,658	4,177,842	20,191,500	1.1
S62	4,680,024	2,202,257	17,774,052	1,164,047	18,938,099	1.0
S63	3,451,749	2,305,922	20,267,913	590,963	20,858,876	1.1
H 1	3,989,509	2,427,222	19,937,789	105,349	20,043,138	0.9
H 2	6,027,776	3,522,855	19,717,281	63,063	19,780,344	0.7
H 3	6,103,835	2,998,347	20,339,567	55,744	20,395,311	0.7
H 4	6,098,706	2,429,153	21,464,285	1,868,308	23,332,593	0.7
H 5	7,762,153	3,615,879	21,965,337	42,905	22,008,242	0.5
H 6	8,153,156	3,699,357	21,963,440	35,314	21,998,754	0.5
H 7	8,434,722	4,032,623	22,869,349	28,441	22,897,790	0.6
H 8	8,671,272	4,068,607	22,773,430	21,916	22,795,346	0.5
H 9	7,676,106	4,095,053	24,221,714	15,577	24,237,291	0.6
H10	5,298,557	3,511,846	24,307,549	7,263,135	31,570,684	1.0
H11	4,967,579	2,552,714	25,510,943	6,686,922	32,197,865	1.0
H12	4,604,222	2,556,619	26,946,172	4,477,623	31,423,795	1.0
H13	5,272,118	2,810,003	29,864,518	4,154,494	34,019,012	1.0
H14	7,284,185	2,810,331	31,470,049	3,660,190	35,130,239	1.0
H15	8,133,748	2,810,376	32,967,457	2,277,538	35,244,995	1.0
H16	7,454,353	2,732,819	34,015,961	2,680,508	36,696,469	1.1
H17	10,440,636	5,871,410	41,268,356	818,206	42,086,562	1.0
H18	10,770,804	6,365,558	41,310,195	2,564,292	43,874,487	0.9
H19	11,841,026	7,530,074	40,575,206	3,005,294	43,580,500	0.9
H20	14,269,823	8,996,135	39,958,620	5,585,319	45,543,939	0.8
H21	12,097,610	7,803,702	39,887,232	22,523,478	62,410,710	1.3

普通会計決算状況（決算統計）

年 度	市 税 決 算 額				普 通 建 設 事 業 費		
	合 計	うち 個人市民税	うち 法人市民税	うち 固定資産税	補 助	単 独	合 計
	I (千円)	J (千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	K (千円)
S44	387,142	114,150	41,511	124,468	285,712	321,690	607,402
S45	511,307	188,944	52,439	143,865	359,003	903,832	1,262,835
S46	689,801	240,814	93,185	184,890	361,475	1,563,142	1,924,617
S47	1,043,938	362,184	141,360	343,678	694,931	1,178,572	1,873,503
S48	1,701,147	528,869	146,548	725,832	504,247	984,349	1,488,596
S49	2,663,374	664,302	179,348	1,187,099	962,483	1,904,384	2,866,867
S50	2,761,352	532,978	165,986	1,438,195	728,805	955,104	1,683,909
S51	3,273,549	637,410	254,087	1,651,982	447,483	1,414,820	1,862,303
S52	4,002,341	747,372	271,533	1,930,446	5,047,286	2,377,605	7,424,891
S53	4,505,730	942,102	409,957	2,088,002	1,893,926	2,875,366	4,769,292
S54	6,314,871	1,429,224	725,516	3,072,883	2,088,685	2,901,050	4,989,735
S55	7,440,339	1,806,010	858,908	3,500,180	2,316,548	3,415,448	5,731,996
S56	8,366,123	2,079,315	1,010,817	3,886,753	2,258,292	4,543,324	6,801,616
S57	9,317,732	2,402,768	1,070,722	4,398,011	1,247,248	3,771,552	5,018,800
S58	10,414,780	2,760,909	1,259,221	4,901,813	3,922,883	4,873,086	8,795,969
S59	11,921,050	2,734,817	2,078,844	5,484,388	3,113,250	4,760,885	7,874,135
S60	13,159,049	3,126,560	2,278,404	5,980,227	2,332,645	5,153,336	7,485,981
S61	13,795,753	3,367,101	1,713,464	6,826,389	2,431,371	4,937,703	7,369,074
S62	15,918,146	3,760,864	2,885,068	7,321,512	1,181,132	9,466,791	10,647,923
S63	16,703,274	3,922,860	3,256,537	7,504,520	1,845,849	10,315,887	12,161,736
H 1	18,941,538	4,571,990	4,317,578	8,135,800	1,210,626	8,657,699	9,868,325
H 2	20,224,362	5,345,966	4,408,229	8,528,635	927,419	9,816,719	10,744,138
H 3	20,555,448	5,833,238	2,995,657	9,690,849	780,166	9,589,053	10,369,219
H 4	22,977,731	7,395,417	2,718,450	10,790,384	1,482,235	14,426,805	15,909,040
H 5	25,002,317	6,284,373	2,283,403	14,021,631	1,143,349	10,460,801	11,604,150
H 6	24,063,348	5,409,513	2,279,212	13,859,213	996,717	7,425,772	8,422,489
H 7	23,946,565	5,630,260	2,474,856	13,394,152	2,369,693	9,008,961	11,378,654
H 8	25,772,412	5,567,213	2,852,354	15,454,202	1,338,461	8,332,466	9,670,927
H 9	25,604,884	6,257,528	2,601,323	14,597,102	2,357,154	9,677,140	12,034,294
H10	23,700,308	5,427,391	2,422,854	14,512,915	1,041,003	8,607,616	9,648,619
H11	24,364,996	5,349,867	2,374,245	15,232,069	2,362,353	8,687,363	11,049,716
H12	24,699,010	5,315,832	2,531,315	15,428,615	2,916,632	8,898,966	11,815,598
H13	25,345,787	5,217,932	2,901,523	15,897,318	3,234,105	10,969,144	14,203,249
H14	24,656,841	5,418,753	1,979,582	15,937,236	1,524,731	9,782,303	11,307,034
H15	24,554,617	5,064,226	2,239,081	15,740,544	1,341,512	9,631,429	10,972,941
H16	24,211,311	4,919,551	2,353,246	15,574,615	1,062,062	10,405,217	11,467,279
H17	29,612,710	5,752,190	5,464,742	16,867,734	2,480,615	10,970,454	13,451,069
H18	27,943,870	6,212,245	3,756,845	16,410,547	3,497,893	7,456,089	10,953,982
H19	29,297,169	7,539,929	3,707,403	16,487,915	3,579,291	6,792,172	10,371,463
H20	33,094,625	7,739,584	5,203,016	18,725,625	4,443,528	7,437,090	11,880,618
H21	29,904,453	7,810,866	2,115,358	18,608,575	7,123,482	6,767,459	13,890,941

普通会計決算状況（決算統計）

年 度	市 民 一 人 当 た り					人口千人当たり職員数	
	積立金 E/A (円)	地方債残高 F/A (円)	市税 I/A (円)	市税のうち 個人市民税 J/A (円)	普通建設事業 費 K/A (円)	合 計 (人)	う ち 一 般 職 員 (人)
S44	1,308	12,478	8,802	2,595	13,810	9.0	7.6
S45	1,377	22,293	11,506	4,252	28,419	10.7	10.7
S46	1,423	33,810	15,286	5,337	42,651	12.1	12.1
S47	269	42,221	22,474	7,797	40,334	13.6	13.6
S48	268	44,677	35,018	10,887	30,643	14.0	13.9
S49	297	52,295	52,541	13,105	56,556	13.6	13.6
S50	328	52,905	52,445	10,123	31,982	13.5	13.4
S51	430	60,163	60,372	11,755	34,345	13.6	13.6
S52	1,863	93,921	68,425	12,777	126,939	13.6	13.6
S53	1,982	103,317	70,072	14,651	74,171	13.2	13.1
S54	13,326	118,406	94,198	21,320	74,431	13.0	12.9
S55	21,201	127,785	106,786	25,920	82,268	13.0	13.0
S56	23,353	137,016	116,608	28,982	94,801	12.6	12.5
S57	28,562	145,728	126,539	32,631	68,158	12.3	12.3
S58	41,510	179,422	139,845	37,072	118,108	12.2	12.2
S59	47,032	190,731	157,765	36,193	104,208	11.9	11.9
S60	56,827	200,018	172,133	40,898	97,924	11.6	11.6
S61	57,336	205,506	177,043	43,211	94,569	11.2	11.2
S62	58,865	223,559	200,216	47,303	133,928	11.0	11.0
S63	41,935	246,236	202,929	47,659	147,754	10.7	10.6
H 1	47,388	236,822	224,988	54,306	117,216	10.4	10.3
H 2	70,355	230,138	236,056	62,397	125,404	10.2	10.1
H 3	69,905	232,942	235,414	66,806	118,755	10.0	10.0
H 4	68,630	241,541	258,572	83,222	179,027	10.1	10.0
H 5	86,488	244,745	278,584	70,022	129,297	10.2	10.1
H 6	90,750	244,467	267,841	60,211	93,748	10.5	10.4
H 7	93,173	252,622	264,521	62,194	125,692	10.6	10.5
H 8	95,088	249,731	282,617	61,049	106,050	10.4	10.3
H 9	83,298	262,845	277,855	67,904	130,592	10.3	10.2
H10	57,103	261,966	255,422	58,492	103,985	10.1	10.0
H11	52,755	270,923	258,753	56,815	117,347	9.9	9.8
H12	48,460	283,611	259,959	55,950	124,360	9.7	9.6
H13	55,004	311,576	264,432	54,439	148,182	9.8	9.7
H14	75,051	324,243	254,045	55,831	116,499	9.6	9.5
H15	83,218	337,298	251,224	51,813	112,267	9.4	9.3
H16	75,519	344,612	245,282	49,839	116,174	9.2	9.1
H17	86,620	342,379	245,679	47,723	111,596	9.7	9.5
H18	88,118	337,968	228,615	50,824	89,617	9.4	9.2
H19	95,691	327,902	236,760	60,933	83,815	9.0	8.8
H20	113,769	318,578	263,854	61,705	94,721	8.9	8.7
H21	95,938	316,319	237,153	61,943	110,160	8.8	8.6

会計別決算状況

(単位:円)

	一般会計		国民健康保険(事業勘定)		国民健康保険(施設勘定)		下水道	
	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出
S29	142,404,396	141,380,178	10,043,009	9,633,111				
S30	164,223,666	162,723,407	10,650,485	10,645,092				
S31	190,611,633	173,406,105	22,971,398	22,553,950				
S32	238,570,858	210,972,844	26,958,924	26,693,338				
S33	261,925,944	237,508,183	29,681,370	27,692,488				
S34	249,030,577	218,627,570	32,656,950	32,479,729				
S35	262,211,941	245,708,401	34,756,236	34,204,429				
S36	375,291,825	319,087,256	54,915,276	49,617,831				
S37	426,165,375	358,709,460	68,131,454	62,055,116				
S38	497,188,209	419,579,325	77,973,789	74,181,742				
S39	535,761,799	462,195,144	87,066,417	86,387,294				
S40	652,052,581	574,299,283	124,414,117	112,443,358				
S41	733,975,451	653,934,426	130,089,909	117,913,834				
S42	807,872,949	750,263,894	159,923,031	141,536,391				
S43	1,010,799,683	911,607,985	228,272,717	200,256,069				
S44	1,519,724,405	1,361,688,921	286,346,040	243,926,993				
S45	2,305,415,764	2,167,875,974	326,397,449	282,637,693				
S46	4,738,077,041	4,621,862,278	367,484,486	332,260,276				
S47	4,075,982,732	3,642,847,073	440,428,754	418,763,652			112,146,434	111,515,968
S48	4,596,971,394	4,067,855,970	476,957,711	444,378,506			788,874,749	787,954,193
S49	6,171,608,677	6,069,869,133	638,125,248	615,504,264			1,286,471,469	1,281,808,073
S50	5,440,072,366	5,397,134,952	778,660,582	719,207,249			790,557,881	787,799,300
S51	6,007,986,026	5,764,568,747	943,749,464	868,834,734			500,087,461	487,562,661
S52	12,448,931,364	11,955,770,726	1,095,465,421	999,337,926			632,687,210	627,173,195
S53	10,576,524,467	10,020,577,935	1,220,250,634	1,190,299,231			738,084,560	723,070,384
S54	13,105,362,814	12,263,581,426	1,366,290,513	1,343,924,092			954,957,300	937,384,401
S55	14,808,804,586	14,254,502,181	1,569,906,565	1,517,337,499			1,097,910,242	1,081,984,737
S56	17,218,326,156	16,753,852,996	1,765,789,452	1,692,456,484			1,250,343,787	1,235,483,893
S57	17,246,276,082	15,845,194,375	1,814,626,653	1,770,885,539			1,920,991,896	1,829,158,564
S58	21,737,440,812	20,652,575,239	1,775,534,878	1,711,803,321			1,362,208,880	1,327,969,404
S59	22,033,355,964	20,756,765,010	2,046,896,849	1,965,545,157			1,802,702,978	1,679,341,867
S60	22,187,707,687	20,751,130,874	2,254,298,866	2,117,094,254			1,949,254,759	1,801,843,312
S61	23,459,556,306	21,587,126,197	2,403,151,415	2,357,780,444			1,754,186,770	1,708,060,867
S62	25,767,160,559	24,539,860,145	2,413,582,516	2,346,254,222			2,615,549,351	2,487,028,939
S63	29,005,255,964	27,817,342,441	2,548,135,308	2,481,946,060			2,647,738,533	2,412,324,352
H 1	29,069,937,227	27,762,103,955	2,707,049,097	2,630,484,314			3,020,887,890	2,646,840,150
H 2	32,099,375,164	30,568,518,671	2,775,985,620	2,702,461,479			3,191,267,141	2,791,191,100
H 3	34,652,931,735	33,035,959,989	2,829,890,807	2,743,489,244			2,851,277,423	2,710,508,276
H 4	39,603,283,314	38,317,133,569	3,020,121,238	2,921,105,350			2,844,339,411	2,747,709,168
H 5	37,525,722,318	36,106,232,632	3,137,830,185	3,015,908,016			3,298,702,373	3,106,287,311
H 6	35,162,546,577	33,694,062,819	3,379,716,095	3,299,180,224			3,792,927,641	3,695,488,037
H 7	37,706,421,658	36,261,809,402	3,475,108,340	3,383,232,690			3,014,872,422	2,855,239,882
H 8	37,630,701,366	35,663,666,788	3,763,692,761	3,516,550,875			3,166,674,975	3,121,035,473
H 9	41,577,483,613	40,065,953,946	3,863,333,584	3,726,772,174			3,427,503,817	3,379,381,649
H 10	38,961,623,403	37,587,586,763	4,326,569,272	4,145,782,610			3,797,829,112	3,717,689,436
H 11	42,211,340,958	40,683,959,595	4,797,111,247	4,546,203,540			3,464,174,763	3,383,539,350
H 12	42,019,815,039	40,081,606,715	5,212,326,606	4,877,691,407			3,630,647,688	3,534,306,341
H 13	45,340,629,318	43,084,373,508	5,438,599,253	5,178,781,200			3,162,598,146	3,086,487,393
H 14	44,509,898,719	42,261,487,400	5,523,470,096	5,214,947,198			2,561,589,329	2,509,552,779
H 15	43,611,946,488	41,634,295,263	5,922,777,664	5,853,841,592			2,631,940,501	2,575,216,702
H 16	43,989,636,311	42,514,804,966	6,299,380,589	6,197,740,416			2,469,664,283	2,412,950,362
H 17	48,226,113,868	45,765,031,526	7,228,425,504	6,697,110,947	18,458,666	7,610,502	2,338,007,144	2,272,095,277
H 18	53,226,764,098	50,488,411,929	9,327,115,484	9,057,306,632	142,522,631	126,417,910	2,357,935,725	2,189,475,537
H 19	52,762,183,430	50,546,106,533	10,235,471,320	10,072,210,808	153,749,350	136,087,767	2,252,774,517	2,156,960,838
H 20	57,919,971,132	53,354,990,384	10,502,589,612	10,258,280,185	172,922,358	154,675,789	2,117,684,312	2,054,023,742
H 21	59,596,822,575	56,950,789,731	11,092,158,947	10,552,413,577	172,174,627	150,902,072	2,177,753,110	2,118,921,589

	公設地方卸売市場		老人保健		介護保険		農業集落排水	
	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出
S29								
S30								
S31								
S32								
S33								
S34								
S35								
S36								
S37								
S38								
S39								
S40								
S41								
S42								
S43								
S44								
S45								
S46								
S47								
S48								
S49	82,856,898	75,096,059						
S50	126,360,894	124,684,162						
S51	152,969,279	151,271,914						
S52	156,894,708	154,986,086						
S53	242,934,838	241,925,835						
S54	305,463,277	303,492,157						
S55	266,256,653	263,824,131						
S56	255,945,967	255,150,420						
S57	254,979,460	252,262,579	84,455,100	80,391,968				
S58	255,947,225	246,995,948	1,205,921,132	1,135,162,675				
S59	1,967,238,839	1,961,309,437	1,326,900,777	1,270,488,263				
S60	352,393,561	346,008,803	1,387,033,041	1,351,727,948				
S61	324,073,251	319,423,500	1,508,190,138	1,483,934,844				
S62	379,352,175	364,208,890	1,653,199,683	1,621,191,668				
S63	687,402,483	679,422,567	1,855,385,255	1,803,849,230				
H 1	462,875,732	456,373,396	2,057,138,690	2,048,621,012				
H 2	493,768,613	480,336,454	2,137,536,512	2,092,201,887				
H 3	502,003,920	486,868,749	2,397,473,325	2,385,091,446				
H 4	567,250,493	559,896,911	2,571,368,647	2,570,949,220				
H 5	492,439,543	484,313,040	2,680,374,348	2,665,812,766				
H 6	442,769,408	430,604,950	2,915,064,391	2,903,843,302				
H 7	449,474,001	444,365,422	3,388,939,319	3,238,882,218				
H 8	468,714,336	464,524,581	3,905,234,565	3,745,543,558				
H 9	491,462,403	468,764,339	4,194,840,313	4,001,684,238				
H 10	424,101,431	419,871,647	4,359,139,413	4,239,310,349				
H 11	421,065,703	406,842,628	4,599,226,888	4,488,491,650				
H 12	411,258,106	395,484,222	4,657,742,046	4,400,403,698	1,842,113,821	1,524,860,072		
H 13	399,058,373	392,907,628	4,816,411,195	4,609,560,695	2,312,500,641	2,077,087,824		
H 14	387,740,680	376,648,082	4,901,149,543	4,785,029,955	2,350,080,846	2,233,557,215		
H 15	373,679,452	364,383,353	4,717,960,066	4,685,432,672	2,476,886,582	2,402,227,992		
H 16	420,166,378	402,718,812	4,772,210,064	4,693,343,400	2,651,320,293	2,565,516,737		
H 17	249,768,990	238,207,568	5,124,101,940	4,841,604,391	2,826,911,700	2,683,177,614	8,778,137	4,366,850
H 18	244,117,954	240,518,463	6,629,016,959	6,423,053,391	3,658,393,263	3,361,398,078	615,072,839	607,945,114
H 19	247,697,815	238,902,737	6,596,631,471	6,528,964,333	3,954,293,039	3,689,359,349	407,444,496	396,026,055
H 20	277,574,703	266,208,952	685,687,762	684,012,385	4,080,045,514	3,894,106,277	325,375,457	320,094,713
H 21	242,819,136	221,986,927	28,457,022	24,196,620	4,210,017,788	4,051,737,911	169,342,641	161,241,473

	後期高齢者医療		学校給食センター		交通災害共済		と畜場	
	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出
S29								
S30								
S31								
S32								
S33							998,825	979,252
S34							1,304,483	1,257,133
S35							1,166,900	1,120,713
S36							1,219,942	1,149,116
S37							1,456,839	1,360,857
S38							1,350,702	1,324,204
S39							1,603,188	1,499,088
S40							2,062,910	1,719,314
S41			27,321,457	27,313,245			4,175,266	2,405,494
S42			26,147,132	25,947,905	3,301,048	1,206,198	5,428,452	2,136,678
S43			82,085,548	81,750,121	6,018,004	3,265,526	6,586,594	4,812,502
S44			69,990,298	69,518,590	8,647,073	6,346,227	5,110,222	2,899,501
S45			91,299,695	90,417,743	8,887,042	4,437,421	6,287,831	3,257,428
S46			100,990,302	99,666,251	12,316,257	10,423,379	9,269,001	3,095,189
S47			146,592,143	145,461,604	9,098,689	6,651,182	23,298,024	22,478,616
S48			305,930,339	264,908,158	10,765,461	8,579,385	20,390,168	16,774,382
S49			400,811,353	398,112,169	12,431,013	10,983,163	21,403,076	16,448,667
S50			297,073,588	296,375,915	11,613,453	11,335,836	17,122,472	12,809,051
S51			334,093,084	333,594,159	11,056,220	7,688,853		
S52			397,658,009	395,483,874	14,541,771	10,658,670		
S53			713,784,741	712,494,522	16,175,291	14,510,794		
S54			654,813,719	654,041,168	15,253,537	11,001,251		
S55			586,327,941	583,872,284	16,172,658	14,301,197		
S56			649,179,117	648,305,858	18,449,062	15,606,029		
S57			700,197,778	691,862,995	20,026,057	19,938,405		
S58			743,835,538	720,515,555	18,091,070	17,266,171		
S59			719,346,788	710,815,063	19,634,283	19,475,427		
S60			736,380,765	734,940,785	19,666,777	17,925,948		
S61			748,976,205	743,105,403	19,409,356	17,880,030		
S62			747,999,464	745,837,328	19,908,432	17,563,318		
S63			814,627,929	810,057,048	20,623,493	20,296,803		
H 1					21,498,035	21,156,367		
H 2					24,834,947	24,682,036		
H 3					27,892,446	27,681,147		
H 4					31,228,873	30,235,899		
H 5					34,678,580	33,752,419		
H 6					33,229,612	30,509,918		
H 7					32,414,141	29,018,342		
H 8					32,127,241	27,309,272		
H 9					29,348,834	24,623,872		
H 10					29,704,454	27,754,252		
H 11								
H 12								
H 13								
H 14								
H 15								
H 16								
H 17								
H 18								
H 19								
H 20	653,577,524	645,338,118						
H 21	687,094,919	682,388,280						

	国保(施設)		証紙		農業構造改善		上水道	
	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出
S29	1,289,339	1,183,366					6,002,793	5,137,204
S30	1,366,734	1,363,332					7,611,647	6,415,342
S31	1,476,895	1,473,239					11,277,847	9,335,174
S32	1,431,143	1,423,328					12,939,116	9,462,805
S33	1,609,451	1,474,281					33,371,362	32,707,458
S34	1,939,899	1,789,306					11,824,088	9,977,531
S35	1,825,665	1,589,543					14,613,120	12,792,193
S36	292,749	290,369					22,413,686	20,105,039
S37	478,345	477,723			8,691,293	8,691,293	17,860,318	14,814,440
S38	332,204	327,810			40,683,213	40,244,673	19,760,544	17,181,677
S39	414,686	400,677	2,078,310	2,046,470			21,140,700	19,078,234
S40	14,009	14,009	2,236,780	2,236,780			21,813,861	19,200,235
S41							26,111,444	22,297,421
S42								
S43								
S44								
S45								
S46								
S47								
S48								
S49								
S50								
S51								
S52								
S53								
S54								
S55								
S56								
S57								
S58								
S59								
S60								
S61								
S62								
S63								
H 1								
H 2								
H 3								
H 4								
H 5								
H 6								
H 7								
H 8								
H 9								
H 10								
H 11								
H 12								
H 13								
H 14								
H 15								
H 16								
H 17								
H 18								
H 19								
H 20								
H 21								

会計別決算状況

(単位:円)

	簡易水道(三里塚)		簡易水道(宗吾)	
	歳入	歳出	歳入	歳出
S29				
S30				
S31				
S32	5,550,674	5,395,294		
S33	1,085,558	737,057		
S34	1,214,786	914,090		
S35	1,357,236	844,865		
S36	1,658,556	1,139,734		
S37	1,951,709	1,295,256		
S38	2,106,218	1,823,668	9,819,365	9,640,075
S39	1,861,784	1,557,682	2,028,510	1,729,325
S40	1,897,867	1,531,086	2,182,983	1,399,031
S41	1,986,481	1,421,491	2,909,057	1,537,064
S42				
S43				
S44				
S45				
S46				
S47				
S48				
S49				
S50				
S51				
S52				
S53				
S54				
S55				
S56				
S57				
S58				
S59				
S60				
S61				
S62				
S63				
H 1				
H 2				
H 3				
H 4				
H 5				
H 6				
H 7				
H 8				
H 9				
H 10				
H 11				
H 12				
H 13				
H 14				
H 15				
H 16				
H 17				
H 18				
H 19				
H 20				
H 21				

	水道				簡易水道(成田市)			
	収益の収入	収益の支出	資本の収入	資本の支出	収益の収入	収益の支出	資本の収入	資本の支出
S29								
S30								
S31								
S32								
S33								
S34								
S35								
S36								
S37								
S38								
S39								
S40								
S41								
S42	36,281,071	25,488,832	36,000,000	44,382,690				
S43	40,294,519	30,053,506	0	9,610,597				
S44	43,481,509	34,105,439	19,899,000	28,969,349				
S45	52,658,708	44,988,598	20,418,325	29,974,175				
S46	76,871,913	48,857,573	2,330,000	17,733,421				
S47	96,707,417	51,731,406	263,715,000	311,708,877				
S48	104,133,682	95,385,905	332,091,000	317,275,914				
S49	149,355,470	139,397,735	332,540,690	419,098,299				
S50	175,657,489	178,140,692	33,016,000	31,477,317				
S51	164,352,186	193,117,989	2,401,000	39,441,778				
S52	219,759,660	202,568,954	34,244,574	39,625,549				
S53	281,445,105	216,489,194	12,135,000	64,463,743				
S54	274,790,493	232,670,989	103,440,345	138,395,890				
S55	278,188,942	279,922,850	95,048,000	257,017,950				
S56	323,798,443	285,471,055	79,806,860	136,217,151				
S57	407,159,459	301,825,886	228,523,000	257,062,836				
S58	426,608,977	326,641,186	186,168,000	267,850,636				
S59	449,615,187	356,675,626	96,936,000	145,963,852				
S60	469,131,733	372,490,570	47,226,000	190,180,935				
S61	497,443,776	428,942,977	39,490,000	131,133,056				
S62	469,026,565	436,601,155	87,184,000	167,907,870				
S63	508,506,802	464,797,808	159,417,000	240,349,063				
H 1	573,226,641	499,275,138	435,736,140	415,487,564				
H 2	657,177,121	555,030,980	327,087,540	344,450,885				
H 3	688,826,420	567,684,395	596,707,930	638,222,294				
H 4	986,881,910	688,048,803	1,488,751,910	1,708,007,064				
H 5	979,770,461	941,455,783	995,905,103	1,174,502,472				
H 6	1,141,869,328	1,016,673,174	332,838,269	516,321,760				
H 7	1,327,157,162	1,040,721,352	650,998,725	851,342,588				
H 8	1,347,548,046	1,054,299,461	910,663,578	1,089,831,023				
H 9	1,464,647,996	1,228,680,584	2,549,327,463	3,088,144,363				
H 10	1,431,561,777	1,334,035,412	1,214,852,589	2,055,518,559				
H 11	1,467,993,515	1,545,305,352	1,448,897,807	1,851,029,956				
H 12	1,895,475,883	1,637,277,374	1,572,471,325	1,927,354,739				
H 13	1,872,847,304	1,721,613,307	96,036,990	530,999,525				
H 14	1,800,403,192	1,633,993,017	119,469,513	559,779,388				
H 15	1,892,149,811	1,622,556,775	399,315,802	932,163,102				
H 16	1,881,128,972	1,600,352,057	114,245,875	644,146,001				
H 17	1,895,479,733	1,616,207,284	166,811,250	852,680,407	350,094	350,094	210,017	210,017
H 18	1,983,840,887	1,639,660,573	313,318,800	1,612,431,447	236,057,469	211,577,145	1,006,481,053	1,012,451,983
H 19	1,880,900,952	1,679,020,011	290,229,195	1,511,251,956	268,219,660	263,441,091	377,013,871	399,444,412
H 20	1,918,750,924	1,725,628,738	1,000,798,056	1,798,879,894	259,434,600	256,295,645	221,903,555	278,613,004
H 21	1,814,254,131	1,717,476,063	1,204,042,978	1,424,736,701	242,397,367	242,394,648		51,281,706

主なできごと

年 度	主 な で き ご と
S29	7ヵ町村が合併して「成田市」誕生、市制祝賀式典挙行、「成田市政だより」創刊、第1回市議会議員選挙
S30	第1回全国花火コンクール大会開催、自動点滅式ネオンアーチ(市内第1号)完成、宗吾駐車場完成
S31	国民健康保険制度全市に施行、成田市都市計画税条例制定、市営と畜場完成
S32	農業委員会一本化され成田市農業委員会発足、三里塚簡易水道給水開始
S33	成田中屋内運動場完成、市庁舎落成並びに市制施行5周年記念式典挙行、高架配水塔(東町)完成
S34	市営火葬場完成、根本名川改修工事着工
S35	初のヘリコプターによるマツクイムシ防除実施、水道料金メーター制導入、第1回灯ろう流し実施
S36	塵芥焼却場完成
S37	成田小第1棟校舎完成(市内初の鉄筋校舎)、成田市農業近代化資金利子補給制度発足、体育指導員制度発足
S38	宗吾地区簡易水道給水開始、し尿処理場完成、不動橋完成、ヘリによる初の水稻病害防除実施
S39	公津公民館オープン、市制施行10周年記念式典挙行、中小企業資金融資制度発足
S40	成田市消防本部及び消防署設置、消防庁舎完成、西中校舎完成、学校給食センター(寺台)完成
S41	(財)成田市開発協会設立、閣議で新東京国際空港が三里塚に決定、成田市心身障害児福祉手当支給制度発足
S42	水道事業が企業会計へ移行、甚兵衛大橋、長豊橋開通、市営東和田駐車場完成、西中屋内運動場完成
S43	東町水道管理所完成、豊住小・三里塚小プール完成、県営印旛沼開発事業完工
S44	下総御料牧場閉場、成田ニュータウン造成事業開始、成田空港事業認定告示、財特法公布
S45	土屋資材置き場に一番列車、市街化区域及び市街化調整区域決定、し尿処理場増設
S46	三里塚消防署開設、大谷津野球場完成、三里塚小・遠山中防音校舎完成、桜川市営住宅完成、宗吾地区簡易水道を統合
S47	成田ニュータウン入居開始、向台小開校、加良部保育所(市内第1号)開設、第1回市民運動会開催
S48	加良部小・中台中開校、松崎保育所・中台野球場テニスコート・老人福祉センター・赤坂消防署・赤荻・西和泉・荒海共同利用施設完成
S49	公設地方卸売市場開設、赤坂公民館オープン、西口区画整理事業認可、国際文化会館完成
S50	橋賀台小学校開校、橋賀台保育所・印旛食肉センター開設、騒音区域を指定告示
S51	房総風土記の丘オープン、いずみ聖地公園第1期工事完成
S52	新山小開校、赤荻保育所開設、成田警察署新庁舎完成、いずみ清掃工場完成
S53	吾妻小・吾妻中開校、中台保育所開設、成田空港開港、消防本部庁舎完成、郷部大橋開通
S54	吾妻保育所開設、中央公民館・保健センターオープン、粗大ごみ処理施設完成
S55	愛光園開設、京成成田駅東口及び成田第一区画整理事業認可、51号成田橋完成
S56	玉造小開校、新山保育所開設、成田郵便局新庁舎完成、成田ニュータウン中央線完成

主なできごと

年 度	主 な で き ご と
S57	中台小開校、「コミュニティ成田」創刊、第1回「ミスエアポート&成田」コンテスト開催
S58	久住・橋賀台公民館オープン、飯岡分遣所・中台陸上競技場・中団護台市営住宅・花崎町駐輪場完成
S59	玉造・豊住公民館オープン、休日夜間診療所開設、中台体育館・図書館完成、ホープ計画策定
S60	神宮寺小・玉造中開校、福祉作業所・成田公民館オープン、国際観光モデル地区の指定
S61	西口広場及び駐輪場オープン、商工会館完成、公津東区画整理事業認可、市役所新庁舎建設着工
S62	在宅老人デイ・サービス事業開始、成田クリーンヒル完成
S63	八生公民館・成田観光館オープン、新庁舎(第1期分)・成田クリーンパーク・印東体育館完成
H 1	新公津・中郷公民館オープン、新庁舎竣工記念式典、市制35周年日の丸セット配布
H 2	平成小開校、勤労会館オープン、西口区画整理事業終了、NCTV開局
H 3	加良部公民館オープン、成田商工会議所発足、成田第1区画整理事業終了
H 4	京成東口地下自由通路・栗山駐輪場・八富成田斎場完成、土屋区画整理事業認可、空港第2ターミナル完成
H 5	本城小開校、久住駅前区画整理事業認可、三里塚消防署空港分署完成、東和田・寺台土地区画整理事業認可
H 6	市制施行40周年記念各種行事開催、成田市土地開発公社設立、中台線完成、東口区画整理事業終了
H 7	新市長に小川国彦氏当選、玉造保育所オープン、市営住宅北団護台団地完成、遠山公民館完成
H 8	都市計画税・国保税減税、中台多目的球技場完成、成田市HPを開設、戸籍事務コンピュータ化
H 9	成田空港周辺地域共生財団設立、リサイクルプラザ完成、知的障害者通所授産施設完成
H10	(財)成田市農業センター設立、地域振興券交付事業実施、全国門前町サミット・二宮尊徳サミット開催
H11	土屋区画整理事業供用開始、平成児童ホームオープン、坂田ヶ池総合公園一部供用開始
H12	介護保険制度開始、西中学校新校舎完成、土屋房谷津区画整理事業認可
H13	仲町地区架空線地中化事業完成、ワールドカップサッカーキャンプ地誘致(ナイター照明、芝生整備)完成、公津西区画整理事業認可
H14	暫定平行滑走路供用開始、成田新高速鉄道建設主体設立、保健福祉館本館オープン、いずみ清掃工場改修工事完了
H15	新市長に小林攻氏当選、成田市・下総町・大栄町合併協議会設置、団護台踏切立体交差化完了(なかよしトンネル)、保健福祉館完成
H16	市制施行50周年記念各種行事開催、北羽鳥多目的広場オープン、坂田ヶ池総合公園完成、市民と行政の協働による防犯巡回パトロール開始
H17	成田市・下総町・大栄町の合併により新成田市が誕生、コミュニティバスの運行開始、三里塚コミュニティセンターオープン、公津西区画整理事業供用開始
H18	新市長に小泉一成氏当選、都市計画道路郷部線開通、公津の杜小学校開校、「成田」ナンバースタート
H19	美郷台小学校開校、コミュニティバス北須賀ルートの運行開始、生涯大学校の新校舎が団護台に開校、滑川・高岡地区簡易水道通水開始
H20	駅前番所(えきばん)業務開始、市役所「休日窓口サービス」スタート、十余三パークゴルフ場オープン、八都県市合同防災訓練実施、表参道入口モニュメント設置
H21	豊住中学校閉校、赤坂消防署公津分署完成、中台運動公園施設命名権導入、財政部・健康こども部新設、中台第二保育園完成、移動駅前番所業務開始、成田市観光キャラクター「うなりくん」決定

索引

あ

依存財源	18
一般会計	15
一般財源	68
衛生費	28

か

介護保険特別会計	15
株式等譲渡所得割交付金	22
簡易水道事業特別会計	15
基金	72
起債制限比率	69
基準財政収入額	66
基準財政需要額	66
義務的経費	29
教育費	28
行政コスト計算書	86
繰越すべき財源	40
繰出金	31
形式収支	40
経常収支比率	67
経常的経費	61
下水道事業特別会計	15
決算統計	40
県税からの交付金	23
減税補てん債	49
公営企業会計	40
後期高齢者医療特別会計	15
航空機燃料譲与税	22
公債費	28
公債費比率	69
公債費負担比率	69
公設地方卸売市場特別会計	15
交通安全対策特別交付金	24
国民健康保険特別会計	15
国庫（県）支出金	22
固定資産税	21

固定資産税の評価替え	46
ゴルフ場利用税交付金	23

さ

財政力指数	66
債務負担行為	70
資金収支計算書	87
市債	21
資産老朽化比率	94
自主財源	18
実質赤字比率	82
実質公債費比率	70
実質収支	40
実質収支比率	72
自動車取得税交付金	23
児童手当及び子ども手当特例交付金	23
市民税	21
社会資本形成の世代間比率	94
純資産比率	94
純資産変動計算書	86
償却資産に対する課税の特例	48
消防費	28
将来負担比率	83
人件費	30
水道事業会計	15
性質別経費	29
税源移譲	47
総務費	28
その他の経費	29

た

貸借対照表	86
地方揮発油譲与税	23
地方交付税	24
地方消費税交付金	23
地方譲与税	22
地方特例交付金	23
投資的経費	29

特定財源	68
特別会計	15
土木費	28

な

農業集落排水事業特別会計	15
--------------------	----

は

配当割交付金	22
バランスシート	86
標準財政規模	70
扶助費	30
普通会計	42
普通建設事業費	30
物件費	30
補助費等	31

ま

民生費	28
目的別経費	28

ら

利子割交付金	22
連結実質赤字比率	82
老人保健特別会計	15

